「個別の教育支援計画」の作成Ｑ＆Ａ

～　特別支援学級に在籍する児童生徒のために　～

個別の教育支援計画に基づく話し合いで、

子どもにとって、必要な支援が引き継がれ

安心した学校生活が送れますように・・・

平成２９年３月

長崎県教育委員会

はじめに

平成１９年４月の特別支援教育の法制化や、インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育推進の流れの中、これまで「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」は、一貫した支援を行うための重要な「ツール」として、その作成が求められてきました。そして、次期学習指導要領では、特別支援学級に在籍する児童生徒や通級による指導を受ける児童生徒については、個々の児童生徒の実態を的確に把握し、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を作成し、効果的に活用するものとされています。これは、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を一人一人の障害の状態等に応じた指導や支援が組織的・計画的に行われるよう、全員作成することを意味しています。

このような中、本県においては、平成２８年３月に「個別の教育支援計画の作成Ｑ＆Ａ～通常の学級に在籍する児童生徒のために～」を発刊し、通常の学級に在籍する幼児児童生徒に対して効率よく、かつ効果的に「個別の教育支援計画」を作成・活用できるようにしました。そして、今回は、その対象を特別支援学級に在籍する児童生徒に当てた「個別の教育支援計画の作成Ｑ＆Ａ～特別支援学級に在籍する児童生徒のために～」を発刊することとしました。

今回の発刊において重視したのは、平成 24 年７月の報告「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」で示された、「就学時に決定した『学びの場』は、固定したものではなく、それぞれの児童生徒の発達の程度、適応の状況等を勘案しながら、柔軟に転学ができることを、全ての関係者の共通理解とすることが重要である。」の提言です。したがって、「個別の教育支援計画の作成Ｑ＆Ａ～特別支援学級に在籍する児童生徒のために～」は、特別支援学級に在籍する児童生徒が、各教科等の指導において、何を目標とし、どのような配慮によって、何を学び、どのような評価だったのかを明記できるようにしたことが大きな特徴と言えます。今後、対象となる児童生徒の進級や転学又は進学先の教育課程との連続性が図られ、一貫した指導・支援に役立つ資料になることを願っています。

本県の全ての小・中学校で、積極的に活用していただき、特別な支援を要する幼児児童生徒に「個別の教育支援計画」が作成され、校内で教職員の共通理解による効果的な指導・支援が行われるとともに、転学先や進学先の学校へ確実に引き継がれ、必要な指導・支援が継続し、全ての子どもが充実した学校生活が送れるようになることを期待しています。

目　　次

Ⅰ　Q&A

Q１　「個別の教育支援計画」とは何ですか。　・・１

Q2　「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」はどのような違いがありますか。　・・２

Q３　「個別の教育支援計画」を作成し、どのように活用していけばよいのですか。　・・３

Q４　「個別の教育支援計画」を作成する過程で、関係機関が行っている支援をどのような方法で把握すればよいのですか。　・・３

Q５　これまでの「個別の教育支援計画（平成１９年３月）」の様式と比較して、新しい様式はどのような特徴がありますか。　・・４

Q６　これまでの「個別の指導計画（平成１９年３月）」の様式と比較して、新しい様式はどのような特徴がありますか。　・・５

Q７　特別支援学級に在籍する児童生徒には、必ず「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を作らなくてはならないのですか。　・・６

Q８　「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の様式は、決まった様式があるのですか。　・・６

Q９　「個別の教育支援計画」を作成するための手順と留意点を教えてください。　・・７

Q１０　「個別の指導計画」を作成するための手順と留意点を教えてください。　・・９

Q１１　「合理的配慮」とは何ですか。また、個別の教育支援計画と「合理的配慮」との関係について教えてください。　・・11

Q１２　「児童生徒の継続的な指導・支援のための引継ぎシート」と個別の教育支援計画との関係について教えてください。　・・13

参考資料 ・・14

Ⅱ　様式及び記述上の留意点

・　プロフィール票 ・・17
・　個別の教育支援計画 ・・18
・　個別の指導計画 ・・20
・　個別の教育支援計画（引継ぎ書） ・・22

Ⅲ　事例集

事例１　知的障害学級＜小学校５年（一部下学年代替の教育課程）＞ ・・25
事例２　知的障害学級＜小学校３年（一部知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替える教育課程）＞ ・・31
事例３　知的障害学級＜中学校１年（一部知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替える教育課程）＞ ・・37
事例４　自閉症・情緒障害学級＜小学校５年・知的障害なし＞ ・・43
事例５　自閉症・情緒障害学級＜中学校１年・知的障害なし＞ ・・49
事例６　肢体不自由学級＜小学校６年・知的障害なし＞ ・・55
事例７　弱視学級＜小学校５年・知的障害なし＞ ・・61
事例８　難聴学級＜小学校３年・知的障害なし＞ ・・67
事例９　病弱及び身体虚弱学級＜中学校３年・知的障害なし＞ ・・73
事例１０言語障害学級＜中学校１年・一部下学年代替の教育課程＞ ・・79

Ⅰ　Q&A

Ｑ１　「個別の教育支援計画」とは何ですか。

Ａ

乳幼児期から学校卒業までの長期的な視点に立って、一貫した教育的な支援を行うために、障害のある幼児児童生徒一人一人に作成する長期的な支援計画のことです。

各学校が、保護者をはじめ医療、福祉、労働等の関係機関と連携しながら作成します。

個別の教育支援計画を作成・活用することにより、関係者間で情報を共有し、一貫した指導・支援を継続して行うことができます。

また、個別の教育支援計画の作成・活用については、学習指導要領や関係法令、通知、報告等でも示されています。（Ｐ１４～１６　参考資料を参照）

長崎県では「第二期教育振興基本計画」において、平成３０年度までに幼稚園、小学校、中学校、高等学校での通常の学級における個別の教育支援計画作成率９０％を目標値としています。

作成することで次のようなメリットがあります。

①一人一人の指導目標や指導内容・方法が明確になり、学校で行われる教育内容が障害の状態や発達段階に応じたものになります。

②教育の分野だけでなく医療、福祉、労働等、児童生徒にかかわる様々な立場の人が支援の目標や内容について共通の認識を持つことで、支援の内容が適切なものとなります。

③幼稚園・保育所等から小学校、中学校、高等学校、さらには、その後の教育や就労など、生涯にわたり見通しをもった一貫した指導・支援を継続的に行う上で役に立ちます。

～保護者の方の声～

Ｑ２　「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」はどのような違いがありますか。

Ａ

「個別の教育支援計画」は、本人・保護者の了解を得た上で、その取扱いに留意しつつ、必要に応じて関係機関が情報を一元化し共有しながら活用していくものです。

「個別の指導計画」は、障害のある子ども一人一人の障害の状態や教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導を行うために、学校の教育課程等に基づき、子ども一人一人の指導目標や指導内容・方法等を盛り込んだ指導計画のことです。

	個別の教育支援計画	個別の指導計画
いつ	在園・在校中	在園・在校中
だれが	幼稚園、保育所、認定こども園、学校が（家庭、医療、福祉、労働等の関係機関と連携して）	幼稚園、保育所、認定こども園、学校が
何のために	長期的な視点に立って、関係機関が連携協力して一貫した指導・支援を行うために	幼稚園･保育所や学校で障害の状態や教育的ニーズに応じたきめ細かい指導・支援を行うために
どうする	保護者の承諾を得て、全員作成することが適当である	全員作成することが適当である
対象	診断の有無に関係なく、学校（園）外の他の機関と連携して子どもの教育的ニーズに応じた特別の指導・支援が必要な（今後、必要になる）子ども	診断の有無に関係なく、学校（園）内で子どもの教育的ニーズに応じた特別の指導・支援が必要な子ども

Ｑ３　「個別の教育支援計画」を作成し、どのように活用していけばよいのですか。

Ａ

本人及び保護者、教員（担任、教科担任、支援員、通級指導教室担当教員、管理職等）、関係機関の人々（医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師等）が、個別の教育支援計画に記載されている情報を共有し、それぞれの立場で必要な支援や手立て等の連携を行っていきます。

この個別の教育支援計画を活用し、有効な指導や支援の手立てが継続・発展されるよう、本人及び保護者を中心として、学校、関係機関をつなぐツールにしていくことが大切です。

①教員（学校）と保護者を「つなぐツール」
②必要な指導や支援の手立てを「つなぐツール」
③本人及び保護者の思いや願いを「つなぐツール」
④本人と関わる関係機関にとって必要な情報を「つなぐツール」

Ｑ４　「個別の教育支援計画」を作成する過程で、関係機関が行っている支援をどのような方法で把握すればよいのですか。

Ａ

関係機関（医療、福祉、労働等）が行っている支援内容を学校が把握する方法としては、本人や保護者の承諾を得て、以下の方法などが考えられます。

①本人や保護者と一緒に担任等が関係機関に出向き、見学等をさせてもらうことで支援内容を把握する。
②関係機関（医療、福祉、労働等）から受けている支援内容等について保護者から情報を得る。
③担任等が関係機関（医療、福祉、労働等）の担当者と直接会って支援内容等について把握する。
④関係機関（医療、福祉、労働等）からの文書で把握する。

※　④については、医療機関からの医療文書（診療情報提供書）には料金が発生するので注意しましょう。また、保護者が受け取った医療文書を許可なくコピーすることはできません。

Ｑ５　これまでの「個別の教育支援計画（平成１９年３月）」の様式と比較して、新しい様式はどのような特徴がありますか。

Ａ

これまでの個別の教育支援計画は、個別の教育支援計画の中に個別の指導計画が含まれるという考え方による様式でした。下図のように赤□枠の囲い込み線で示した部分が「個別の教育支援計画」となります。これらの内容を、今回の様式では、図１に示すように集約しました。

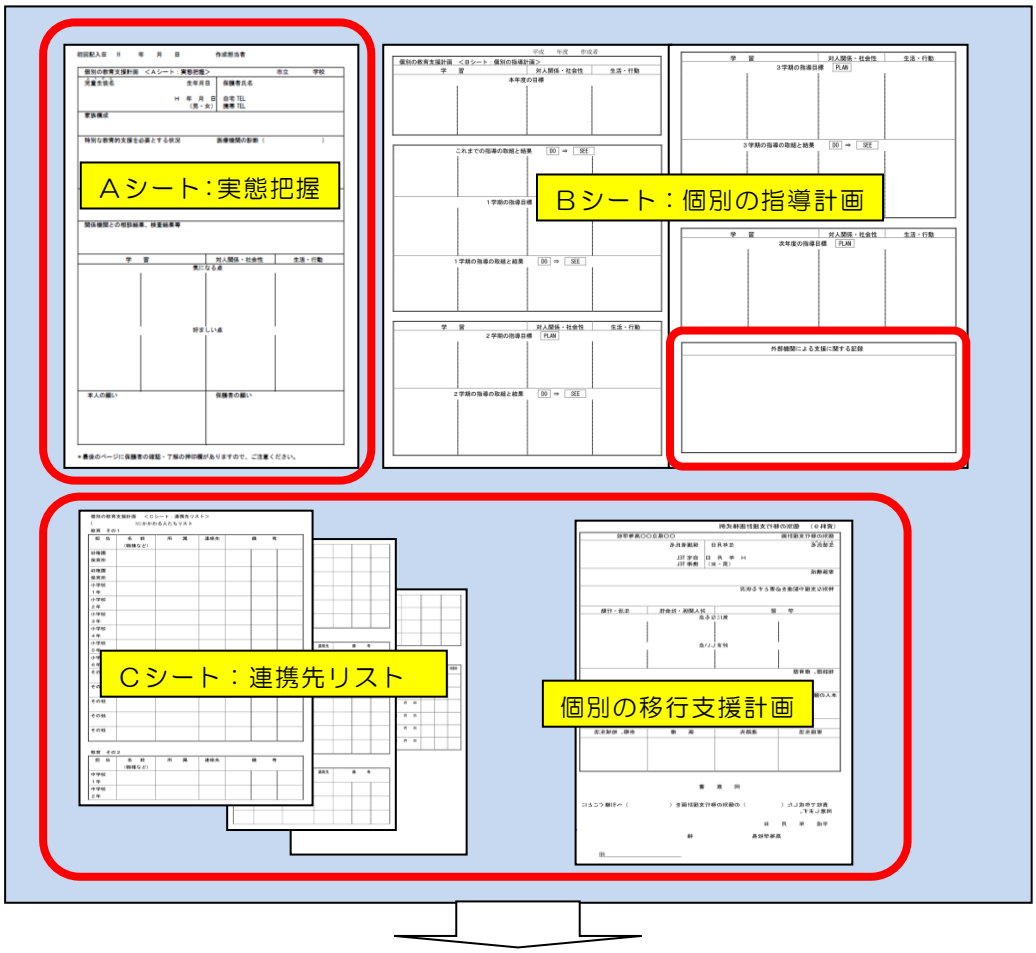


図１　新しい「個別の教育支援計画」の様式

Ｑ６　これまでの「個別の指導計画（平成１９年３月）」の様式と比較して、新しい様式はどのような特徴がありますか。

Ａ

これまでの個別の指導計画は、「学習」「対人関係・社会性」「生活・行動」の各領域の中で、子どもの実態や目標、支援内容等を整理する様式でした。

新しい様式では、児童生徒の実態や障害特性等を基に、各教科等における「目標」「主な指導内容・配慮事項」「評価」「気付き等」を記述するようにしています。また、保護者面談や校内支援委員会の記録や学年末に「教科等についての次年度の方向性」を記述する欄を設けています。

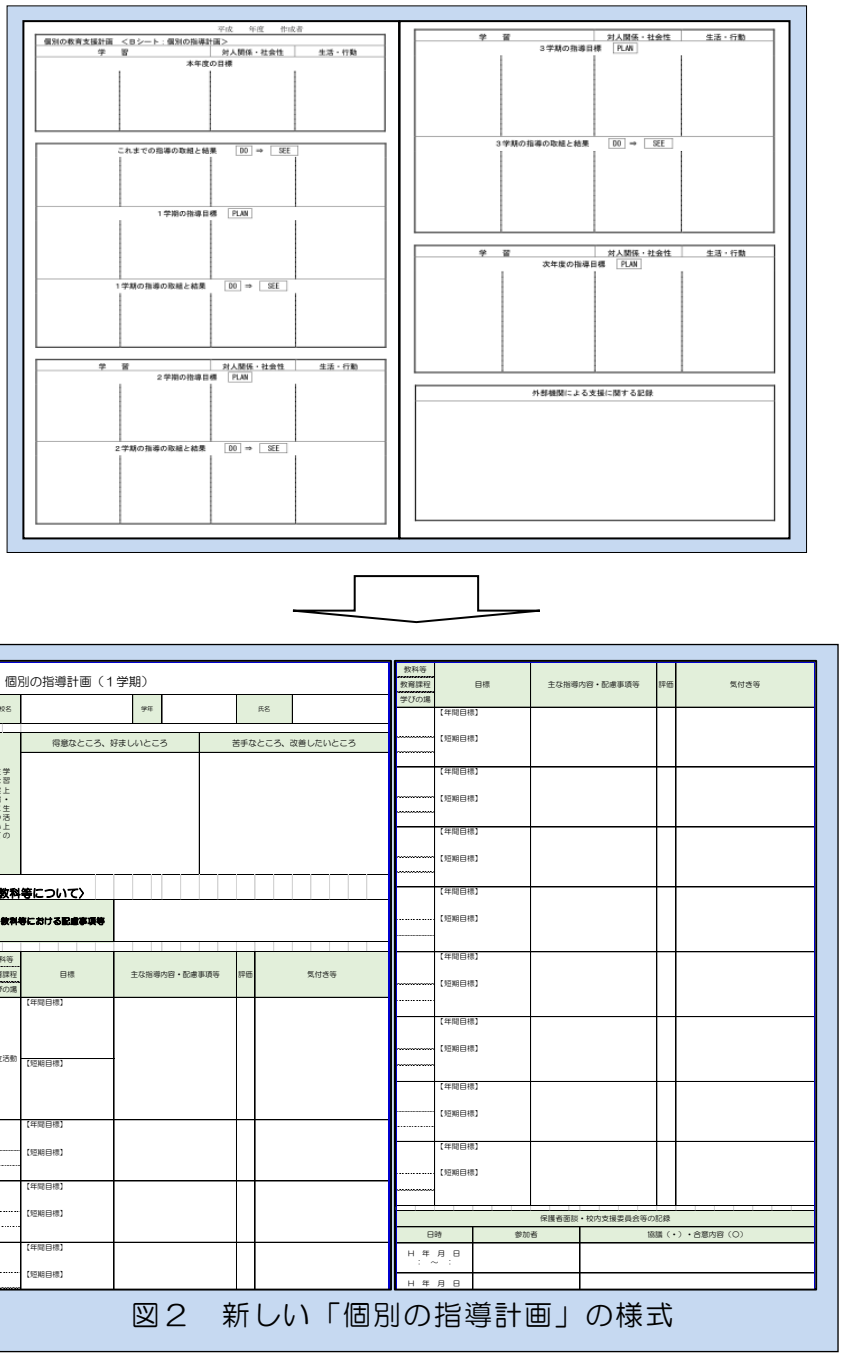


図２　新しい「個別の指導計画」の様式

Ｑ７　特別支援学級に在籍する児童生徒には、必ず「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を作らなくてはならないのですか。

Ａ

中央教育審議会答申（平成２８年１２月）では、「通級による指導を受ける児童生徒及び特別支援学級に在籍する児童生徒については、『個別の教育支援計画』や『個別の指導計画』を全員作成することが適当である。」と示されています。

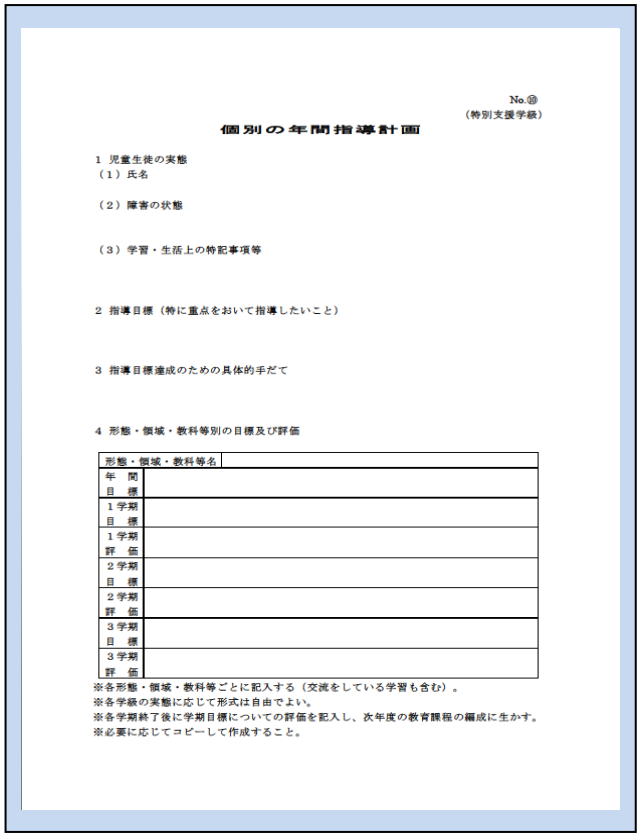
一人一人の教育的ニーズに応じた指導や支援が組織的・継続的に行われるためには「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」は必要です。

特別支援学級の教育課程においても、児童生徒の実態に合った個別の目標を設定し、実践し、適切に評価することが必要です。

Ｑ８　「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の様式は、決まった様式があるのですか。

Ａ

決まった様式はありません。「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」は、児童生徒の実態、支援の方向性、目標、合理的配慮等の記述など、児童生徒の指導・支援のために必要な情報が記載されているものを指しています。



No.⑩
（特別支援学級）

個別の年間指導計画

1 児童生徒の実態
（1）氏名

（2）障害の状態

（3）学習・生活上の特記事項等

2 指導目標（特に重点をおいて指導したいこと）

3 指導目標達成のための具体的手だて

4 形態・領域・教科等別の目標及び評価

形態・領域・教科等名	
年間目標	
1学期目標	
1学期評価	
2学期目標	
2学期評価	
3学期目標	
3学期評価	

※各形態・領域・教科等ごとに記入する（交流をしている学習も含む）。
※各学級の実態に応じて形式は自由でよい。
※各学期終了後に学期目標についての評価を記入し、次年度の教育課程の編成に生かす。
※必要に応じてコピーして作成すること。

ここで紹介している様式をひとつの参考例として、各地域で一貫した取組を行うために様式を統一したり、学校によって様式を工夫したりしながら、児童生徒の成長を支えるためのツールとして活用しやすいように、地域や学校の実態に合わせて工夫・改善して活用してください。

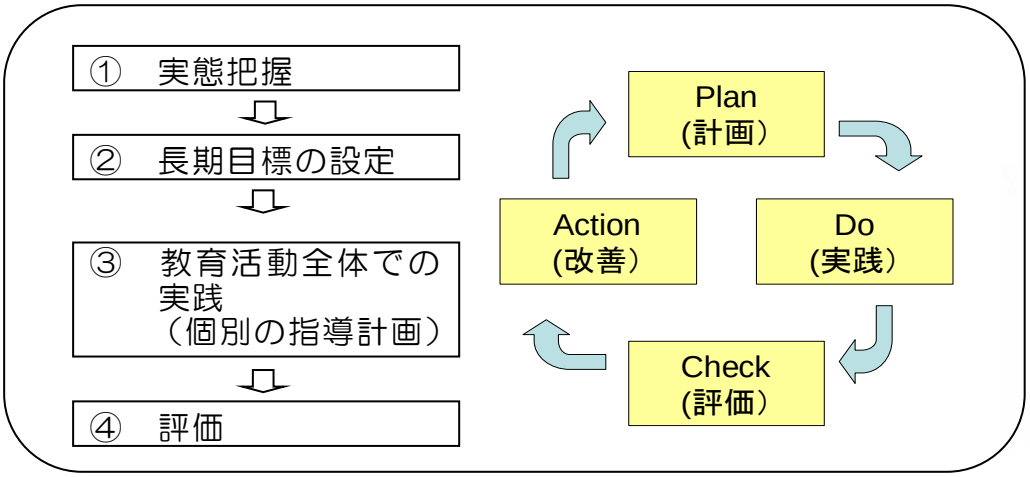
個別の指導計画については、「特別支援学級及び通級指導教室　教育課程編成の手引き」（長崎県教育センターＨＰよりダウンロード可能）の「様式１０・個別の年間指導計画（特別支援学級）」を利用することができます。

Ｑ９　「個別の教育支援計画」を作成するための手順と留意点を教えてください。

Ａ

本書の様式例で作成する場合の手順と、その際の留意点については以下のとおりです。

【「個別の教育支援計画」作成の手順とＰＤＣＡサイクルによる改善】



【個別の教育支援計画】

作成の手順	留意点
①　実態把握 ○プロフィール票 Ｐ17	◆本人に関する情報 氏名、性別、生年月日、学校名、学年、学級等 障害・病気の状況、教育歴について記述する。 ◆家庭に関する情報 住所、連絡先、家族構成等について記述する。 ◆教育相談に関する情報 実施日、相談先、担当者、相談形態、相談内容について記述する。 ＜留意点＞ ・プロフィール表には学校が関係機関等に依頼して実施した相談に関する情報を記述する。その他の教育相談に関する情報は、「個別の教育支援計画」の「関係機関に関する情報」に記述する。
○個別の教育支援計画 Ｐ18	◆本人に関する情報 本人及び保護者の願い、主な実態等（学習上・生活上について、本人が得意なこと、好ましいところ、苦手なところ、改善したいところ）、家庭での困難な点、検査結果等について記述する。 ◆関係機関に関する情報 機関名、担当者名、期間、主な支援内容・助言内容等について記述する。

②　長期目標の設定 〇個別の教育支援計画 P18	◆支援の方向性 長期目標（年間目標）、必要な配慮・支援について記述する。また、保護者と合意形成を図った合理的配慮についても記述する。 ＜留意点＞ ・「個別の教育支援計画」の場合、他の機関と情報を共有し、関係機関とともに取り組む１年間の目標とする。関係機関がない場合、家庭とともに取り組む１年間の目標とする。 ・卒業時の姿を見通した上で立てる。 ・場面や回数、時間を示す等、具体的な姿がイメージできるような表現にする。 ・「～我慢する」「～しない」のような否定的な表現は避け、前向きな表現にする。
③　教育活動全体での実践 〇個別の指導計画 P20	◆特別支援学級では、「個別の指導計画」に、各教科等のそれぞれの指導計画を立てて実践する。 ◆家庭、医療、福祉等の関係機関と共に取り組む。 ＜留意点＞ ・関係機関と連携した取組を行うために、可能な限り情報共有の場や時間を持つようにする。
④　評価 〇個別の教育支援計画（引継ぎ書） P22	◆年度末評価 「長期目標」や、「必要な配慮・支援」について成果と課題等を記述し、評価を行う。 ＜留意点＞ ・複数の目で、適切に評価する。 ・来学期、次年度の計画を立てる。 ・保護者への報告・説明を行う。 ※効果が見られない場合には・・・ →複数の教師で、これまでの指導・支援について見直し、改善する。 →これまでの指導・支援について、外部専門家（特別支援学校等）から助言を受けて改善する。

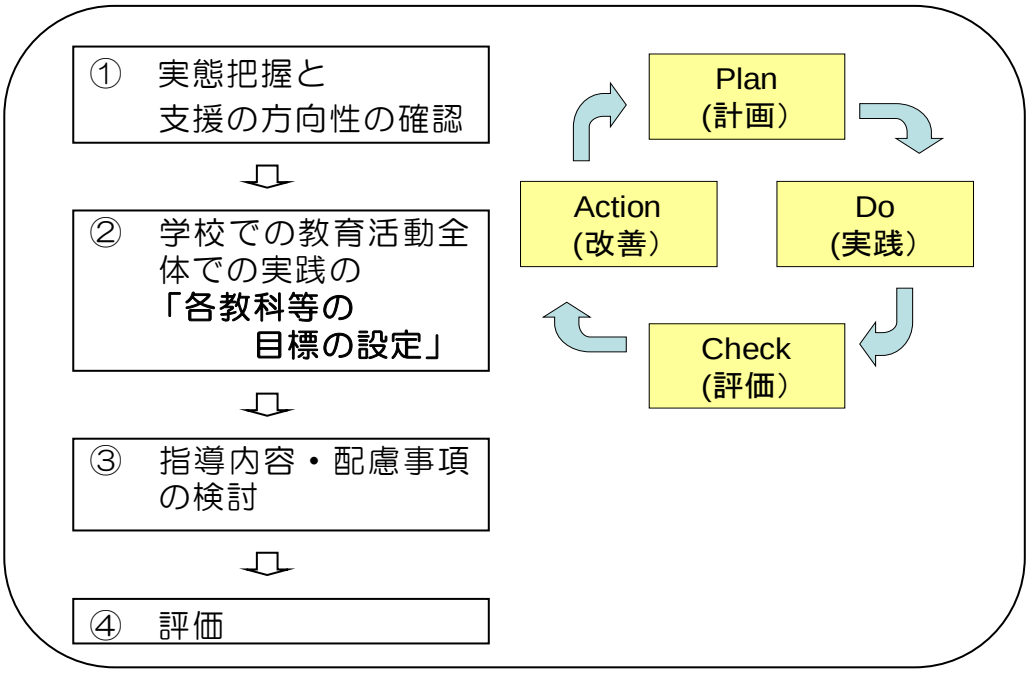
Ｑ１０　「個別の指導計画」を作成するための手順と留意点を教えてください。

Ａ

本書の様式例で作成する場合は、「個別の教育支援計画」における「支援の方向性」を基に、③の「学校での教育活動全体での実践」について具体的に各教科等の指導の「個別の指導計画」を作成します。

作成の手順と、その際の留意点は、以下のとおりです。

【「個別の指導計画」の作成の手順とＰＤＣＡサイクルによる改善】



【個別の指導計画】

作成の手順	留意点
① 実態把握と支援の方向性の確認 Ｐ17、18、19	◆プロフィール表、個別の教育支援計画を確認する。
② 学校での教育活動全体での実践の「各教科等の目標の設定」 Ｐ20	◆目標 年間目標、短期目標を記述する。 ＜留意点＞ ・各教科の教育課程と学びの場を記述する。 ・各教科等の年間目標は、児童生徒の実態に応じて、当該学年の各教科の目標、下学年の各教科の目標、知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科等の目標など学習指導要領を参考に記述する。 ・短期目標は、年間目標（長期目標）を達成するために段階的、順次的あるいは並列的に立てる。

	・短期目標は、各教科等（各指導形態）ごとに設定するが、児童生徒の状態に応じて特に重点的な目標を精選して具体的に記述する。
③　指導内容・配慮事項等の検討 P20	◆主な指導内容・配慮事項等 個別の教育支援計画の「支援の方向性」の「必要な配慮・支援」を踏まえて、具体的な指導内容・配慮事項等を記述する。 ＜留意点＞ ・「主な指導内容・配慮事項等」には、児童生徒の実態に応じて精選する指導内容や具体的な配慮について記述する。また、合理的配慮の観点（Ｐ１６参考資料を参照）からの記述も含む。 （具体的な配慮の視点） ➢　言語的な要求や指示に関すること ➢　視覚的に示された指示や教材に関すること ➢　デモンストレーション（実演）に関すること ➢　ツール（道具）や教材に関すること ➢　環境設定に関すること ➢　支援の仕方に関すること ・枠を広げたり、様式を変更したりすることにより、各教科等を単元ごとに記述してもよい。
④　評価 〇個別の指導計画 P20	◆評価 各学期の評価について、 ◎（十分達成した）、〇（ほぼ達成した）、△（達成が不十分）を記述する。 ◆気付き等 評価（◎、〇、△）の根拠について記述する。 成果や課題等、今後の指導の参考になる事柄を記述する。 ◆次年度の支援の方向性（３学期・後期） 次年度の必要な配慮、支援について記述する。 ＜留意点＞ ・目標の達成度を適切に評価する。 ・来学期、次年度の計画を立てる。 ・保護者への報告・説明を行う。 ※効果が見られない場合には・・・ →複数の教師で、これまでの指導・支援について見直し、改善する。 →これまでの指導・支援について、外部専門家（特別支援学校等）から助言を受けて改善する。

Ｑ１１　「合理的配慮」とは何ですか。また、個別の教育支援計画と「合理的配慮」の関係について教えてください。

Ａ

平成２８年４月１日から「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」いわゆる「障害者差別解消法」が施行されました。

この法律は、障害を理由とする差別の解消を推進することにより、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現につなげることを目的としています。

これにより、各学校においては発達障害を含めた障害のある児童生徒への「不当な差別的取扱い」の禁止、及び「合理的配慮」の提供が義務付けられることになります。

なお、平成２６年４月から施行されている「障害のある人もない人も共に生きる平和な長崎県づくり条例」にも合理的配慮を怠ってはならないことが示されています。

「不当な差別的取扱い」とは、

例えば、

〇学校への入学の出願の受理、受験、入学、授業等の受講や、研究指導、実習等校外教育活動、入寮、式典参加を拒むことやこれを拒まない代わり正当な理由のない条件を付すこと。

〇試験等において合理的配慮の提供を受けたことを理由に、当該試験等の結果を学習評価の対象から除外したり、評価において差をつけたりすることなど、障害のみを理由とした取扱いを行うと差別になります。

「合理的配慮」とは、

例えば、

〇移動に困難のある学生等のために、通学のための駐車場を確保したり、参加する授業で使用する教室をアクセスしやすい場所に変更したりするなど物理的環境への配慮

〇情報保障の観点から、見えにくさに応じた情報の提供を行うことや、意思疎通のための配慮など、負担になり過ぎない範囲で、社会的障壁（障害のある方にとって、日常生活や社会生活、学校生活を送る上で障壁となるもの）を取り除くために必要な配慮を行うことです。

合理的配慮は、障害のある子ども本人等からの申し出があった場合、一人一人の障害の状態や教育的ニーズ等に応じて検討・決定していきます。

その検討の前提として、各学校の設置者及び学校は、子どもの興味・関心、学習上又は生活上の困難、健康状態等の把握をしておく必要があります。このことを踏まえて、学校の設置者及び学校と本人及び保護者が合理的配慮の具体的内容について可能な限り合意形成を図った上で決定し、提供される必要があります。そして、その内容を個別の教育支援計画に明記し、活用していくことが大切です。

新様式では、「必要な配慮・支援」の欄に記載するようにしています。

また、合理的配慮の決定に当たっては、各学校の設置者及び学校が体制面、財政面を勘案し、「均衡を失した」又は「過度の」負担について、個別に判断することになります。

その際、現在必要とされている合理的配慮は何か、何を優先して提供する必要があるかなどについて、関係者間で共通理解を図る必要があります。

※合理的配慮の観点や障害種別の実践事例については、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所が運営する「インクルーシブ教育システム構築支援データーベース」を参考にしてください。

Ｑ１２　「児童生徒の継続的な指導・支援のための引継ぎシート」と個別の教育支援計画との関係について教えてください。

Ａ

平成２７年７月に策定された「児童生徒の継続的な指導・支援のための引継ぎガイドライン」において、児童生徒の進学・進級や転学の際に学校・学年間において統一的な視点で引継ぎを確実に行い、継続した指導・支援を実施していくためのツールとして、「児童生徒の継続的な指導・支援のための引継ぎシート」（以下、「引継ぎシート」）の活用が提案されました。

児童生徒に関する情報を引継ぎ、共有するという点では、個別の教育支援計画と共通するところですが、「引継ぎシート」と個別の教育支援計画の作成の目的や活用の仕方等には、以下のような特徴があります。

なお、個別の教育支援計画の様式を工夫し、生徒指導上の引継ぎを網羅できるようであれば、あえて「引継ぎシート」の作成の必要はありません。

	引継ぎシート	個別の教育支援計画
目的	・生徒指導上の問題行動等の予兆や事実を教師間、学年間、学校間で確実に共有し、問題行動の未然防止や再発防止のために作成	・発達障害を含む障害のある児童生徒に対して、自己のもつ能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加するための必要な力を培うために、長期にわたる関係機関等との連携による支援について作成
対象	・障害の有無に関わらず、問題行動の予兆がある児童生徒に作成	・問題行動や診断の有無に関わらず、障害のある児童生徒に作成
活用の仕方	・校内引継ぎ委員会等において、これまでどのような指導・支援がなされ、今後どのような指導・支援が必要とされるのか相互に共通理解するとともに、危機感を共有するために活用	・療育機関との就学前との引継ぎにおいて、アセスメントの結果やこれまでの支援内容等の情報を引継ぐために活用 ・校内における支援会議において本人や保護者のニーズ、これまでの支援内容等について共有するために活用 ・就労・進学において、学習指導や進路指導に関する情報を引継ぐために活用
保護者への了解の有無	作成・引継ぎの際に、保護者の了解の必要なし	作成・引継ぎの際には、保護者の了解が必要

参考資料

小学校（中学校）学習指導要領（平成２９年３月　告示）

○　障害のある児童（生徒）などについては、特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ、個々の児童（生徒）の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。

○　特に、特別支援学級に在籍する児童（生徒）や通級による指導を受ける児童（生徒）については、個々の児童（生徒）の実態を的確に把握し、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、効果的に活用するものとする。

共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）　（平成２４年７月）

○　可能な限り早期から成人に至るまでの一貫した指導・支援ができるように、子どもの成長記録や指導内容等に関する情報を、その扱いに留意しつつ、必要に応じて関係機関が共有し活用することが必要である。

○　「合理的配慮」は、一人一人の障害の状態や教育的ニーズ等に応じて決定されるものであり、その検討の前提として、各学校の設置者及び学校は、興味・関心、学習上又は生活上の困難、健康状態等の当該幼児児童生徒の状態把握を行う必要がある。これを踏まえて、設置者及び学校と本人及び保護者により、**個別の教育支援計画**を作成する中で、発達の段階を考慮しつつ、「合理的配慮」の観点を踏まえ、「合理的配慮」について可能な限り合意形成を図った上で決定し、提供されることが望ましく、その内容を**個別の教育支援計画**に明記することが望ましい。また、個別の指導計画にも活用されることが望ましい。

障害のある児童生徒等に対する早期からの一貫した支援について（通知）　（平成２５年１０月）

早期からの一貫した支援のためには、障害のある児童生徒等の成長記録や指導内容等に関する情報について、本人・保護者の了解を得た上で、その扱いに留意しつつ、必要に応じて関係機関が共有し活用していくことが求められること。

このような観点から、市町村の教育委員会においては、認定こども園・幼稚園・保育所において作成された**個別の教育支援計画**等や、障害児相談支援事業所で作成されている障害児支援利用計画や障害児通所支援事業所等で作成されている**個別支援計画**等を有効に活用しつつ、適宜資料の追加等を行った上で、障害のある児童生徒等に関する情報を一元化し、当該市町村における「**個別の教育支援計画**」「相談支援ファイル」等として小中学校等へ引き継ぐなどの取組を進めていくことが適当であること。

障害のある人もない人も共に生きる平和な長崎県づくり条例
（平成２６年４月　施行）

（教育における差別の禁止）
第１４条　～（略）～障害を理由として、次の各号に挙げる行為を行ってはならない。
（１）（略）
（２）障害のある人及びその保護者の意見を尊重せず、障害のある人及びその保護者との間で学校教育の場において障害のある人及びその保護者に必要な情報提供を行わないこと、必要な支援に対して合意形成を図ろうとしないこと。
【逐条解説】
「合意形成を図る」とは、～（略）～早期からの継続した教育相談の中で、「必要な情報提供」、「障害のある人及びその保護者からの意見聴取」。「専門家の意見聴取」等を行い、就学先の学校において必要な支援等の内容を**「個別の教育支援計画」**にまとめて提示する等により、障害のある人及びその保護者に分かりやすい説明を心がけ、その内容を理解してもらうことが大切である。

障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律
（障害者差別解消法）
（平成２８年４月　施行）

障害を理由とする差別の解消の推進に関する
長崎県立学校教職員対応要領
（平成２８年７月）

（以下要約）
「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」は、障害を理由とする差別の解消を推進することにより、すべての国民が障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重しあいながら共生する社会の実現につなげることを目的としている。これにより、発達障害を含めた障害のある児童生徒への「不当な差別的取扱い」の禁止、及び「合理的配慮」の提供が義務付けられます。

この法律に基づき、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する長崎県立学校教職員対応要領」の「合理的配慮」の提供に関する「個別の教育支援計画」の作成・活用において、
「学校教育における合理的配慮は一人一人の障害の状態や教育的ニーズ等に応じ、学校及び本人・保護者等により、発達の段階を考慮しつつ合意形成を図った上で提供されるものであり、その内容を『**個別の教育支援計画**』に明記することが望ましい。」と示されています。

中央教育審議会（平成２８年１２月　答申）

通級による指導を受ける児童生徒及び特別支援学級に在籍する児童生徒については「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を全員作成することが適当である。（第８章　５．教育課程全体を通じたインクルーシブ教育システムの構築を目指す特別支援教育）

合理的配慮の観点

（※文部科学省「平成２７年度特別支援教育担当者会議」行政説明資料より）

学校における合理的配慮の観点（３観点１１項目）

①教育内容・方法

①－１　教育内容

①－１－１　学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

①－１－２　学習内容の変更・調整

①－２　教育方法

①－２－１　情報・コミュニケーション及び教材の配慮

①－２－２　学習機会や体験の確保

①－２－３　心理面・健康面の配慮

②支援体制

②－１　専門性のある指導体制の整備

②－２　幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮

②－３　災害時等の支援体制の整備

③施設・設備

③－１　校内環境のバリアフリー化

③－２　発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮

③－３　災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮

Ⅱ　様式及び記入上の留意点

【プロフィール票】

秘

プロフィール票

作成日（　　年　　月　　日）

本人に関する情報	氏名		性別		生年月日	平成　　年　　月　　日　生	才
	学校名				学年等		
	学級等	□ 通常の学級　□ 通級の理由　障害種別			□ 特別支援学級　障害種別		
	障害・病気の状況	診断名					
		手帳の取得状況	手帳	等級		手帳	等級
	教育歴	幼稚園・保育所等					
		小学校					
		中学校					
		高等学校					

家庭に関する情報	住所	〒	家族構成		
			続柄	氏名	備考
	連絡先	☎			
		☎			
	備考				

実施日	相談先	担当者	形態	相談内容

教育相談に関する情報

診断名がある場合は、全て記入する。

教室・学級の障害種を記入する。

保護者の住所、連絡先

兄弟姉妹の所属校・園学年等

保護者に関する特記事項等

下宿・寮等、保護者と別居している場合の現住所等

実施日順に記入する。

○○特別支援学校
教育センター
○○保健所
○○発達支援センター
○○主催、教育相談等

教育相談
訪問支援
発達相談
検査　等

主な相談内容（主訴）を要約して記入する。

【個別の教育支援計画】

秘

個別の教育支援計画

氏名		主な記載者 （本人との関係）		年　　月　　日作成

本人に関する情報

願い

＜本　人＞

＜保護者＞

主な実態

＜学習上、生活上について＞

得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ

＜家庭での困難な点＞

＜検査結果＞

検査名		検査名	
実施機関		実施機関	
実施日		実施日	
結果		結果	
資料等	□ 有り　□ 無し	資料等	□ 有り　□ 無し

関係機関に関する情報

機関名	担当者	期間	主な支援内容・助言内容　等

支援の方向性

＜長期目標＞

＜必要な配慮・支援＞

以上の情報を関係機関と共有することに同意しました。

平成　　年　　月　　日　　保護者氏名　　印

【記入上の留意点】

＜本人に関する情報＞

- 「願い」は、面談等を通じて得た本人や保護者の願いを記述する。
  本人に確認できない場合は、保護者や身近な教員が、本人の思いを汲んで記述する。

- 「学習上、生活上について」（得意なところ、好ましいところ、苦手なところ、改善したいところ）は、指導上の参考となるため、必ず記述する。担任だけの見立てでなく、保護者も含め、複数の目で見て記述する。

- 「家庭での困難な点」は、保護者から聞き取った事柄を記述する。

- 「検査結果」の「結果」は、数値及び主な特性を記述する。「検査報告書」等、検査結果の詳細が分かる資料がある場合、「資料等」の「有り」にチェックをし、別に保管する。

＜関係機関に関する情報＞

- 「関係機関」は、
  - 教育機関（特別支援学校、教育センター等）
  - 医療機関（病院）
  - 療育機関

  等を記入する。

＜支援の方向性＞

- 「長期目標」は、およそ１年後の姿を想定し、具体的に記述する。

- 「必要な配慮・支援」は、本人の障害の状態や特性を考慮し、必要な合理的配慮を記述する。

- 必ず、保護者（必要があれば本人）や複数の教員で検討し、保護者（本人）と共有する。

【個別の指導計画】

㊙ 個別の指導計画（１学期）

学校名		学年		氏名	

学習上・生活上の主な実態について	得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ

〈教科等について〉

各教科等における配慮事項等	

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
自立活動	【年間目標】 【短期目標】			
	【年間目標】 【短期目標】			
	【年間目標】 【短期目標】			
	【年間目標】 【短期目標】			
	【年間目標】 【短期目標】			

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
	【年間目標】 【短期目標】			
	【年間目標】 【短期目標】			
	【年間目標】 【短期目標】			
	【年間目標】 【短期目標】			
	【年間目標】 【短期目標】			
	【年間目標】 【短期目標】			
	【年間目標】 【短期目標】			
	【年間目標】 【短期目標】			

保護者面談・校内支援委員会等の記録		
日時	参加者	協議（・）・合意内容（○）
H　年　月　日 ：　～　：		
H　年　月　日 ：　～　：		
H　年　月　日 ：　～　：		

【記入上の留意点】

複数の教員で検討し、記述する。保護者（本人）の理解が十分得られている場合、保護者（本人）も含めて検討し、保護者（本人）と共有する。

＜学習上・生活上の主な実態について＞

- 「得意なところ、好ましいところ」「苦手なところ、改善したいところ」は、個別の教育支援計画から転記する（児童生徒の変容に応じて加筆・修正する）。

＜教科等について＞

- 「各教科等における配慮事項等」は、個別の教育支援計画の「支援の方向性」の〈必要な配慮・支援〉をもとに、各教科等で共通の配慮事項等を記入する。
- 「教科等　教育課程　学びの場」の「教科」は、児童生徒の実態に応じて編成する教育課程に沿って記述するものとし、「教科名」を記述する。
- 「教科等　教育課程　学びの場」の「教育課程」は、以下に示す教育課程を編成してする場合が考えられ、「〇年」「知的代替」のいずれかを記述する。
  - 小学校・中学校の各教科等を中心とした教育課程
    →「児童生徒の当該学年」を記述
  - 小学校・中学校の下学年の各教科等を中心とした教育課程
    →「児童生徒の当該学年より下の学年」を記述
  - 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科等を中心とした教育課程
    →「知的代替」と記述
- 「目標」は、児童生徒の児童生徒の実態に応じて編成する教育課程に沿って、「当該学年」「〇学年に同じ」とし「知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科等を中心とした教育課程」を編成している場合は具体的な目標を文章で記述する。
- 「主な指導内容・配慮事項等」は、個別の教育支援計画の「必要な配慮・支援」に基づいて、目標を達成させるための重点的な指導内容や必要な配慮事項を具体的に記述する。
- 「評価」は、目標に対する児童生徒の変容を、◎（十分達成した）、〇（ほぼ達成した）、△（達成が不十分）で評価する。
- 「気付き等」は、観点別評価の評価基準を踏まえて、できつつあることなど肯定的な面やつまずきの原因、次年度の方向性（後期用）等を記述する。

＜保護者面談・校内支援委員会の記録＞

- 「参加者」は、保護者面談や校内委員会等の参加者で「校長」「特別支援教育コーディネーター」「担任」「父親」「母親」などを記述する。
- 「協議（・）・合意内容（〇）」は、主な協議内容を「・」印、保護者や職員間で合意形成した内容を「〇」印で示して簡潔に記述し、別資料がある場合は、その旨、記述する。

【個別の教育支援計画（引継ぎ書）】

秘

個別の教育支援計画（引継ぎ書）

氏名		主な記載者（本人との関係）		年　　月　　日作成

本人に関する情報

願い

＜本　人＞

＜保護者＞

主な実態

＜学習・生活上について＞

得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ

＜家庭での困難な点＞

＜検査結果＞

検査名		検査名	
実施機関		実施機関	
実施日		実施日	
結果		結果	
資料等	□ 有り　□ 無し	資料等	□ 有り　□ 無し

関係機関に関する情報

機関名	担当者	期間	主な支援内容・助言内容　等

支援の評価

＜長期目標＞	＜年度末評価＞

＜必要な配慮・支援＞	＜年度末評価＞

以上の情報を引き継ぐことに同意しました。

平成　　年　　月　　日　　保護者氏名　　印

【記入上の留意点】

＜本人に関する情報＞＜関係機関に関する情報＞

- 「個別の教育支援計画」の記述を参考に、児童生徒の変容等を踏まえて記述する。

＜支援の評価＞

- 「長期目標」「必要な配慮・支援」は、「個別の教育支援計画」から転記する。
- 「年度末評価」は、主に教師の支援内容や指導方法等が適切であったかについて評価して記述する。

Ⅲ　事例集

※ 事例集については、様々な障害種、学年を例示しています。それぞれの学校の児童生徒の実態に合わせて参考にしてください。

事例　１

知的障害学級

＜小学校５年

（一部下学年代替の教育課程）＞

秘

プロフィール票

作成日（　　年　　月　　日）

本人に関する情報	氏名	おおむら　たろう 大村　太郎	性別	男	生年月日	平成　　年　　月　　日　生	才
	学校名	○○小学校	学年等	５年			
	学級等	□ 通常の学級　□ 通級の理由　障害種別			■ 特別支援学級　障害種別　知特		
	気の状況 障害・病	診断名	広汎性発達障害、知的障害				
		手帳の取得状況	手帳	等級		手帳	等級
	教育歴	幼稚園・保育所等	○○幼稚園				
		小学校	○○小学校入学				
		中学校					
		高等学校					

家庭に関する情報	住所	〒	家族構成		
			続柄	氏名	備考
			父	大村○○	
	連絡先	☎	母	大村○○	
		☎	弟	大村○○	○○小学校３年
	備考				

教育相談に関する情報	実施日	相談先	担当者	形態	相談内容
	○年○月○日	○○特別支援学校	○○	発達相談	田中ビネー知能検査結果の説明
	○年○月○日	教育センター	○○	訪問支援	特別支援学級での国語・算数の指導について 自立活動の指導目標・内容について

秘

個別の教育支援計画

氏名	大村　太郎	主な記載者（本人との関係）	○○（担任）	年　　月　　日作成

本人に関する情報

願い

＜本　人＞

・交流学級での学習の時も、友達の前で発表したい。

＜保護者＞

・交流学習への参加だけでなく、休み時間に友達と遊ぶなど友達ともっと交流してほしい。

主な実態

＜学習上・生活上について＞

得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
・定着に時間はかかるが、一度身に付いた習慣は守ることができる。 ・ゆっくりではあるが、与えられた課題に最後まで取り組むことができる。 ・教師と関わることが好きで、したいことを単語や身振りで伝えることができる。 ・お気に入りの教材ＤＶＤは、繰り返し見て覚えている。 ・文字や写真、図表などを用いて説明すると内容を理解しやすい。 ・質問に対しては、「はい」「いいえ」で意思表示をすることができる。 ・元気よく挨拶ができる。	・新しい活動や学習では不安が強く、パニックになったりその場を離れようとしたりする。 ・自分の気持ちや考えを的確に表現することが難しい。 ・集団の中で話を聞いて理解することが難しく、話の一部分だけを捉えて行動することがある。 ・気になること（音や物など）があると、集中が途切れやすい。 ・自分の思い通りにできない時に、情緒不安定になることがある。 ・ボタンの留め外しやひも結びなど指先を使う細かな運動が苦手である。また、図工で工作は好きだが思い通りに作ることができないとイライラすることがある。 ・交流学級では、友だちに話しかけることはほとんど見られない。

＜家庭での困難な点＞

・外出時の予定が変わると不機嫌になる。
・衣服へのこだわりがあり、お気に入りの服しか着ない。
・嫌いな食べ物は食べない。

＜検査結果＞

検査名	田中ビネー	検査名	
実施機関	○○特別支援学校	実施機関	
実施日	平成○年○月○日	実施日	
結果	IQ７０	結果	
資料等	■ 有り　□ 無し	資料等	□ 有り　□ 無し

関係機関に関する情報

機関名	担当者	期間	主な支援内容・助言内容　等
○○病院	○○（医師）	○年○月○日～現在	・小児科主治医(○○先生)
○○病院	○○	○年○月より月１回受診	・作業療法（手指の巧緻性を高めるための支援）

支援の方向性

＜長期目標＞

・交流学級の授業の中で、自分の意見を発表したり友達と関わったりしながら学習に取り組むことができる。

＜必要な配慮・支援＞

・特別支援学級で、毎朝時間割の確認を行い、一日の見通しを持たせる。
・学校行事等、通常と異なる活動を行う場合には、事前に時期・時間・内容等を知らせることで、見通しを持つことができるようにする。
・集団の中で情緒が不安定になった時には、教師と一緒にその場を離れてクールダウンを行う。
・身に付けてほしい言葉カードを準備し、語彙を増やしていく。

以上の情報を関係機関と共有することに同意しました。

平成　　年　　月　　日　　保護者氏名　　印

㊙ 個別の指導計画（１学期）

学校名	○○小学校	学年	５年	氏名	大村　太郎

学習上・生活上の主な実態について	得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
	・定着に時間はかかるが、一度身に付いた習慣は守ることができる。 ・ゆっくりではあるが、与えられた課題に最後まで取り組むことができる。 ・教師と関わることが好きで、したいことを単語や身振りで伝えることができる。 ・お気に入りの教材ＤＶＤは、繰り返し見て覚えている。 ・文字や写真、図表などを用いて説明すると内容を理解しやすい。 ・質問に対しては、「はい」「いいえ」で意思表示をすることができる。 ・元気よく挨拶ができる。	・新しい活動や学習では不安が強く、パニックになったりその場を離れようとしたりする。 ・自分の気持ちや考えを的確に表現することが難しい。 ・集団の中で話を聞いて理解することが難しく、話の一部分だけを捉えて行動することがある。 ・気になること（音や物など）があると、集中が途切れやすい。 ・自分の思い通りにできない時に、情緒不安定になることがある。 ・ボタンの留め外しやひも結びなど指先を使う細かな運動が苦手である。また、図工で工作は好きだが思い通りに作ることができないとイライラすることがある。 ・交流学級では、友だちに話しかけることはほとんど見られない。

〈教科等について〉

各教科等における配慮事項等	・一日の見通しとともに、１時間の授業の見通しを持たせるために毎時間のめあてを板書する。 ・学校行事等、通常と異なる活動を行う場合には、事前に時期・時間・内容等を知らせることで、見通しを持つことができるようにする。 ・集団の中で情緒が不安定になった時には、教師と一緒にその場を離れてクールダウンを行う。 ・身に付けてほしい言葉カードを準備し、語彙を増やしていく。

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
自立活動	【年間目標】 ・「仲間に入れて」「困っているので手伝ってください」など場に応じて自分の意思を言葉で伝えることができる。 【短期目標】 ・特定の教師に対して、「～したい（～してほしい）」「○○して△△だった」など自分の気持ちを言葉で伝えることができる。	・さいころトークやすごろくスピーチ等のゲームの中で、友達や教師と会話を楽しむ。 ・困った場面などにおいて、どのような解決方法があるかを考え、ロールプレイをする。 ・交流学級や職員室等に届け物をしたり、用件を伝えたりしながら、いろいろな人とやりとりをする。 ・学校や生活の中で、楽しかったことや苦手だったこと等について発表する。	○	・毎日接する担任、交流担任、教頭、養護教諭には、決まった場面では大きな声で抵抗なく話しかけることができるようになってきた。ただし、場面が変わると自分から話しかけることはほとんどなかった。 ・学校や生活の中で楽しかったことを発表することは、あらかじめ原稿を作り練習しておくことにより、特別支援学級の友達の前では、自信を持って発表することができるようになった。
国語 小学３年 特別支援学級	・第３学年に同じ。（2学年下）	・特に配慮する指導内容は「音読」「経験したことを話す」「聞いて理解する」。 ・音読は教師と一緒に１日５分を目安に行い、内容を確認する。 ・「経験したことを話す」は、「いつ」「だれが」「どこで」「どうした」のカードを示しながら、相手に伝わる内容を意識させる。話す内容の原稿をあらかじめ作っておき練習を重ね、本人の自信がついてから話す場を設定する。 ・「聞いて理解する」は、聞くことが苦手なため、指示は、名前を呼んで視線を教師に向けた後に短く行う。	○	・「経験したことを話す」は、カードの言葉を示すだけでは、経験したことを思い出すことが困難な場合があった。写真を提示すると思い出しやすいようだった。原稿を作って練習しておくことで自信を持って発表することができた。 ・「聞いて理解する」は、名前を呼ばれると、視線を相手に向けるようになったが、話している途中に視線がそれることが多い。
社会 小学４年 特別支援学級	・第４学年に同じ。（1学年下）	・校外学習の事前指導で、日程・注意事項等を十分説明し、安心して参加できるように配慮する。見学先での質問事項はあらかじめ決めておき、ロールプレイで繰り返し練習をさせておく。	◎	・ごみ処理場見学では、事前に練習していた通りに質問をすることができた。
算数 ３年生 特別支援学級	・第３学年に同じ。（2学年下）	・各教科等における配慮事項等に同じ。	○	・特記事項なし。

理科 小学４年 特別支援学級	・第4学年に同じ。（1学年下）	・各教科等における配慮事項等に同じ。	◎	・特記事項なし。
音楽 小学５年 交流学級	・当該学年に同じ。	・支援員を配置し、楽譜には階名を書きこみ支援するなど、本児が学習のねらいを達成するための支援を行う。 ・「鑑賞」は、まず絵カードを指し示すことで気持ちを表現させ、言葉として発表できるように支援する。	○	・支援員を配置したことで、安心して学習参加することができた。 ・「鑑賞」では、拍の流れにのって身体を動かしリズムを感じ取り、自分の気持ちを絵カードから指し示すこともできたが、発表することには抵抗があり難しかった。2学期は、絵カードと文カードを組み合わせて、発表の話形として支援する。
図画工作 小学５年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・「工作」は、はさみやカッター等道具の取り扱い時に「〇〇の上手な使い方カード」で、安全な使用法について確認してから行わせる。 ・「鑑賞」は、好きな作品を指差し「ぼくはこれが好きです」と言葉で言うことができるように促す。	○	・「工作」での道具の取り扱いは、カードの使い方を見て、使用法を意識することにより少しずつできるようになってきている。 ・「鑑賞」は、好きな作品を言葉で言うことができた。2学期は、「理由は、～です。」の話形も加えて発表できるようにする。
体育 小学５年 交流学級	・当該学年に同じ。	・各教科等における配慮事項等に同じ。	◎	・運動の技能については、十分目標を達成している。 ・４月は、ゲームに負けた時に大声で泣いていたが、ゲームを始める前に負けたときの適切な対応についての絵カードを示しておくことにより、次第に負けることへの抵抗感が減ってきている。
家庭 小学５年 交流学級	・当該学年に同じ。	・特に配慮する指導内容は、「生活に役立つものの製作」 ・「生活に役立つものの製作」の単元は、支援員を配置する。裁縫道具の取り扱い時の支援を行うが、本人から必要な時に支援を依頼することができるように「〇〇先生、お願いします」「〇〇先生、教えてください」のカードを作り、使い方を説明しておく。	○	・「生活に役立つものの製作」は、針の糸通し、玉止め玉結びが難しく支援が必要であった。支援が必要なときに、カードを示して合図を出すことはできた。2学期は言葉で支援を求めることができるようにする。
道徳 小学５年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・めあてを板書する代わりに、時間の終わりに「自分でできることは自分でしよう」「ごめんなさいを言おう」「大人には、「です」「ます」で話そう」など本児がわかりやすいような言葉でまとめる。	○	・まとめの言葉があることで、そのような行動をしようという意識づけになった。
外国語活動 小学５年 交流学級	・当該学年に同じ。	・友達との交流を円滑に行うために支援員を配置し、学習内容を本児にわかりやすく個別に補足説明してもらう。 ・ALTに本児の実態を伝え、質問に答えることができなくても笑顔で接し、次への意欲につながるように接してもらう。	○	・絵カードとジェスチャーが多く、単語も日常の外来語と似ているものが多かったため、支援員の補足説明がなくても参加可能であった。 ・ＡＬＴの「Ｇｏｏｄ　Ｊｏｂ」の賞賛で安心して学習に参加していた。
総合的な学習の時間 小学５年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・特に配慮する指導内容は、「平和学習」 ・「平和学習」は、平和集会で発表する言葉を友達と一緒に安心して言うことができるように特別支援学級内での事前練習を繰り返しておく。少人数の前での発表に自信を付けてから交流学級の練習に参加し、言葉のタイミングや場所に慣れるように配慮する。	◎	・「平和学習」は、平和集会で友達と一緒に大きな声で自信を持って担当の言葉を発表することができた。
特別活動 小学５年 特別支援学級及び交流学級	・当該学年に同じ。	・各教科等における配慮事項等に同じ。	△	・〇〇クラブの活動は楽しみにしているが、友達に話しかけることは少なかった。２学期はペアを組んだ相手に「どうぞ」「ありがとう」と言えるように、クラブ全体のルールとして指導していく。 ・委員会の当番や配達係の仕事はやる気はあったものの忘れがちだった。２学期は朝から委員会のネームカードを渡して忘れることへの予防策とする。

保護者面談・校内支援委員会等の記録		
日時	参加者	協議（・）・合意内容（〇）
Ｈ　年　月　日 ：　～　：	保護者、校長、特ＣＯ、担任	・個別の教育支援計画及び個別の指導計画の目標や支援内容等について 〇１学期の目標と支援内容について合意
Ｈ　年　月　日 ：　～　：	全職員	〇１学期の目標と支援内容についての共通理解
Ｈ　年　月　日 ：　～　：	保護者、校長、特ＣＯ、担任	・個別の教育支援計画及び個別の指導計画の目標や支援内容等について 〇１学期の取組内容と評価について、及び２学期の目標と支援内容について合意

秘

個別の教育支援計画（引継ぎ書）

氏名	大村　太郎	主な記載者（本人との関係）	○○（担任）	年　月　日作成

本人に関する情報

願い

＜本　人＞

・交流学級での学習の時に、もっと友達の前で発表したい。

＜保護者＞

・交流学習への参加だけでなく、休み時間に友達と遊ぶなど友達ともっと交流してほしい。

主な実態

＜学習上、生活上について＞

得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
・定着に時間はかかるが、一度身に付いた習慣は守ることができる。 ・ゆっくりではあるが、与えられた課題に最後まで取り組むことができる。 ・教師と関わることが好きで、言葉での交流が増えてきた。 ・文字や写真、図表などを用いて説明すると内容を理解しやすい。 ・質問に対しては、「はい」「いいえ」で意思表示をすることができる。	・新しい活動や学習では不安が強い。 ・自分の気持ちや考えを的確に表現することが難しい。 ・集団の中で話を聞いて理解することが難しく、話の一部分だけを捉えて行動することがある。 ・気になること（音や物など）があると、集中が途切れやすい。 ・交流学級では、友だちに話しかけることは少ない。

＜家庭での困難な点＞

・外出時の予定が変わると不機嫌になる。
・衣服へのこだわりがあり、お気に入りの服しか着ない。
・嫌いな食べ物は食べない。

＜検査結果＞

検査名	田中ビネー	検査名	
実施機関	○○特別支援学校	実施機関	
実施日	平成○年○月○日	実施日	
結果	IQ７０	結果	
資料等	■ 有り　□ 無し	資料等	□ 有り　□ 無し

関係機関に関する情報

機関名	担当者	期間	主な支援内容・助言内容　等
○○病院	○○（医師）	○年○月○日～現在	・小児科主治医(○○先生)
○○病院	○○	○年○月より月１回受診	・作業療法（手指の巧緻性を高めるための支援）

支援の評価

＜長期目標＞

・交流学級の授業の中で、自分の意見を発表したり友達と関わったりしながら学習に取り組むことができる。

＜年度末評価＞

・年度当初より、授業中の交流学級での発表が増えた。友達との関わり方は、今後の課題である。

＜必要な配慮・支援＞

・特別支援学級で、毎朝時間割の確認を行い、一日の見通しを持たせる。
・学校行事等、通常と異なる活動を行う場合には、事前に時期・時間・内容等を知らせることで、見通しを持つことができるようにする。
・集団の中で情緒が不安定になった時には、教師と一緒にその場を離れてクールダウンを行う。
・身に付けてほしい言葉カードを準備し、語彙を増やしていく。

＜年度末評価＞

・一日の見通しや、行事への事前準備、クールダウンの支援は大変有効で、３学期はパニックになることはなかった。今後も引き続き行うことが必要であるが、支援の量を減らしていくことができそうである。
・発表するための支援として、原稿を準備することや言葉カードで視覚的な支援をしたことが有効であった。語彙はもっと増やしていく必要がある。

以上の情報を引き継ぐことに同意しました。

平成　年　月　日　　保護者氏名　　印

事例　２

知的障害学級

＜小学校３年(一部知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替える教育課程)＞

秘

プロフィール票

作成日（　　年　　月　　日）

本人に関する情報	氏名	おおむら　はなこ 大村　花子	性別	女	生年月日	平成　　年　　月　　日　生	才
	学校名	○○小学校			学年等	３年	
	学級等	□ 通常の学級　□ 通級の理由　障害種別				■ 特別支援学級　障害種別　知特	
	気の状況 障害・病	診断名	知的障害、心房中隔欠損症				
		手帳の取得状況	療育　手帳	等級	Ａ２	手帳	等級
	教育歴	幼稚園・保育所等	○○幼稚園				
		小学校	○○小学校入学				
		中学校					
		高等学校					

家庭に関する情報	住所	〒	家族構成		
			続柄	氏名	備考
			父	大村○○	
	連絡先	☎	母	大村○○	
		☎	姉	大村○○	○○小学校５年
	備考				

教育相談に関する情報	実施日	相談先	担当者	形態	相談内容
	○年○月○日	○○特別支援学校	○○	地域支援	国語や算数の指導について

秘

個別の教育支援計画

氏名	大村　花子	主な記載者（本人との関係）	○○（担任）	年　　月　　日作成

本人に関する情報

願い

＜本　人＞

・友達と一緒に過ごしたい。

＜保護者＞

・日常生活で自分でできることを増やして欲しい。

主な実態

＜学習上・生活上について＞

得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
・名前を呼ばれると手を挙げて応答することができる。 ・友だちに話しかけられると笑顔になることが多い。 ・簡単な指示は理解できることが多い。 ・毎日のルーティンは、促されて取り組むことができる。 ・音楽が大好きで、曲に合わせて楽しそうに身体を動かす。 ・発音が不明瞭であるが、一音ずつ教師の言葉を真似しようとする。	・トイレを知らせることができない。 ・ボタンの留めはずし等の日常の動作で苦手なところがある。 ・相手の様子を見ながら教室を飛び出すなど、相手の反応を見て行動する様子がある。 ・言葉の理解が十分でなかったり数が理解できなかったりするため、指示通りの行動ができないことがある。

＜家庭での困難な点＞

・好きなものしか食べない。嫌いなものは口に入れても吐き出す。
・着替え等に時間がかかり、親が手伝うことが多く、苦手なことはすぐに親にしてもらおうとする。

＜検査結果＞

検査名	田中ビネー	検査名	
実施機関	○○病院	実施機関	
実施日	平成○年○月○日	実施日	
結果	IQ３０	結果	
資料等	■ 有り　□ 無し	資料等	□ 有り　□ 無し

関係機関に関する情報

機関名	担当者	期間	主な支援内容・助言内容　等
○○病院	○○（医師）	○年○月○日～現在	・小児科主治医(○○先生)
○○病院	○○	○年○月より半年毎に受診	・持病の定期検診

支援の方向性

＜長期目標＞

・トイレの意思表示等、相手に自分の気持ちを伝え、自分でできることを増やす。

＜必要な配慮・支援＞

・簡単な指示は理解できるので、教師が積極的に話しかけることにより意思表示の機会を増やす。
・指示の後は本児の自らの行動を待ち、過度の支援にならないように配慮する。
・できるだけ生活年齢相応の対応をする。
・日常と違う行事等の際には、絵カード等を利用して、先の見通しを持てるように支援する。

以上の情報を関係機関と共有することに同意しました。

平成　　年　　月　　日　　保護者氏名　　印

㊙ 個別の指導計画（１学期）

学校名	○○小学校	学年	３年	氏名	大村　花子

学習上・生活上の主な実態について	得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
	・名前を呼ばれると手を挙げて応答することができる。 ・友だちに話しかけられると笑顔になることが多い。 ・簡単な指示は理解できることが多い。 ・毎日のルーティンは、促されて取り組むことができる。 ・音楽が大好きで、曲に合わせて楽しそうに身体を動かす。 ・発音が不明瞭であるが、一音ずつ教師の言葉を真似しようとする。	・トイレを知らせることができない。 ・ボタンの留めはずし等の日常の動作で苦手なところがある。 ・相手の様子を見ながら教室を飛び出すなど、相手の反応を見て行動する様子がある。 ・言葉の理解が十分でなかったり数が理解できなかったりするため、指示通りの行動ができないことがある。

〈教科等について〉

各教科等における配慮事項等	・簡単な指示は理解できるので、教師が積極的に話しかけることにより意思表示の機会を増やす。 ・指示の後は本児の自らの行動を待ち、過度の支援にならないように配慮する。 ・できるだけ生活年齢相応の対応をする。 ・日常と違う行事等の際には、絵カード等を利用して、先の見通しを持てるように支援する。

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
自立活動	【年間目標】 ・教師に「はい」「いいえ」や「したい」「ください」を身振りや絵カードを示して伝えることができる。 【短期目標】 ・教師の質問に、「○カード」「×カード」のどちらかを指差して「はい（する）」「いいえ（しない）」を伝える。	・「○カード」「×カード」のどちらかを指差して「はい（する）」「いいえ（しない）」については、興味関心の高いもの（音楽を聴く）等から取り組む。 ・「○」「×」の因果関係を理解させる。 ・○×カードの因果関係が理解できてきたら、身振り（首を立てに振る○、首を横に振る×」で表現させる。	○	・「音楽を聴く」かどうかを、「○カード」「×カード」を指差して意思表示することは、何度か取り組むことでできるようになった。 ・身振りで意思表示（首を立てに振る時は○、首を横に振る時は×）についてもできつつある。 ・「トイレ」については、「トイレに行く？」の質問に意思表示できるようになってきたが、自分から身振りでトイレに行きたいと表現することはまだ見られない。「トイレ」の身振りを定着させる必要がある。
国語 知的代替 特別支援学級	【年間目標】 ・自分の名前のひらがなが分かり書くことができる。 ・教師が指示した絵カードを選ぶことができる。 【短期目標】 ・自分の名前のひらがなが分かる。	・学習のパターンを「今日のお話」「五十音表の読み」「名前のひらがななぞり」「積み木で身近で身近な言葉を作る」「読み語り」でルーティン化する。	○	・ルーティンの学習時に「次は何ですか」と言う質問に、教材を指差して答えることができた。
算数 知的代替 特別支援学級	【年間目標】 ・１０までの数が分かり書くことができる。 ・色や形、大小の弁別ができる。 【短期目標】 ・５までの数が分かり書くことができる。	・ルーティンとして、パズルボックス、１０までの数さしリング、数字カード並べ、数字のなぞり書き、５までの指遊びを行う。	△	・３までの数は、数字を見て具体物をそろえることができた。 ・数字を書くことは、大きくなぞり書きすることも難しかったが、３までの指示された数字カードを選ぶことはできた。
音楽 小学３年 交流学級	【交流及び共同学習の目標】 ・友達と一緒に表現する楽しさを味わう。 ・いろいろな音楽を聴く活動を楽しむ。	・交流担任の指示を補足説明し、器楽演奏支援等のために支援員を配置する。	○	・リコーダーは、階名の理解や運指が難しかった。２学期以降は、デスクベル等本児が扱いやすい楽器で代替演奏させたい。

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
図画工作 小学３年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・鑑賞については、校内の子どもたちの作品や身近な美術作品を鑑賞することにより、たくさんの作品に親しむ経験を増やし、よさや面白さを感じ取ることができるように配慮する。	○	・教師や友達から作品について話しかけられたり認められたりすることが多く、笑顔で喜びを表現していた。
体育 小学３年 交流学級	【交流及び共同学習の目標】 ・運動を楽しく行い、体力をつける。 ・参加の仕方やルールの工夫を考えながら、できる運動に挑戦する。	・支援員を配置し、マンツーマンで体調面の変化を観察し安全面に十分留意する。 ・学習内容を変更・調整することで、交流学級の場で楽しく運動できるようにする。 ・保健の内容は、特別支援学級で指導する。	○	・リレーでは、バトンゾーンやワープゾーンを利用して走る距離を短くして走った。 ・水泳指導時には、唇の色や肌の様子の変化に気をつけ、無理のないように参加させた。
総合的な学習の時間 小学３年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・テーマは同学年と同じものを扱い、指導は特別支援学級で行う。 ・指導内容については、同学年と連携を取り合いながら、特に共同的に学ぶということを意識した部分を選択して行う。	○	・地域のふれあい清掃に参加し、ごみ拾い活動を行った時には、お辞儀をして挨拶をすることができた。

〈教科等を合わせた指導について〉

日常生活の指導 知的代替 特別支援学級	【年間目標】 ・社会生活のいろいろなルールを理解する。 ・友達と仲良くし、日常の生活や学習に進んで取り組もうとする。 【短期目標】 ・あいさつをすることができる ・日直の仕事をすることができる。	・時間割上で毎日１校時に設定し、カレンダーの学習、天気、健康観察、一日の予定の確認、あいさつ指導等からなる朝の会を行う。決まったルーティーンで安定した学校生活を送ることができるようにする。	○	・朝の会は、順番カードを見ながら行うことにより、ルーティンとして身に付いた。 ・時間割を忘れて自分で教室移動していないことがあったが、交流学級の背面黒板の１日の時間割の横に本児の時間割カードを貼って、交流学級の友達にも予定が分かるようにしており、友達が声をかけている様子も見られた。 ・カレンダー学習は、毎日継続している。数字を指差し一緒に数えているが、理解はまだ十分ではい。
生活単元学習 知的代替 特別支援学級	【年間目標】 ・自然に親しみ季節の変化を感じ取ることができる。 ・地域の人々の社会生活に興味を持つことができる。 【短期目標】 ・植物の成長に興味を持つことができる。 ・校外での安全な歩き方ができる。	・同学年の理科や社会の校外学習の時には、内容目標等検討し、できるだけ担任同伴で参加する。 ・学級園での野菜作りを年間活動として行い、日常生活の時間に毎朝、水やりと草取りを行うようにする。	○	・社会の校外学習「校区内探検」に担任と一緒に参加した。担任が一緒にいれば、手をつながずに安全に歩くことができた。 ・学級園の水やりは、一箇所だけに集中してしまいがちで「シャワーを上に向けて」「次は○○」という具体的な指示を出しながら行った。草取りは、毎日５本ずつ一緒に数えながら行った。

保護者面談・校内支援委員会等の記録		
日時	参加者	協議（・）・合意内容（○）
Ｈ　年　月　日 ：　～　：	保護者、校長、特CO，担任	・個別の教育支援計画及び個別の指導計画の目標や支援内容等について ○1学期の目標と支援内容について合意
Ｈ　年　月　日 ：　～　：	全職員	○1学期の目標と支援内容についての共通理解
Ｈ　年　月　日 ：　～　：	保護者、担任	・個別の教育支援計画及び個別の指導計画の目標や支援内容等について ○1学期の取組内容と評価について、及び2学期の目標と支援内容についての合意

秘　個別の教育支援計画（引継ぎ書）

氏名	大村　花子	主な記載者（本人との関係）	○○（担任）	年　月　日作成

本人に関する情報

願い

＜本　人＞
・友達と一緒に過ごしたい。

＜保護者＞
・日常生活で自分でできることをもっと増やして欲しい。

主な実態

＜学習上・生活上について＞

得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
・名前を呼ばれると手を挙げて応答することができる。 ・友だちに話しかけられると笑顔になることが多い。 ・簡単な指示は理解できることが多い。 ・毎日のルーティンは、始まりの合図で取り組むことができる。 ・音楽が大好きで、曲に合わせて楽しそうに身体を動かす。 ・発音が不明瞭であるが、一音ずつ教師の言葉を真似しようとする。	・小さいボタンの留めはずし、ひも結び等の日常の動作で苦手なところがある。 ・相手の様子を見ながら、相手の反応を見て行動する様子がある。 ・言葉の理解が十分でなかったり数が理解できなかったりするため、指示通りの行動ができないことがある。

＜家庭での困難な点＞
・好きなものしか食べない。嫌いなものは口に入れても吐き出す。
・着替え等に時間がかかり、親が手伝うことが多く、苦手なことはすぐに親にしてもらおうとする。

＜検査結果＞

検査名	田中ビネー	検査名	
実施機関	○○病院	実施機関	
実施日	平成○年○月○日	実施日	
結果	IQ３０	結果	
資料等	■ 有り　□ 無し	資料等	□ 有り　□ 無し

関係機関に関する情報

機関名	担当者	期間	主な支援内容・助言内容　等
○○病院	○○（医師）	○年○月○日～現在	・小児科主治医(○○先生)
○○病院	○○	○年○月より半年毎に受診	・持病の定期検診

支援の評価

＜長期目標＞	＜年度末評価＞
・トイレの意思表示等、相手に自分の気持ちを伝え、自分でできることを増やす。	・トイレの意思表示ができるようになったほか、指差し、ジェスチャー、絵カードを使うことにより、意思表示できることが増えコミュニケーションがとりやすくなった。
＜必要な配慮・支援＞	＜年度末評価＞
・簡単な指示は理解できるので、教師が積極的に話しかけることにより意思表示の機会を増やす。 ・指示の後は本児の自らの行動を待ち、過度の支援にならないように配慮する。 ・できるだけ生活年齢相応の対応をする。 ・日常と違う行事等の際には、絵カード等を利用して、先の見通しを持てるように支援する。	・カードやジェスチャーで意思表示する方法は有効であった。 ・過度の支援になりすぎないように共通理解したことにより、教師がじっくり対応することができるようになった。

以上の情報を引き継ぐことに同意しました。

平成　年　月　日　保護者氏名　印

事例　３

知的障害学級

＜中学校１年(一部知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替える教育課程)＞

秘

プロフィール票

作成日（　　年　　月　　日）

本人に関する情報	氏名	おおむら　たろう 大村　太郎	性別	男	生年月日	平成　　年　　月　　日　生	才
	園・学校名	○○中学校			学年等	１年	
	学級等	□ 通常の学級　□ 通級の理由　障害種別				■ 特別支援学級　障害種別　知特	
	障害・病気の状況	診断名	知的障害、自閉症				
		手帳の取得状況	療育　手帳	等級	Ａ２	手帳	等級
	教育歴	幼稚園	○○幼稚園				
		小学校	○○小学校入学				
		中学校	○○中学校入学				
		高等学校					

家庭に関する情報	住所	〒	家族構成		
			続柄	氏名	備考
			父	大村○○	
	連絡先	☎	母	大村○○	
		☎	妹	大村○○	○○小学校４年
	備考				

教育相談に関する情報	実施日	相談先	担当者	形態	相談内容
	○年○月○日	○○特別支援学校	○○	地域支援	特別支援学級における教科指導について
	○年○月○日	教育センター	○○	訪問支援	自立活動の指導における目標や内容について

秘

個別の教育支援計画

氏名	大村　太郎	主な記載者（本人との関係）	○○（担任）	年　　月　　日作成

本人に関する情報

願い

＜本　人＞

・学校では落ち着いて学習に取り組みたい。

＜保護者＞

・パニックになることを減らして、落ち着いて学校生活を送ってほしい。
・できるだけ周りの友達と関わる機会を増やし、仲良くなってほしい。

主な実態

＜学習上・生活上について＞

得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
○好きなアニメのキャラクターの名前をよく覚えている。 ○自分の名前や「父」「母」、漢数字等の簡単な漢字は書ける。 ○５までの数字の足し算や引き算であれば、指を使って計算ができる。具体物を使えば、２０までの数字であれば足し算や引き算ができる。 ○係の仕事や作業等、約束を守って熱心に取り組むことができる。 ○元気よく挨拶ができる。 ○食べ物の好き嫌いがなく、よく食べる。 ○相撲やボールを使った簡単な遊びを楽しく行い、特にボールを投げたり、転がしたり、打ったりすることが得意である。 ○好きなテレビ番組やDVDの物まねを身振り手振りを交えて楽しく表現できる。	○ひらがな・カタカナは、手本がないと書くことが難しい文字がある。 ○言葉が不明瞭である。 ○長い時間姿勢を保持することが難しい。 ○衣服の着脱に時間がかかり、ボタンを留めることが難しい。 ○排泄のタイミングが掴めず、尿失禁をしてしまうことがある。 ○気分にむらがあり、機嫌が悪いときには動こうとしない。 ○好きなことに夢中になると、時間や約束を忘れてしまい、次の行動へ移ることが難しい。 ○活動に関係なく、前日に見たテレビ番組の物まねをして、自分のペースで過ごそうとするところがある。 ○周りの友達に対して、強い口調で不快を訴えることがある。

＜家庭での困難な点＞

・自分の設定したスケジュール通りに取り組む傾向が強く、急な変更等に対応できず、情緒不安定になってしまう。

＜検査結果＞

検査名	田中ビネー	検査名	
実施機関	○○特別支援学校	実施機関	
実施日	平成○年○月○日	実施日	
結果	IQ４０	結果	
資料等	■ 有り　□ 無し	資料等	□ 有り　□ 無し

関係機関に関する情報

機関名	担当者	期間	主な支援内容・助言内容　等
○○病院	○○（医師）	○年○月○日～現在	・かかりつけ医
○○病院	○○	○年○月より月１回受診	・作業療法（手指の巧緻性を高めるための支援）

支援の方向性

＜長期目標＞

・スケジュールを見て、見通しを持ちながら、落ち着いて学習できる。
・情緒不安定になったときには、休憩スペースで落ち着くことができる。

＜必要な配慮・支援＞

・特別支援学級等で、毎朝時間割の確認を行い、一日の見通しを持たせる。
・見通しを持たせるためにモデルやスケジュールを提示するとともに、情緒が不安定なときは、状況を見て、教室内の休憩スペースでクールダウンを行う。
・各教科等においては、日常生活に関連したり興味関心のある題材等を設定し、生活に必要な基礎的・基本的な読み書き計算の力が身に付くようにする。
・情緒が不安定なときは、状況を見て、教室内の休憩スペースでクールダウンを行う。

以上の情報を関係機関と共有することに同意しました。

平成　　年　　月　　日　　保護者氏名　　印

㊙ 個別の指導計画（１学期）

学校名	○○中学校	学年	１年	氏名	大村　太郎

	得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
学習上・生活上の主な実態について	○好きなアニメのキャラクターの名前をよく覚えている。 ○自分の名前や「父」「母」、漢数字等の簡単な漢字は書ける。 ○５までの数字の足し算や引き算であれば、指を使って計算ができる。具体物を使えば、２０までの数字であれば足し算や引き算ができる。 ○係の仕事や作業等、約束を守って熱心に取り組むことができる。 ○元気よく挨拶ができる。 ○食べ物の好き嫌いがなく、よく食べる。 ○相撲やボールを使った簡単な遊びを楽しく行い、特にボールを投げたり、転がしたり、打ったりすることが得意である。 ○好きなテレビ番組やDVDの物まねを身振り手振りを交えて楽しく表現できる。	○ひらがな・カタカナは、手本がないと書くことが難しい文字がある。 ○言葉が不明瞭である。 ○長い時間姿勢を保持することが難しい。 ○衣服の着脱に時間がかかり、ボタンを留めることが難しい。 ○排泄のタイミングが掴めず、尿失禁をしてしまうことがある。 ○気分にむらがあり、機嫌が悪いときには動こうとしない。 ○好きなことに夢中になると、時間や約束を忘れてしまい、次の行動へ移ることが難しい。 ○活動に関係なく、前日に見たテレビ番組の物まねをして、自分のペースで過ごそうとするところがある。 ○周りの友達に対して、強い口調で不快を訴えることがある。

〈教科等について〉

各教科等における配慮事項等	・各教科等においては、日常生活に関連したり興味関心のある題材等を設定し、生活に必要な基礎的・基本的な読み書き計算の力が身に付くようにする。 ・見通しを持たせるためにモデルやスケジュールを提示するとともに、情緒が不安定なときは、状況を見て、教室内の休憩スペースでクールダウンを行う。 ・一つの活動・学習の終わりが明確に分かるようにタイマー等を活用し、教師の声かけ等の支援を徐々に減らす。

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
自立活動	【年間目標】 ・スケジュールを活用して、三つの内容（活動）について見通しを持ちながら取り組むことができる。 【短期目標】 ・AをしたらBをするなど、二つ内容（活動）が示されたスケジュール表を活用して取り組むことができる。	・「自立活動の指導の時間」を設定せず、各教科等の指導を通じて適切に指導する。	○	・一つ一つの活動（学習内容）は、時間（タイマー）・量・回数などを視覚的に示して見通しを持たせることで好きな活動も終わることができるようになった。 ・一つの活動が終わったら次に何をするのかスケジュールを確認することは定着していない。一つの活動が終わったらスケジュールに線を引かせる（見え消し）ことでスケジュールに注目できるようにする。
国語 知的代替 特別支援学級	【年間目標】 ・自分の思いを書いたり、話したりする力を身に付ける。 【短期目標】 ・ひらがなやカタカナの読み書きができる。 ・経験に基づき、文を書き、読むことができる。	・学級担任による指導を行う。 ・何を書いていいか分からず情緒不安定にならないよう、経験したことをイメージできる写真や絵をもとに「いつ」「どこで」等の項目沿って書かせる。 ・ひらがなやカタカナを読んだり書いたりする場合は、回数、時間等の見通しを持たせてから取り組ませる。	△	・一文字ずつではあるが、ひらがなやカタカナは読むことができるようになった。単語をまとまりとして捉えられず拾い読みすることもある。 ・読み書きの学習中、注意が持続しないので、興味関心を引き付けるような手立てが必要である。
数学 知的代替 特別支援学級	【年間目標】 ・日常生活に必要な初歩的な数量の処理や計算をすることができる。 【短期目標】 ・デジタル時計やカレンダーの使い方が分かる。	・学級担任による指導を行う。 ・スケジュールと時間の関係が理解できるように、プリント学習等にデジタル時計を活用しながら始めたり終わったりする経験を通して理解できるようにする。	○	・ゲームを通して、得点計算をさせることで、数の大小について体験的に学ばせることができた。 ・計算ブロックを使うと、足し算や引き算ができるが、式で示すと即答できない。 ・数唱は、０から２０までは数えることができる。20以降の数字も数えられるように具体物等を使って定着を図る。
音楽 中学1年 交流学級	【交流及び共同学習の目標】 ・校歌を覚え、楽しく歌うことができる。	・支援員を配置する。 ・教科担任に事前に、本時の授業内容を教えてもらい、支援員が携帯用のホワイトボードにスケジュールを提示する。	○	・学級の中では、音楽に合わせて好きなアニメの歌等を元気よく歌うことができるが、交流学習では、恥ずかしがって歌えない様子であった。 ・活動の見通しを持たせ、全体で歌う経験を多く積ませたい。
美術 中学1年 特別支援学級	【交流及び共同学習の目標】 ・表現は教師の作成したモデル等を見ながら色使いを自分なりに工夫して作成できる。	・教科担任による指導を行う。 ・完成のイメージが持ちやすいように、モデルを示すようにするが、色使いはさまざまな色の中から選択しながら描くことができるようにする。	○	・教室で彩色をする際に、風景をタブレットＰＣで確認しながら行ったので、取り組みやすそうであった。

保健体育 中学1年 交流学級	【交流及び共同学習の目標】 ・集団のルールを守り、進んで運動の楽しさを味わい、参加する。	・支援員を配置して、複雑な動きや、具体的な身体の動かし方等は支援員がモデルを示すようにする。 ・球技等におけるルールは、理解できるルールを視覚的に示すようにする。	○	・集団行動では、指示に対して、自ら判断し、行動することは難しいが、支援員がモデルを示したり、周りの生徒の言葉掛け等により活動に参加することができた。 ・新体力テストでは、上体起こしは１回もできなかったが、ハンドボール投げ等、生き生きと活動する姿が見られた。 ・水泳は、小学校からスイミングスクールに通っていたこともあり、水を怖がる様子もなく、楽しそうにしていた。
職業・家庭 知的代替 特別支援学級	【年間目標】 ・ものづくりなどの体験的な活動を通して、生活に必要な基本的な知識や技術を身に付ける。 【短期目標】 ・作業の約束を守って、安全に作業に取り組むことができる。	・学級担任による指導を行う。 ・制作活動では何をどのようにすればよいのか、完成のモデルを示したり、一つ一つの工程を写真等で視覚的に示したりして見通しが持てるようにする。 ・安全面の配慮については、危険な場所や部分等は強調して繰り返し伝え教師と一緒に行うようにする。	◎	・作業の準備、作業活動、作業の片付けなどをスケジュールの提示や繰り返しのある活動に取り組んだことで、主体的に取り組む様子が見られるようになった。
総合的な学習の時間 中学1年 特別支援学級及び交流学級	【年間目標】 ・当該学年に同じ。	・特別支援学級で行うが、内容によっては交流学級で行う。 ・絵や写真等で活動を振り返らせ、情報を整理できるようにする。	◎	・地域探訪を交流学級の友達と一緒に楽しみながら行い、地域の方々にあいさつをすることができた。 ・タブレットＰＣの活用により、交流学習において「書くこと」「意思を伝えること」がスムーズにできるようになった。 ・地域探訪新聞作りでは、活動の様子を絵で描いたり、短い言葉ではあるが、自分の言葉で感想を書くことができた。

〈教科等を合わせた指導について〉

日常生活の指導 知的代替 特別支援学級	【年間目標】 ・時間割を手がかりに一日の見通しを持って行動する。 【短期目標】 ・教師の支援を受けながら日課に沿って行動する。	・朝の会の流れをパターン化し、同じ生活リズムでスタートできるようにする。	○	・自分のペースで過ごそうとするところがあり、気持ちの切り換えをすることが難しかった。対応の仕方や学習課題に向かわせるための意図的な働きかけについて、市内の特別支援教育部会の先生に助言をもらった。 ・情緒が不安定な場合は、登校後にクールダウンできる場所で、好きな活動に取取り組むことで、情緒を安定させることができた。 ・日課表は文字カードで理解できた。
生活単元学習 知的代替 特別支援学級	【年間目標】 ・教科の学習で習得した知識や技能を、実際の生活の中で応用しながら使っていく力を身に付ける。 【短期目標】 ・昆虫やメダカ、ザリガニ等、生きものの飼育活動を通して、育つしくみや命の尊さ、自然とのかかわり方を理解する。 ・身近な地域や日本について、関心を高める。	・本生徒の興味関心が高い活動では、特に終わりを明確に（量、時間等）で示すようにする。 ・情緒が不安定になったときには、安全面を最優先させ、周囲の生徒に怪我等がないように十分配慮する。	○	・メダカやザリガニ等の生き物が好きで、小学校の時の飼育の経験を思い出しながら毎日の日課として世話することができた。 ・地図学習については、課題設定が教師主導であり、学習の有用性を感じさせる働きかけが十分ではなかったため、興味関心を高めることができなかった。 ・日本の各県を理解させるために、地図パズルを使用したが、楽しく学習することができた。
作業学習 知的代替 特別支援学級	【年間目標】 ・各作業を通して、勤労の尊さや喜びを感じ、根気強く働く習慣を身に付ける。 【短期目標】 ・安全に留意して、進んで作業に取り組むことができる。	・工具の使用時は、安全面に留意し必ず教師と一緒に行う。 ・見通しを持ちながら完成の喜びや成就感が味わえるように、作業工程が簡単で、短時間で一つの製品ができるものを取り上げる。	◎	・作業中は、教師の指示に従い、意欲的かつ安全に取り組むことができた。 ・道具や工具の扱い方は、繰り返しながら教師の支援を減らすことで、一人で使えるようになってきた。

保護者面談・校内支援委員会等の記録		
日時	参加者	協議（・）・合意内容（○）
Ｈ　年　月　日 ：　～　：	保護者、校長、特ＣＯ、学年主任、担任、養護教諭	・今年度の本人に対する支援について ○個別の教育支援計画に基づいて今年度の年間目標（短期目標）及び具体的な指導・支援の方向性について ○保護者の意向を受け、交流学習の中で本人についての説明を行う
Ｈ　年　月　日 ：　～　：	全職員	○今年度の年間目標（短期目標）及び具体的な指導・支援の方向性についての共通理解
Ｈ　年　月　日 ：　～　：	保護者、特ＣＯ、学年主任、担任、養護教諭	・個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標や支援内容等について ○1学期の取組内容と評価について、及び2学期の目標と支援内容についての合意

秘

個別の教育支援計画（引継ぎ書）

氏名	大村　太郎	主な記載者（本人との関係）	○○（担任）	年　　月　　日作成

本人に関する情報

願い

＜本　人＞

・学校では落ち着いて学習に取り組みたい。

＜保護者＞

・パニックになることを減らして、落ち着いて学校生活を送ってほしい。
・できるだけ周りの友達と関わる機会を増やし、仲良くなってほしい。

主な実態

＜学習上・生活上について＞

得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
○身近なものや興味関心のあるものはひらがなで書くことができ単語のまとまりとして読むことができる。 ○自分の名前や「父」「母」、漢数字等の簡単な漢字は書ける。 ○５までの数は計算ができる。具体物を使えば、２０までの数字であれば足し算や引き算ができる。 ○係の仕事や作業等、決まったことについては確実に取り組むことができる。 ○元気よく挨拶ができる。 ○食べ物の好き嫌いがなく、よく食べる。 ○運動は友達や教師のモデルを見ながら動きを真似しながら活動することができる。走る、投げるなど動きが明確な身体運動ができる。	○ひらがな・カタカナは、日常生活に関連のないものは書くことが難しい。 ○言葉が不明瞭である。 ○長い時間の活動に見通しを持ちながら取り組むことが難しい。 ○急な変更等に対して情緒が不安定になることがある。 ○好きなことに夢中になると、時間や約束を忘れてしまい、次の行動へ移ることが難しい。 ○自分のペースで過ごそうとするところがある。 ○周りの友達に対して、強い口調で不快を訴えることがある。

＜家庭での困難な点＞

・自分の設定したスケジュール通りに取り組む傾向が強く、急な変更等に対応できず、情緒不安定になってしまう。

＜検査結果＞

検査名	田中ビネー	検査名	
実施機関	○○特別支援学校	実施機関	
実施日	平成○年○月○日	実施日	
結果	IQ４０	結果	
資料等	■ 有り　□ 無し	資料等	□ 有り　□ 無し

関係機関に関する情報

機関名	担当者	期間	主な支援内容・助言内容　等
○○病院	○○（医師）	○年○月○日～現在	・かかりつけ医
○○病院	○○	○年○月より月１回受診	・作業療法（手指の巧緻性を高めるための支援）

支援の評価

＜長期目標＞

・スケジュールを見て、見通しを持ちながら、落ち着いて学習できる。
・情緒不安定になったときには、休憩スペースで落ち着くことができる。

＜年度末評価＞

・各教科等でスケジュールを提示したことで、見通しを持ちながら落ち着いて学習に取り組めるようになってきた。
・急な変更があると不安定になることがあるが、休憩スペースで落ち着くまでの時間が短くなってきている。

＜必要な配慮・支援＞

・特別支援学級等で、毎朝時間割の確認を行い、一日の見通しを持たせる。
・見通しを持たせるためにモデルやスケジュールを提示するとともに、情緒が不安定なときは、状況を見て、教室内の休憩スペースでクールダウンを行う。
・各教科等においては、日常生活に関連したり興味関心のある題材等を設定し、生活に必要な基礎的・基本的な読み書き計算の力が身に付くようにする。
・情緒が不安定なときは、状況を見て、教室内の休憩スペースでクールダウンを行う。

＜年度末評価＞

・一日の見通しを持たせるために、毎朝一日の時間割の確認を行ったが、落ち着いて生活をすることができ、効果が見られた。
・やりたいことに夢中になり過ぎると、授業者の指示や意図が通じず、学習に気持ちが向かわないという面も見られた。好きな活動（絵本）で気分転換を図ったり、落ち着くスペースを活用することで、落ち着いて学習に取り組むことが増えてきた。
・お金、時計（デジタル）、ひらがな、簡単な漢字などを理解できるようになってきた。

以上の情報を引き継ぐことに同意しました。

平成　　年　　月　　日　　保護者氏名　　印

事例　４

自閉症・情緒障害学級

＜小学校５年・知的障害なし＞

秘

プロフィール票

作成日（　　年　　月　　日）

本人に関する情報	氏名	おおむら　たろう 大村　太郎	性別	男	生年月日	平成　　年　　月　　日　生	才
	園・学校名	○○小学校			学年等	５年	
	学級等	□ 通常の学級　□ 通級の理由　障害種別			■ 特別支援学級　障害種別　自・情特		
	気の状況 障害・病	診断名	自閉症				
		手帳の取得状況	手帳	等級		手帳	等級
	教育歴	幼稚園・保育所等	○○幼稚園				
		小学校	○○小学校入学				
		中学校					
		高等学校					

家庭に関する情報	住所	〒	家族構成		
			続柄	氏名	備考
			父	大村○○	
	連絡先	☎	母	大村○○	
		☎	妹	大村○○	○○小学校１年
	備考				

実施日	相談先	担当者	形態	相談内容
○年○月○日	○○特別支援学校	○○	発達相談	就学相談
○年○月○日	教育センター	○○	訪問支援	落ち着いて学習に取り組むための指導・支援について

教育相談に関する情報

秘

個別の教育支援計画

氏名	大村　太郎	主な記載者（本人との関係）	○○（担任）	年　　月　　日作成

本人に関する情報

願い

＜本　人＞
・ＪＲで働きたい。

＜保護者＞
・算数、国語をもっと分かるようようになってほしい。
・学校を楽しく過ごしてほしい。

主な実態

＜学習上・生活上について＞

得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
・計算が速く得意。 ・歴史上の人物や年表を覚えるのが得意。 ・パソコンやタブレットＰＣを使うことが得意。 ・家庭ではゲームをしたり、インターネットのゲームをすることが好き。 ・毎週決まったテレビ番組を見るのが好き。	・漢字を書いたり、覚えたりすることが苦手。 ・文章の理解が苦手。 ・算数の図形や表やグラフの読み取りが苦手。 ・体育等、体を動かすことが苦手。 ・整理整頓が苦手。 ・気持ちやしたいことを言葉で伝えることが難しい。 ・人との距離感や場の雰囲気をつかむことが難しい。 ・休日など急な予定変更があるとパニックになる。 ・少しずつ食べられるものが増えてきているが、偏食があり決まったメニューばかり食べようとする。

＜家庭での困難な点＞
・偏食が強く決まったメニューしか食べない。
・予定を予め教えると落ち着いて過ごすことが増えてきたが、急な予定変更になるとパニックになる。
・外遊びをすることがなく、ゲームやインターネットで遊んでばかりいる。

＜検査結果＞

検査名	ＷＩＳＣ－Ⅳ	検査名	
実施機関	○○教育センター	実施機関	
実施日	平成○年○月○日	実施日	
結果	ＦＳＩＱ８５	結果	
資料等	■ 有り　□ 無し	資料等	□ 有り　□ 無し

関係機関に関する情報

機関名	担当者	期間	主な支援内容・助言内容　等
○○病院	○○（医師）	○年○月○日～現在	・かかりつけ医
○○病院	○○	○年○月より月１回受診	・作業療法（グループでのＳＳＴ）

支援の方向性

＜長期目標＞
・学校の時間割や行事等の予定を確認し一日を落ち着いて過ごすとともに、学習活動の予定を確認することで見通しを持って授業に参加する。
・視覚的な教材や手立てを手がかりに、各教科等の学習内容の理解を深める。

＜必要な配慮・支援＞
・特別支援学級で、週の始めと終わりには週予定表と、また毎朝、時間割の確認させておく。
・活動の流れを視覚的に示すことで活動に対する見通しを持たせる。
・情緒が不安定の時には、集団から離れたり、クールダウンのスペースを使用したりして落ち着かせる。
・図形やグラフ等、着目させたい箇所に印をつけさせる。
・文章等にはイラストや写真を使って説明を補い分かりやすくする。

以上の情報を関係機関と共有することに同意しました。

平成　　年　　月　　日　　保護者氏名　　印

㊙ 個別の指導計画（前期）

学校(園）名	○○小学校	学年	５年	氏名	大村　太郎

学習上・保育上の主な実態について	得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
	・計算が速く得意。 ・歴史上の人物や年表を覚えるのが得意。 ・パソコンやタブレットＰＣを使うことが得意。 ・家庭ではゲームをしたり、インターネットのゲームをすることが好き。 ・毎週決まったテレビ番組を見るのが好き。	・漢字を書いたり、覚えたりすることが苦手。 ・文章の理解が苦手。 ・算数の図形や表やグラフの読み取りが苦手。 ・体育等、体を動かすことが苦手。 ・整理整頓が苦手。 ・気持ちやしたいことを言葉で伝えることが難しい。 ・人との距離感や場の雰囲気をつかむことが難しい。 ・休日など急な予定変更があるとパニックになる。 ・少しずつ食べられるものが増えてきているが、偏食があり決まったメニューばかり食べようとする。

〈教科等について〉

各教科等における配慮事項等	・重要な語句、数値、図形等、着目させたい箇所にマーカーやシールを使って印をつける。 ・文章にはイラストや写真を使って、文章の内容をイメージしやすくする。 ・一時間の見通しを持たせるためにスケジュールを提示するとともに、情緒が不安定なときは、状況を見て、教室内の休憩スペースでクールダウンを行う。

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
自立活動	【年間目標】 ・漢字の偏やつくりをよく見て、正しく書くことができる。 ・自分の感情を理解するとともに、場面や状況に応じて質問したり要求を伝えたりすることができる。 【短期目標】 ・タングラム、ジオボード等補助線や手がかりとなる目印をもとに、見本と同じ形を作ることができる。 ・新しい「コミュニケーションカード」の意味を知り、自分の気持ちやしたいことに併せて選ぶことができる。	・視覚認知、空間認知を高める内容では、スティック体操、タングラム、ジオボード、漢字パズル、タブレットＰＣのビジョントレーニングアプリ等を用いて指導する。（自立活動の時間） ・情緒の安定を図る内容では、「気持ちの温度計」「今、どんな気持ち」「コミュニケーションカード」を用いて、自分の気持ちを表す言葉を増やすとともに、不安になる前に気持ちが落ち着く方法や、周囲の人へ要求を伝える手段について指導する。（自立活動の時間、朝の会、帰りの会） ・活動の流れを示すボードに変更カードを掲示し、変更があることを事前に知らせる。（自立活動の時間、休み時間）	○	・タングラム（5ピース、補助線有）、ジオボード（４×４、ゴム色分け有）は見本を見て間違いなくできる。今後は補助線やゴムの色を徐々に減らしていく。 ・１日の振り返りでは、自分の気持ちをカードで選ぶ際、「たのしい」ばかりを選んでいたが、場面にあわせ、「うれしい」「面白い」等を選ぶことが増えてきた。 ・交流学級担任に「クールダウン」のカードを渡し、その場を離れることができるようになってきた。今後は言葉を添えることやカードを渡した相手の承認を得てから場を離れること等を合わせて指導する。
国語 小学５年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・音読は、教科書に文節ごとに印をつけ、文節を意識して読ませる。教師と一緒に１日1回行い。家庭学習として毎日1回ずつ読むようにする。 ・「いつ」「だれが」「どこで」「どうした」に対応した箇所にマーカーを引かせる。 ・新出漢字の練習は手本に点の箇所や線の数を意識しやすいように印をつける。読みカードと漢字パズルを作成し、家庭学習で取り組ませる。	△	・音読では文節の印を意識して読むことができるようになってきた。 ・物語では場面と場面のつながりをイラストで示したが、全体の話の流れをつかむことは難しかった。 ・「図書館へ行こう」の校外学習は交流学級とともに実施。「立場を決めて討論をしよう」は交流学級の討論会に落ち着いて参加できた。 ・新出漢字の漢字パズルは家庭でも興味を持って取り組んでいる。漢字を書く練習は家庭と連携し８４字に取り組んだ。
算数 小学５年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・「直方体、立方体の体積」では底面、高さを表す箇所を視覚的に分かるようにマーカーで印をつけさせる。 ・「合同」では、角の大きさ、辺の長さ等比べるための手順表をもとに、自分で比べられるようにする。 ・教科書デジタルコンテンツを使用し、量や形の変化を捉えやすくする。	○	・図形にマーカーで示すことで立式に必要な数値を選ぶことができた。 ・手順表があれば立式し、面積を求めることができた。
理科 小学５年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・発芽やメダカの卵の変化等、観察とともに変化カードを作成し、自分でいつでも並び替えて学習できるようにする。 ・記録の際の表やグラフでは、タブレットＰＣを用いて、表の中に数字を書き入れたり、罫線上に点を書いたりしやすくする。	○	・顕微鏡を用いた観察は交流学級で実施。 ・メダカの卵の変化では、細部の変化の違いに気付くことが難しかったが色分けすることで気づくことができた。
社会 小学５年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・気候の特色等、表やグラフの読み取りの際は、文章と表やグラフに出てくる共通の語句に印をつけたり、教科書デジタルコンテンツを活用したりする。	○	・各地区の気候の特徴の一覧表を作成した。グラフや表から読み取るのではなく、一覧表から覚えたことをもとに発表したりプリントに記入したりした。
音楽 小学５年 交流学級	・当該学年に同じ。	・鍵盤ハーモニカの演奏では、鍵盤に色シールを貼り、音階を見やすくする。 ・歌唱では楽曲のＣＤを教室や家庭でも聞けるようにし、歌詞を覚えやすくする。	○	・鍵盤ハーモニカの演奏では、楽譜の音階と鍵盤の対応が難しかった。楽譜にも鍵盤の色シールと同じ色でマーカーで印を付けることで演奏できるようにした。 ・合唱では歌詞をすべて覚えることができたが、メロディーに合わせることが難しかった。

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
保健体育 小学５年 交流学級	・当該学年に同じ。	・集団行動の指導では、モデルとなる児童と共に行動できるようにする。 ・器械運動では、担任が側につく等、安全面に考慮すると共に、マットや跳び箱等、手や足を置く場所に印を付け視覚的に分かりやすくする。 ・運動会のダンス等、動きをＤＶＤで記録し、教室や家庭でも練習できるようにする。	○	・集団行動ではモデルとなる児童の誘導により、周囲に合わせて行動することができた。 ・ダンスはリズムに合わせることは難しく体の動かしはぎこちなかったが、動きの手順を覚えて踊ることができた。
図画工作 小学５年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・色を塗るときは、色見本で塗りたい色を確認しながら教師と一緒に絵の具を混ぜるようにする。 ・カッター等の道具を使用するときは教師や支援員とともに、安全に配慮しながら使用させる。	○	・手に絵の具やのりが付くことを極端に嫌がり授業中でもその都度手を洗いに行く。ビニールの使い捨て手袋等を用いることで、集中して塗ることができるようになってきた。
家庭 小学５年 交流学級	・当該学年に同じ。	・ガスコンロの安全な使い方や換気について指導を十分行うとともに、家庭でも取り扱いに十分留意してもらうよう連携をとる。 ・裁縫道具を使う単元では、支援員を配置し、本人のコミュニケーションカードによる求めに応じて支援する。	△	・雑巾縫いでは、目印をもとに波縫いができた。針通し、玉止め等手先の細かい操作が必要なものは支援員とともに行った。
道徳 小学５年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・「わたしたちの道徳」を用いる。 ・場面や状況、登場人物の会話、心情の変化等、文面から分かることを、イラストや図をもとに補足的に説明する。	△	・「わたしたちの道徳」に合わせて、ワークシートを作成した。教材の場面等はイラスト等をもとに理解できたようであったが、自分の普段の生活等と照らし合わせて考えることは難しいようであった。
外国語活動 小学５年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・ALTには本児の実態を伝え、質問に答えることができなくても笑顔で接してもらうことで、次への意欲につなげる。	◎	・英単語カードには単語の意味や活動に応じたイラストが描かれたものが作られており、本人も分かりやすいようであった。２学期以降は交流学級において学習ができると考える。
総合的な学習の時間 小学５年 交流学級	・当該学年に同じ。	・宿泊体験学習では、交流学級の担任と確認し、副班長等の積極的に活動に関われる役割にする。 ・平和集会で発表する担当の言葉は、友達と一緒に安心してできるように配慮する。	○	・宿泊体験学習では日程表にあわせてスケジュールカードを作成し、落ち着いて過ごす場面が多かった。２日目の午後、事前にスケジュールの中で伝えていたが、雨天のため活動が変更になった際は不安になり活動に参加できなかった。 ・１日目の「午後の集い」では他の学校の参加者等が多く不安を感じ、始めはプレイルームに入れなかったが、集いの途中から参加できた。
特別活動 小学５年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・クラブ活動は、本人の希望によりパソコンクラブに参加。 ・委員会活動は、〇〇委員会で、週１回の当番活動を行う。 ・交流学級で、配り係になり、中休みに連絡帳を配る仕事に取り組ませる。	○	・配り係は毎日、確実に行うことができた。 ・２学期は保健係に取り組ませたい。

保護者面談・校内支援委員会等の記録		
日時	参加者	協議（・）・合意内容（〇）
Ｈ　年　月　日 ：　～　：	保護者　交流担任　担任　教頭	・宿泊体験学習における支援内容について 〇食事について共通理解 〇服薬について共通理解
Ｈ　年　月　日 ：　～　：		

秘

個別の教育支援計画（引継ぎ書）

氏名	大村　太郎	主な記載者（本人との関係）	○○（担任）	年　　月　　日作成

本人に関する情報

願い

＜本　人＞

・ＪＲで働きたい。

＜保護者＞

・算数、国語をもっと分かるようようになってほしい。
・学校を楽しく過ごしてほしい。

＜学習・保育上、生活上について＞

得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
・計算が速く得意。 ・歴史上の人物や年表を覚えるのが得意。 ・パソコンやタブレットＰＣを使うことが得意。 ・家庭ではゲームをしたり、インターネットのゲームをすることが好き。 ・毎週決まったテレビ番組を見るのが好き。	・漢字を書いたり、覚えたりすることが苦手。 ・文章の理解が苦手である。 ・算数の図形や表やグラフの読み取りが苦手。 ・体育等、体を動かすことが苦手。 ・整理整頓が苦手。 ・人との距離感や場の雰囲気をつかむことが難しい。 ・コミュニケーションカードを用いて要求等を伝える場面が増えつつあるが、伝える対象や場面が限られている。 ・急な予定変更があっても視覚的な手がかりがあると活動に移れるが、不安を感じることが多い。 ・少しずつ食べられるものが増えてきているが、偏食があり決まったメニューばかり食べようとする

＜家庭での困難な点＞

・偏食が強く決まったメニューしか食べない。
・予定を予め教えると落ち着いて過ごすことが増えてきたが、急な予定変更になるとパニックになる。
・外遊びをすることがなく、ゲームやインターネットで遊んでばかりいる。

＜検査結果＞

検査名	ＷＩＳＣ－Ⅳ	検査名	
実施機関	○○教育センター	実施機関	
実施日	平成○年○月○日	実施日	
結果	ＦＳＩＱ８５	結果	
資料等	■ 有り　□ 無し	資料等	□ 有り　□ 無し

関係機関に関する情報

機関名	担当者	期間	主な支援内容・助言内容　等
○○病院	○○（医師）	○年○月○日～現在	・かかりつけ医
○○病院	○○	○年○月より月１回受診	・作業療法（グループでのＳＳＴ）

支援の評価

＜長期目標＞

・学校の時間割や行事等の予定を確認し一日を落ち着いて過ごすとともに、学習活動の予定を確認することで見通しを持って授業に参加する。
・視覚的な教材や手立てを手がかりに、各教科等の学習内容の理解を深める。

＜年度末評価＞

・急な予定の変更の際は、不安な表情や落ち着かない様子が見られたが、視覚的に変更内容を示すことで大きく混乱することは無くなった。今後は予定変更に対する不安を自分から周囲の教員に伝え、確認する手立てが必要である。
・マーカーにより重要な言葉や数値等を捉えやすくなっている。今後は自分から印をつけることができるようにしていく。

＜必要な配慮・支援＞

・特別支援学級で、週の始めと終わりには週予定表と、また毎朝、時間割の確認させておく。
・活動の流れを視覚的に示すことで活動に対する見通しを持たせる。
・情緒が不安定の時には、集団から離れたり、クールダウンのスペースを使用したりして落ち着かせる。
・図形やグラフ等、着目させたい箇所に印をつけさせる。
・文章等にはイラストや写真を使って説明を補い分かりやすくする。

＜年度末評価＞

・今後は、特別支援学級のスケジュール（ホワイトボード）を、スケジュール帳等、自分で記入できるものにしていくと実用性が広がる。
・今年度は、クールダウンのスペースを利用することは無かった。
・教科書等の印として赤色の蛍光ペンを使用した。教科書に色が着くこと、間違えて印をつけてしまうことに不快感を示していたが、消せるタイプの蛍光ペンに変更する。

以上の情報を引き継ぐことに同意しました。

平成　　年　　月　　日　　保護者氏名　　印

事例　５

自閉症・情緒障害学級

＜中学校１年・知的障害なし＞

秘

プロフィール票

作成日（　　年　　月　　日）

本人に関する情報	氏名	おおむら　たろう 大村　太郎	性別	男	生年月日	平成　　年　　月　　日　生	才
	園・学校名	○○中学校			学年等	１年	
	学級等	□ 通常の学級　□ 通級の理由　障害種別				■ 特別支援学級　障害種別　自・情特	
	気の状況 障害・病	診断名	アスペルガー症候群				
		手帳の取得状況	手帳	等級		手帳	等級
	教育歴	幼稚園・保育所等	○○幼稚園				
		小学校	○○小学校				
		中学校	○○中学校				
		高等学校					

家庭に関する情報	住所	〒	家族構成		
			続柄	氏名	備考
			父	大村○○	
	連絡先	☎	母	大村○○	
		☎	妹	大村○○	○○小学校１年
	備考				

実施日	相談先	担当者	形態	相談内容
○年○月○日	○○特別支援学校	○○○○	地域支援	WISC-Ⅳ知能検査の実施
○年○月○日	教育センター	○○○○	訪問支援	感情の読み取りが苦手な面への指導 特別支援学級の教育課程について

教育相談に関する情報

秘

個別の教育支援計画

氏名	大村　太郎	主な記載者（本人との関係）	○○（担任）	年　　月　　日作成

本人に関する情報

願い

＜本　人＞

・近隣の工業高校に進学したい。
・数学や国語で平均点が取れるようになりたい。

＜保護者＞

・一方的に話すのではなく、友達の話を聞きながら、会話ができるようになってほしい。
・得意な面を活かすことができる高等学校に進学してほしい。

主な実態

＜学習上・生活上について＞

得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
・パターン処理や機械的な作業に黙々と取り組む。 ・歴史が好きで、年表をよく覚えている。 ・周囲に流されずに決められたことやルールはきちんと守ろうとする。 ・返事や挨拶は、いつも大きな声ですることができる。 ・係活動など、自分に与えられた役割は確実に取り組むことができる。	・多角的な視点で情報を捉えたり、情報を関連させながら想像を広げたりすることに課題があるために、国語では、文章を読むことはできるが、登場人物の心情を的確に読み取ることが難しい。 ・友達がルールを守っていないと厳しく注意してしまうことがある。 ・数学では、文章題の意味を捉えることが苦手である。 ・体の動きがぎこちなく、特に球技が苦手である。 ・場の雰囲気を読むことが苦手で、自分の好きな話を一方的にする傾向にある。

＜家庭での困難な点＞

・好きなことに熱中していると、時間を忘れてしまうことがある。
・思い違いをしていたとき等、腹を立てて母親にあたることがある。

＜検査結果＞

検査名	WISC-Ⅳ	検査名	
実施機関	○○特別支援学校	実施機関	
実施日	平成○年○月○日	実施日	
結果	FSIQ97	結果	
資料等	■ 有り　□ 無し	資料等	□ 有り　□ 無し

関係機関に関する情報

機関名	担当者	期間	主な支援内容・助言内容　等
○○病院	○○（医師）	○年○月○日～現在	・かかりつけ医
○○病院	○○（ＯＴ）	○年○月～○年○月まで	・作業療法（体の動きをコントロールする力を高めるための感覚統合運動）

支援の方向性

＜長期目標＞

・キーワードとなる言葉に線を引いたり、イメージしやすい視覚的な絵等を示したりしながら文章を理解する。
・友達と一方的なかかわりを減らし、自分の話す量に気を付けて会話する。

＜必要な配慮・支援＞

・問題文等では、ポイントとなるキーワードに線を引かせたり絵等の視覚情報等を示したりすることで意味を捉えやすくする。
・友達との会話では、会話量をグラフで示すようにすることで、一方的な会話になっていないか気付かせる。
・友達とのトラブルについては、できる限りその場で指導し、具体的にどのような言動が望ましいのかロールプレイ等を通して学ぶことができるようにする。

以上の情報を関係機関と共有することに同意しました。

平成　　年　　月　　日　　保護者氏名　　印

㊙ 個別の指導計画（1学期）

学校名	○○中学校	学年	１年	氏名	大村　太郎

学習上・生活上の主な実態について	得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
	・パターン処理や機械的な作業に黙々と取り組む。 ・歴史が好きで、年表をよく覚えている。 ・周囲に流されずに決められたことやルールはきちんと守ろうとする。 ・返事や挨拶は、いつも大きな声ですることができる。 ・係り活動など、自分に与えられた役割は確実に取り組むことができる。	・多角的な視点で情報を捉えたり、情報を関連させながら想像を広げたりすることに課題があるために、国語では、文章を読むことはできるが、登場人物の心情を的確に読み取ることが難しい。 ・友達がルールを守っていないと厳しく注意してしまうことがある。 ・数学では、文章題の意味を捉えることが苦手である。 ・体の動きがぎこちなく、特に球技が苦手である。 ・場の雰囲気を読むことが苦手で、自分の好きな話を一方的にする傾向にある。

〈教科等について〉

各教科等における配慮事項等	・問題文等では、ポイントとなるキーワードに線を引かせたりイメージしやすい絵等の視覚情報等を示したりすることで意味を捉えやすくする。 ・話し合い活動では、友達が話す量と自分が話す量が同じ程度になるようにめあてを持たせる。

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
自立活動	【年間目標】 ・友達とペースを合わせたり他者の考え方や工夫を取り入れたりして活動する方法を知り、それを使って友達とやり取りをする。 【短期目標】 ・相手の言動に対して、「ありがとう」「いいよ」等の言葉を伝えることができる。	・他者との協力が必要なゲームや活動を行いながら他者の気持ちや考え等を理解する。 ・ロールプレイで、どのようなタイミングで何を言えばいいのかを考え、練習する。 ・相手の様子や場の状況を把握する手掛かりを具体的に伝える。 ・「○○新聞」を作成し、その中に友達や教師の好きなことについて知らせるコーナーを作る。取材の際に「今ちょっといい？」等の教師と決めたフレーズを使う。	◎	・新聞作りの取材を通して「今ちょっといい？」等のフレーズを使うことができた。連絡係の仕事でも「今、少しお時間いいですか？」と教師に言うこともできるようになった。しかしながら、それ以外の場面に広げることができていないので、後期以降は、友達とのやり取りの場面でも指導を行っていきたい。 ・「どうぞ」「いいね」「ありがとう」は、本人だけでなく学級全体で取り組んでいき、言われる経験も積ませることで、タイミングを覚えて言えるようになってきた。これまで周囲に対して注意をすることが多かったが、これらの言葉を上手く使えるようになったことで、周囲からの関わりも増えた。 ・１分間スピーチをすることで、自分が話をするときの量をつかめるようになり、友達に話をする時や授業で発表するような場面で一方的に自分の話したいことをいつまでも話すことが減ってきた。
国語 小学６年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・文章を読む際に、「なぜなら」「さらに」「また」等の接続詞や「だろう」等の文末表現について繰り返し強調することで、文章を読み取ることができるようにする。 ・登場人物の気持ちについて、ポイントとなる行動や発言、情景描写に一つ一つ線を引きながら考えさせていくようにする。	○	・運動会の徒競走で友達に負けてしまったこと等、自分にとってマイナスなことは書きたがらなかった。 ・接続詞や文末表現については、自分で該当する部分を枠で囲むことで、筆者の意見とその根拠について読み取ることができた。 ・物語を読む際には、登場人物の心情について具体的に表現されていると読み取ることができた。行動で描写されている部分は、身近なことに置き換えて考えさせることで、読み取れることが増えてきた。
社会 中学1年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・国や気候等についてはイメージしやすいインターネット等の画像等を示すようにする。 ・資料の読み取りについては、ポイントとなる箇所にマーカーや○印をつけて理解しやすいようにする。	◎	・インターネット等を使用することで、ゲーム感覚で国の場所を覚えることができた。サハラ砂漠と南極大陸等も探していく中で、特徴的な気候についても興味をもって取り組むことができた。 ・評価テストは７割程度できた。
数学 小学６年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・問題の内容がイメージできない際は、図を用いながら考えさせるようにする。	○	・文章題を解く際、自分で数字やキーワードに印をつけながら考えられるようになってきた。 ・円の面積や、体積については同様の問題を繰り返し取り組むことで、公式に当てはめながら求めることができた。

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
理科 中学1年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・実験の方法を説明する場面では、動画を見せたり写真を用いて説明したりすることで、本人が具体的にイメージしながら学べるようにする。 ・実験でバーナーや薬品を使うときには事前に使うときの約束をし、約束事項を黒板に貼ったり、実際に使う直前に再度確認をしたりすることで、安全面への意識をもちながら取り組めるようにする。	◎	・バーナーや薬品について、危険な面だけでなく、どのように使うと安全なのかを具体的に伝えることで、落ち着いて実験に取り組むことができた。 ・評価テストは、７割程度できた。
音楽 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・交流学級で行う。 ・強弱記号については、教師が強弱をつけて演奏し、比較をさせることで、違いが分かるようにする。具体的に強弱記号を数値で示したり、円の大きさで視覚的に示したりすることで、意識できるようにする。	○	・歌唱では、正しい音程で歌うことが難しい場面もあったが、強弱記号の意味を覚え、それを意識しながら歌唱できた。 ・器楽では、リコーダーに取り組んだ。低音部のドとレは、穴を指で塞ぐことが難しかったが、「エーデルワイス」等、低音部のドやレがない曲では、間違えることなくゆっくりと演奏することができた。
美術 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・クロッキーでは、バランスが捉えやすいように、タブレットＰＣの写真機能を使って構図をとり、補助線を頼りにしながら描くようにする。	○	・風景等の絵を描く際には、ある一部分を詳細に書こうとして時間がかかる場面が見られたが、描く順番を本人と話し合い決めてから取り組ませると効果的だった。
保健体育 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・交流学級で行い、担任が同行する。 ・体づくり運動では、模倣をしたり、体を大きく動かしたりする活動を取り入れることで、ボディイメージを高められるようにする。 ・水泳では、上肢と下肢の動きに分けて、身体の動かし方をつかませる。	○	・体づくり運動では、示範を見るだけでなく実際にどのように動かせばよいか、ポイントを簡潔に伝えることで、理解することができた。 ・水泳では、クロールで２５ｍ泳ぐことができた。平泳ぎは、手と足、それぞれの動きは正しくできるが、手と足を動かすタイミングが合わなかった。
技術・家庭 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・交流学級で行い、支援員を配置する。 ・位置や場所、間隔等を写真カードや目印となる紐等を使用いながら理解できるようにする。	◎	・生物育成では、成長の過程を楽しみにして休み時間にも様子を見に行ったり、自分で病害虫について調べて教師に報告する姿が見られたりした。 ・環境に配慮した消費生活の工夫では、ごみの分別や節電だけでなく、家庭で買い物に出かける際にエコバッグを自分で用意する等、日常の中で実践する様子が見られた。
外国語 中学1年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・「単語を表す絵や写真を示す」「リズムに合わせて発音を覚える」「発音をカタカナ表記する」等、多感覚を活用して単語等を覚えられるようにする。	○	・ＡＬＴとやり取りをすることで、伝わる楽しさを味わっていた。 ・ローマ字読みを用いるために、単語の読み方で混乱する場面も見られた。引き続きふりがなをふりながら指導を行う必要がある。 ・評価テストでは６割程度できた。
道徳 中学1年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・教材で使用する読み物は、文章を捉え違えることのないよう、イラストを用いたり、説明を加えたりする。	○	・自分なりに教材の内容について考えて意見を出すことができた。話し合い活動では、付箋を用いてそれぞれの意見を可視化し、模造紙の上で操作できるようにすることで、自分の意見、友達の意見について整理しやすいようだった。
総合的な学習の時間 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・交流学級で行い、担任が同行する。 ・活動の見通しが持てるように、大まかな流れにを単元の最初に伝えるようにする。 ・活動の中で、本人が発言したり選択・決定できたりするような場面を設定する。	○	・交流学級で取り組むことで、より多くの友達の意見を聞くことができ、それをもとに考えることもできた。他者の意見については、聞き逃しがあるため注目させる等教師の働きかけが必要だった。
特別活動 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・教科担任に連絡事項を聞いて背面黒板に書く係を友達と協力して取り組ませる。 ・聞きもらしがないように、メモを取った後に各教科担任に確認をする。	○	・行事等で時間割が変更になると、混乱する様子が見られた。 ・友達からお礼を言われたことをきっかけで、係の仕事に取り組む意欲につながっていた。

保護者面談・校内支援委員会等の記録		
日時	参加者	協議（・）・合意内容（○）
Ｈ　年　月　日 ：　～　：	保護者、校長、特ＣＯ、担任	・個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標や支援内容等について ○前期の目標と支援内容について合意
Ｈ　年　月　日 ：　～　：	保護者、校長、特ＣＯ、担任	・個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標や支援内容等について ○前期の取組内容と評価について、及び後期の目標と支援内容について合意
Ｈ　年　月　日 ：　～　：		

秘

個別の教育支援計画（引継ぎ書）

氏名	大村　太郎	主な記載者（本人との関係）	○○（担任）	年　　月　　日作成

本人に関する情報

願い

＜本　人＞

・近隣の工業高校に進学したい。
・数学や国語で平均点が取れるようになりたい。

＜保護者＞

・一方的に話すのではなく、友達の話を聞きながら、会話ができるようになってほしい。
・得意な面を活かすことができる高等学校に進学してほしい。

主な実態

＜学習上・生活上について＞

得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
・パターン処理や機械的な作業に黙々と取り組む。 ・歴史が好きで、年表をよく覚えている。 ・周囲に流されずに決められたことやルールはきちんと守ろうとする。 ・返事や挨拶は、いつも大きな声ですることができる。 ・係活動等、自分に与えられた役割は確実に取り組むことができる。 ・文章は、ポイントとなるキーワードに線を引いたり、線で囲んだりすることで、内容を理解できることが増えている。 ・会話の相手が固定化する傾向にあるが、昨日見たテレビや食べ物の好き嫌い、休日に何をしたか等、友達と会話をすることができるようになってきている。	・多角的な視点で情報を捉えたり、情報を関連させながら想像を広げたりすることに課題があり、複雑な人間関係、他者の感情を瞬時に読み取ることは苦手である。 ・友達がルールを守っていないと注意してしまうことがある。 ・体の動きがぎこちなく、特に球技が苦手である。 ・相手の話の内容や場面や状況を理解することが苦手で、会話がかみ合わなかったり、場に応じた言動ができなかったりする。

＜家庭での困難な点＞

・好きなことに熱中していると、時間を忘れてしまうことがある。
・思い違いをしていたとき等、腹を立てて母親にあたることがある。

＜検査結果＞

検査名	WISC-Ⅳ	検査名	
実施機関	○○特別支援学校	実施機関	
実施日	平成○年○月○日	実施日	
結果	FSIQ97	結果	
資料等	■ 有り　□ 無し	資料等	□ 有り　□ 無し

関係機関に関する情報

機関名	担当者	期間	主な支援内容・助言内容　等
○○病院	○○（医師）	○年○月○日～現在	・かかりつけ医
○○病院	○○（ＯＴ）	○年○月～○年○月まで	・作業療法（体の動きをコントロールする力を高めるための感覚統合運動）

支援の評価

＜長期目標＞

・キーワードとなる言葉に線を引いたり、イメージしやすい視覚的な絵等を示したりしながら文章を理解する。
・友達と一方的なかかわりを減らし、自分の話す量に気を付けて会話する。

＜年度末評価＞

・キーワードに線を引くことは教師の支援が必要である。
・興味のあること以外でも友達と会話を楽しめるようになり、一方的に自分の好きなことだけを話すことがほとんど見られなくなった。

＜必要な配慮・支援＞

・問題文等では、ポイントとなるキーワードに線を引かせたり絵等の視覚情報等を示したりすることで意味を捉えやすくする。
・友達との会話では、会話量をグラフで示すようにすることで、一方的な会話になっていないか気付かせる。
・友達とのトラブルについては、できる限りその場で指導し、具体的にどのような言動が望ましいのかロールプレイ等を通して学ぶことができるようにする。

＜年度末評価＞

・問題文等にポイントとなる部分に印をつける等、教えられた手立てを自分から活用しようとする場面が見られるようになってきた。ポイントを捉えさせるためには教師の支援が必要。
・友達に一方的に話すことが減り、友達と同じ程度の会話量になるように気をつけて話すようなった。
・一方的なかかわり方が改善したため、友達とのトラブルが減った。

以上の情報を引き継ぐことに同意しました。

平成　　年　　月　　日　　保護者氏名　　印

事例　６

肢体不自由学級

＜小学校６年・知的障害なし＞

秘

プロフィール票

作成日（　　年　　月　　日）

本人に関する情報	氏名	おおむら　たろう 大村　太郎	性別	男	生年月日	平成　　年　　月　　日　生	才
	園・学校名	○○小学校			学年等	６年	
	学級等	□ 通常の学級　□ 通級の理由　障害種別				■ 特別支援学級　障害種別　　肢特	
	障害・病気の状況	診断名	脳性まひ				
		手帳の取得状況	身体障害者　　手帳	等級	２級	手帳	等級
	教育歴	幼稚園・保育所等	○○幼稚園				
		小学校	○○小学校入学				
		中学校					
		高等学校					

家庭に関する情報	住所	〒	家族構成		
			続柄	氏名	備考
			父	大村○○	
	連絡先	☎	母	大村○○	
		☎	弟	大村○○	○○小学校２年
	備考				

実施日	相談先	担当者	形態	相談内容
○年○月○日	○○医療福祉センター	○○	発達相談	家庭での留意事項
○年○月○日	○○特別支援学校	○○	訪問支援	教科指導における配慮、自立活動の指導

教育相談に関する情報

秘

個別の教育支援計画

氏名	大村　太郎	主な記載者（本人との関係）	○○（担任）	年　　月　　日作成

本人に関する情報

願い

＜本　人＞

・自分一人で外出したり友達と遊びに行ったりできるようになりたい。

＜保護者＞

・身の回りのことをひとつでも多くできるようになってほしい。
・学習面では、同級生と同じことを学んで身に付けてほしい。

主な実態

＜学習上・生活上について＞

得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
・友達や教師と話をすることが好きで、積極的に人と関わることができる。 ・国語の詩や物語文等を覚えたり歌の歌詞を覚えたりすることが得意である。 ・校内であれば、車椅子で移動することができる。 ・授業の準備や片付けは自分で行うことができる。 ・困った時には、自分から友達に依頼することができる。 ・忘れ物をすることはなく、宿題等も確実に提出する。 ・外国語活動が好きで、英語に興味を持っている。 ・自動車が大好きで、メーカーや車種等に詳しい。	・手すりにつかまって立つことはできるが、衣服をきれいにズボンに入れることはできない。 ・階段や車の段差等２０センチ程度しか足を上げることができない。 ・コンパスや定規で線を引いたり、ハサミで形を切り取ったりすることが苦手である。 ・漢字を正確に覚えることができず、文字を整えて書くことが苦手である。板書の視写に時間がかかる。 ・実験や工作等の細かい操作や作業は難しい。 ・図形の問題やグラフの読み取りが苦手である。 ・自分でできることも、人にお願いをすることがある。

＜家庭での困難な点＞

・身体が大きくなって、車への乗り降りや入浴の介助が大変になってきた。

＜検査結果＞

検査名	ＷＩＳＣ－Ⅲ	検査名	
実施機関	○○特別支援学校	実施機関	
実施日	平成○年○月○日	実施日	
結果	全検査ＩＱ８４、言語性ＩＱ９７、動作性ＩＱ７１ 見て理解するより聞いて理解する方が得意。	結果	
資料等	■ 有り　□ 無し	資料等	□ 有り　□ 無し

関係機関に関する情報

機関名	担当者	期間	主な支援内容・助言内容　等
○○医療福祉センター	○○（Dr.）	○年○月○日～現在	・小児科主治医
○○医療福祉センター	○○（Dr.）	○年○月○日～現在	・整形外科主治医
○○医療福祉センター	○○（PT）	○年○月○日～現在	・理学療法（運動機能を高めるため訓練）
○○医療福祉センター	○○（OT）	○年○月○日～現在	・作業療法（手指の巧緻性を高めるため訓練）

支援の方向性

＜長期目標＞

・車への乗り降りが一人でできるようになる。
・自分の得意な学び方を知り、環境を整えたり必要な支援を依頼したりすることができる。

＜必要な配慮・支援＞

・授業は基本的に学習椅子で行い、車椅子から移乗する機会を確保する。
・下校時には玄関まで歩行器（PCW）を使って歩き、下肢の筋力の維持・向上を図る。
・車への乗り降りは、最小限の支援を受けながら実践する。
・学習については、どのような方法が理解しやすいかを本人に尋ねながら進める。
・視覚的な情報は、言葉で補足説明したり、見るポイントを具体的に示したりする。

以上の情報を関係機関と共有することに同意しました。

平成　　年　　月　　日　　保護者氏名　　印

㊙ 個別の指導計画（前期）

学校名	○○小学校	学年	６年	氏名	大村　太郎

	得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
学習上・生活上の主な実態について	・友達や教師と話をすることが好きで、積極的に人と関わることができる。 ・国語の詩や物語文等を覚えたり歌の歌詞を覚えたりすることが得意である。 ・校内であれば、車椅子で移動することができる。 ・授業の準備や片付けは自分で行うことができる。 ・困った時には、自分から友達に依頼することができる。 ・忘れ物をすることはなく、宿題等も確実に提出する。 ・外国語活動が好きで、英語に興味を持っている。 ・自動車が大好きで、メーカーや車種等に詳しい。	・手すりにつかまって立つことはできるが、衣服をきれいにズボンに入れることはできない。 ・階段や車の段差等２０センチ程度しか足を上げることができない。 ・コンパスや定規で線を引いたり、ハサミで形を切り取ったりすることが苦手である。 ・漢字を正確に覚えることができず、文字を整えて書くことが苦手である。板書の視写に時間がかかる。 ・実験や工作等の細かい操作や作業は難しい。 ・図形の問題やグラフの読み取りが苦手である。 ・自分でできることも、人にお願いをすることがある。

〈教科等について〉

各教科等における配慮事項等	・椅子の座面に滑り止めマットを敷き、安定した姿勢が保てるようにする。姿勢が崩れたら、学習に影響がない範囲で声掛けをし、自分で修正させる。 ・書字量を減らすため、穴埋め形式等にしたワークシートを使用する。 ・視覚的な情報量が多い場合は、下敷き等で余計な部分を隠して見る部分に注目させたり、言葉で具体的に指示を出したりする。 ・操作を伴う学習は、活動時間を十分に確保する。難しい場合は、自分から依頼させる。

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
自立活動	【年間目標】 ・手すりにつかまりながら４０㎝の台に上り下りすることができる。 ・見本を見ながら５～６個のパーツを組み合わせて絵や図形を構成することがで 【短期目標】 ・手すりにつかまりながら３０㎝の台に上り下りすることができる。 ・見本を見ながら３～４個のパーツを組み合わせて絵や図形を構成することができる。	・体幹、腰、肩、膝、足首の不適切な筋緊張をゆるめる。 ・長座の姿勢で、手で身体を支えてお尻を持ち上げる。 ・つかまり立ちで高い場所や床にある物を取る。 ・足をつく位置に気を付けながら階段の上り下りをする。 ・歩行器で足を高く上げることを意識しながら歩く。 ・好きな車の絵を３～４分割したものを構成する。 ・ブロックや積み木で見本と同じ物をつくる。 ・絵や文字の間違い探しをする。気付かない時には、見る部分を狭くする。	◎	・軸足をつく場所を自分で調整できるようになり、３０㎝の高さでも足を上げて上ることができるようになった。 ・声掛けだけで歩き方は改善せず、足を引きずるように歩いている。 ・車の絵は４分割でも間違えずに構成できた。模様になると見本を何度も見ながら試行錯誤してできないこともあった。位置関係を言葉で説明する支援が必要である。
国語 小学６年 特別支援学級	・当該学年に同じ。 ・一部第4学年に同じ。	・漢字は、偏やつくりのパーツを組み合わせて漢字を構成させる。 ・漢字を指でなぞった後に、声に出しながら書かせる。 ・文脈を図式化したり、状況をイラストで示したりしながら、内容を理解させる。	○	・全ての漢字を実施できなかったが、漢字パズルで取り組んだものは、早く覚えることができ、定着する傾向にある。 ・本文中に線を引いた部分をもとに、事実、説明、考え等を表に整理することで、要旨を理解することができた。あまり関係のない部分に線を引くこともある。
算数 小学６年 特別支援学級	・当該学年に同じ。 ・一部第4学年に同じ。	・「図形」については、位置関係を言語化しながら特徴をつかませたり、着目する辺や角に色を付けて注目させる ・具体物を操作させたり、ICT機器を活用したりしながら、形の異同に気付かせる。	○	・平行四辺形や台形、ひし形を一目で見分けることは難しかったが、形の特徴を言語化することで探すことができた。
社会 小学６年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・資料の見方については、情報を言語化したり、見方を手順化して示す。 ・グラフや地図は、見せる箇所を限定したり、基準から順を追って見るように指示したりする。	○	・基準を決めてグラフや表を読み取らせることは効果的だった。基準を自分で決めることはまだ難しいので、ヒントを与えるような声かけが必要である。

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
理科 小学６年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・教科等における配慮事項等に同じ。	○	・ワークシートは穴埋め形式にしたことで、思考する時間の確保に有効であった。
音楽 小学６年 交流学級	・当該学年に同じ。 ・一部１・２年生に同じ。	・演奏では、バチに滑り止めを巻く等本人に聞きながら操作しやすいように工夫する。 ・テンポの速い曲は難しいので、音を出す部分を決めてリズムに合わせて演奏させる。	○	・打楽器では、木琴を自ら選び、全ての演奏はできなかったが、担当する部分をリズムに合わせて演奏できた。本人も達成感が得られ、笑顔を見せていた。
図画工作 小学６年 交流学級	・当該学年に同じ。	・教科等における配慮事項等に同じ。	○	・細かい作業は難しいため、担任がついて援助しながら行った。刃物については、本人も気を付けながら慎重に操作する様子が見られた。
体育 小学６年 特別支援学級	【年間目標】 ・当該学年に同じ。 ・内容に関する一部の事項を取り扱わない。	・陸上は歩行器で行い、距離と目標タイムを決めて取り組ませる。 ・球技は車椅子で行い、台に置かれたボールを打つ、車椅子でボールを捕る等、本人に合わせたルールで実施する。	○	・運動会では、２０ｍの距離を目標よりも短い時間で走ることができ、本人も満足気な表情だった。 ・競技における作戦やよりよい方法を考える際は、自分で考えるよりも教師の提案を聞くことが多く、受け身的であった。
家庭 小学６年 交流学級	・当該学年に同じ。	・エプロンはボタンのないかぶり式、三角巾は帽子型のものにして、自分で準備させる。	○	・実習では、エプロン、三角巾、マスク、手洗い等、事前の準備を一人でできた。時間の確保は必要である。
道徳 小学６年 交流学級	・当該学年に同じ。	・集団の中での自分の役割については、自分にできることがあることに気付かせる。	◎	・友達の意見を聞きながら「なるほど」「いろいろな考え方があるんですね」等の発言が聞かれ、他者の考えを取り入れたり、尊重したりすることができた。
外国語活動 小学６年 交流学級	・当該学年に同じ。	・音と同時に絵カードやジェスチャーを併せて提示する。 ・教師は基本的に見守り、本人が何らかの支援を伝えたときに援助する。	◎	・英語の歌が大好きで、一曲全部覚えて歌えるようになった。 ・楽しい雰囲気の中で、特別支援学級担任は見守る程度で、ほとんど一人で主体的に学習に取り組むことができた。
総合的な学習の時間 小学６年 交流学級	・当該学年に同じ。	・調べ学習の際は、タブレットPCでなくパソコンのキーボードで入力させ、押し間違いを減らし、操作時間を短縮させる。	○	・機器の使い方も理解し、一人でインターネット等を利用して調べ学習をすることができた。
特別活動 小学６年 交流学級	・当該学年に同じ。	・クラブ活動は、本人に選択させ、必要な支援について、担当教員に伝える。	○	・〇〇クラブを自分で選び、楽しく活動することができた。日頃関わることの少ない友達にも、自分から話しかけていた。

保護者面談・校内支援委員会等の記録		
日時	参加者	協議（・）・合意内容（〇）
Ｈ　年　月　日 ：　～　：	保護者、校長、特ＣＯ、担任	・個別の教育支援計画及び個別の指導計画の目標や支援内容について確認 〇前期の目標及び支援内容について合意
Ｈ　年　月　日 ：　～　：	保護者、担任	〇個別の指導計画の評価の伝達 ・後期の支援の方向性について協議

秘

個別の教育支援計画（引継ぎ書）

氏名	大村　太郎	主な記載者（本人との関係）	○○（担任）	年　　月　　日作成

本人に関する情報

願い

＜本　人＞
・自分一人で外出したり友達と遊びに行ったりできるようになりたい。

＜保護者＞
・身の回りのことをひとつでも多くできるようになってほしい。
・学習面では、同級生と同じことを学んで身に付けてほしい。

主な実態

＜学習上・生活上について＞

得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
・自分は見たり書いたりするよりも、声に出したり聞いたりする学び方がよいということに気付き、自分から実践する様子が見られる。 ・学習の準備や教室移動等、自分でできることは自分で行う。 ・困ったときには、友達や教師に尋ねたり依頼したりすることができる。 ・パソコンやタブレットPC等の基本的な操作ができる。	・自分が作業に要する時間を予測しながら、自分で取り組むか依頼するかを判断することは難しい。 ・漢字を正確に覚えることができず、文字を整えて書くことが苦手である。板書の視写に時間がかかる。 ・図形やグラフの読み取りが苦手である。 ・椅子や便座への移乗等で、急いでしまい転倒することがある。

＜家庭での困難な点＞
・身体が大きくなって、車への乗り降りや入浴の介助が大変になってきた。

＜検査結果＞

検査名	ＷＩＳＣ－Ⅲ	検査名	
実施機関	○○特別支援学校	実施機関	
実施日	平成○年○月○日	実施日	
結果	全検査ＩＱ８４、言語性ＩＱ９７、動作性ＩＱ７１ 見て理解するより聞いて理解する方が得意。	結果	
資料等	■ 有り　□ 無し	資料等	□ 有り　□ 無し

関係機関に関する情報

機関名	担当者	期間	主な支援内容・助言内容　等
○○医療福祉センター	○○（Dr.）	○年○月○日～現在	・小児科主治医
○○医療福祉センター	○○（Dr.）	○年○月○日～現在	・整形外科主治医
○○医療福祉センター	○○（PT）	○年○月○日～現在	・理学療法（運動機能を高めるための訓練）
○○医療福祉センター	○○（OT）	○年○月○日～現在	・作業療法（手指の巧緻性を高めるため訓練）

支援の評価

＜長期目標＞	＜年度末評価＞
・車への乗り降りが一人でできるようになる。 ・自分の得意な学び方を知り、環境を整えたり必要な支援を依頼したりすることができる。	・車に乗るのに３分程度、降りるのは２分以内にできるようになった。 ・下敷きで見る部分を焦点化したり、「形の特徴を言葉で教えてください」と依頼したりできるようになった。
＜必要な配慮・支援＞	＜年度末評価＞
・授業は基本的に学習椅子で行い、車椅子から移乗する機会を確保する。 ・下校時には玄関まで歩行器（PCW）を使って歩き、下肢の筋力の維持・向上を図る。 ・車への乗り降りは、最小限の支援を受けながら実践する。 ・学習については、どのような方法が理解しやすいかを本人に尋ねながら進める。 ・視覚的な情報は、言葉で補足説明したり、見るポイントを具体的に示したりする。	・自立活動の時間だけでなく、学習椅子への移乗や下校時の歩行に継続して取り組み、下肢の筋力や身体の使い方が向上した。今後も継続していく必要がある。 ・学習の仕方をいくつか実践し、どの方法がよいかを振り返り、評価する時間を確保することで、本人の気付きを促すことができた。 ・視覚情報が多くなると混乱することが多かった。情報の焦点化や順を追って説明することが有効であった。

以上の情報を引き継ぐことに同意しました。

平成　　年　　月　　日　　保護者氏名　　印

事例　７

弱視学級

＜小学校５年・知的障害なし＞

秘

プロフィール票

作成日（　　年　　月　　日）

本人に関する情報	氏名	おおむら　たろう 大村　太郎	性別	男	生年月日	平成　　年　　月　　日　生	才
	園・学校名	○○小学校			学年等	５年	
	学級等	□ 通常の学級　□ 通級の理由　障害種別				■ 特別支援学級　障害種別　視特	
	障害・病気の状況	診断名	未熟児網膜症				
		手帳の取得状況	身体障害者　手帳	等級	５級（　）	手帳	等級
	教育歴	幼稚園・保育所等	○○保育園				
		小学校	○○小学校入学				
		中学校					
		高等学校					

家庭に関する情報	住所	〒	家族構成		
			続柄	氏名	備考
			父	大村○○	
	連絡先	☎	母	大村○○	
		☎	兄	大村○○	○○中学校３年
	備考		姉	大村○○	○○中学校１年
			祖父	大村○○	

教育相談に関する情報

実施日	相談先	担当者	形態	相談内容
○年○月○日	盲学校	○○	発達相談	就学に向けて保育園で育てておくべき力、準備等
○年○月○日	教育センター	○○	訪問支援	学校における学習上、生活上の困難の改善・克服に関する助言

秘

個別の教育支援計画

氏名	大村　太郎	主な記載者（本人との関係）	○○（担任）	年　月　日作成

本人に関する情報

願い

＜本　人＞

・見えにくい状況を軽減するための様々な補助具の使い方を教えてほしい。
・友達と共に学習する機会を増やしたい。

＜保護者＞

・補助具の使い方を習熟し、それらを活用して学習内容の理解を深めてほしい。
・自分から援助を依頼できるようになってほしい。

主な実態

＜学習上・生活上について＞

得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
・交流学級にいる仲の良い友達２～３人と一緒に給食を食べたり、休み時間を過ごしたりすることが多い。 ・時間はかかるが一つ一つの作業を丁寧に取り組もうとする気持ちが強い。 ・学習中は保有視力によって獲得できる視覚情報に加え、教師からの説明によって内容を理解する力がある。	・見えにくいことで自信が持てずに依存的な面があり、特に初めてのことに対して消極的である。 ・板書の文字が見えにくかったり友達とぶつかったりすることがあるが、自分から「何と書いてありますか」「ごめんなさい」 が言えない。 ・注視する時間が長くなると大変疲れやすい。 ・特に漢字を書くことが苦手である。 ・体育の集団ゲームが苦手である。

＜家庭での困難な点＞

・出生時に未熟児網膜症の診断を○○大学病院眼科で受ける。その後、３か月に1回定期受診中。同時に盲学校教育相談を紹介される。４歳からは地元の保育園にも通園しながら、月２回、盲学校幼稚部で指導を受ける。
・体調や環境により見え方がかなり違う。体調管理や環境調整に心がけている。

＜検査結果＞

検査名	視力検査	検査名	視力検査
実施機関	○○眼科	実施機関	盲学校
実施日	平成○年○月○日	実施日	平成○年○月○日
結果	近距離視力：右0.04 左 0.07 両0.06 遠距離視力：右0.08 左 0.08 両 0.1 矯正視力：右0.07 左0.15 ※遠近ともレンズが必要。	結果	最大視認力　Max：0.3（左,5cm）
資料等	□ 有り　■ 無し	資料等	□ 有り　■ 無し

関係機関に関する情報

機関名	担当者	期間	主な支援内容・助言内容　等
○○眼科	○○（医師）	○年○月○日～現在	・かかりつけ医
△△市障害福祉課	○○（担当者）	○年○月○日	・身体障害者手帳の交付 ・視覚補助具購入に関する相談
盲学校	○○（主幹教諭）	○年○月○日～現在	・就学に関する相談 ・家庭での養育に関する相談 ・視力検査
○○教育センター	○○（指導主事）	○年○月○日～現在	・学校における学習上、生活上の困難の改善・克服に関する助言

支援の方向性

＜長期目標＞

・単眼鏡やルーペの使い方の習熟・活用を図り、視経験を広げたり、学習内容の理解を深める。

＜必要な配慮・支援＞

・楽しく見る経験を積み重ねることで、見る意欲を育むようにする。
・単眼鏡やルーペを使って板書を写したりプリント等を見たりする学習に取り組ませ、その習熟を図る。
・交流学級と連携し、弱視レンズを活用しやすくするための環境整備や配慮等を行う。
・全教科にわたって、拡大教科書を使用する。

以上の情報を関係機関と共有することに同意しました。

平成　　年　　月　　日　　保護者氏名　　印

㊙ 個別の指導計画（前期）

学校名	○○小学校	学年	５年	氏名	大村　太郎

主な実態について（学習上・生活上の）	得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
	・交流学級にいる仲の良い友達２～３人と一緒に給食を食べたり、休み時間を過ごしたりすることが多い。 ・時間はかかるが一つ一つの作業を丁寧に取り組もうとする気持ちが強い。 ・学習中は保有視力によって獲得できる視覚情報に加え、教師からの説明によって内容を理解する力がある。	・見えにくいことで自信が持てずに依存的な面があり、特に初めてのことに対して消極的である。 ・板書の文字が見えにくかったり友達とぶつかったりすることがあるが、自分から「何と書いてありますか」「ごめんなさい」 が言えない。 ・注視する時間が長くなると大変疲れやすい。 ・特に漢字を書くことが苦手である。 ・体育の集団ゲームが苦手である。

〈教科・領域等について〉

各教科等における配慮事項等	・補助具の使用で、より学習効果が上がるようにするために、特に教室環境においては、照度（まぶしさや明るさ）や座席位置、板書等の配慮や工夫を行う。 ・補助具の使用や各教科等の指導方法については、盲学校の支援を適宜活用しながら、計画的に進めていく。 ・自分の見えにくさを理解し、場面や状況に応じて他者に援助を依頼し、自分の環境を変えていく力をつけさせる

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
自立活動	【年間目標】 ・単眼鏡やルーペの使い方の習熟・活用を図り、視経験を広げる。 【短期目標】 ・単眼鏡やルーペを使って、板書や教科書等の視覚情報の中で見たいものにレンズをすばやく向けたり、ピントを合わせたりして見ることができるようにする。	・本人や保護者の意向を確認しながら視覚補助具を活用することを他の生徒や教職員に周知し理解を求める。 ・文字の大きさや色、レイアウト等、整理された板書やプリントを心掛ける。 ・見えにくい状況かを本人にこまめに尋ね、本人が、生活や学習しやすい環境づくりに配慮する。	◎	・単眼鏡は、担任によるピント合わせや調整が必要であるが、対象を探索することや的確に認知する力が高まっている。 ・左右の図を見比べる等、視線を移し変える力が向上した。
国語 小学５年 特別支援学級又は交流学級	・当該学年に同じ。	・交流学級で学習する場合は、特別支援学級担任がT・Tとして支援。 ・漢字を読む学習では、一画一画が見えなくても、部首や字形の特徴に着目し、文脈から推測しながら読み取ることも大切にしながら指導を行う。 ・イメージや概念形成を補うために、できるだけ動作化・言い換え等を通して、言葉のもつ意味をより明確なものにしていく。	○	・音読については、読速度は 4月は150文字（20pゴシック体）/1分だったが 、7月は220文字（20pゴシック体）/1分となった。
算数 小学５年 特別支援学級又は交流学級	・当該学年に同じ。	・図形の学習では、まずは「部分」→「全体」を把握させたり、座標軸（４つの象限）をイメージさせながら、位置関係を捉えさせたりする。 ・作図については、基準となる位置を設定し、向きや方向をとらえさせる。 ・グラフや定規等の細かい目盛りについては、注視し過ぎて疲れることがないよう、適宜休憩を入れながら操作をさせる。	○	・定規は、弱視用白黒反転定規を使用。1cm単位は判読できた。
理科 小学５年 特別支援学級又は交流学級	・当該学年に同じ。	・交流学級で学習する場合は、特別支援学級担任がT・Tとして支援。 ・実験・観察はできるだけ余裕のある計画で取り組ませ、実験中は決して急がせないようにする。他の児童と共に理科室の整理整頓や器具等の転倒防止、薬品等の安全な取扱いについての徹底を図る。 ・視覚以外の感覚を活用し、変化の際の音や手触りからものの状態や変化の様子をつかませる。	○	・植物の発芽や成長に関する学習では、ルーペや凸点シールを貼った定規を活用して成長の様子を観察し、記録することができた。 ・ものの溶け方の実験では、ガラス棒でビーカーの底を突かせることで判別できた。 ・葉脈の観察では、手触りで葉の表裏の違いに気付くことができた。
社会 小学５年 特別支援学級又は交流学級	・当該学年に同じ。	・交流学級で学習する場合は、特別支援学級担任がT・Tとして支援。 ・地図の指導においては、地図上の点や線分、面で表現される地域の範囲等を触って理解できるような教材の工夫・配慮をする。また、算数の図形の学習と同様に、座標軸（４つの象限）をイメージさせながら、位置関係をとらえさせる。	○	・板書のどこを見たらよいのか分からないことがある。 ・板書の視写に時間がかかり、教師の説明を聞き逃すことがある。板書と同じワークシート（A3）を事前に配布していくことも検討する。
音楽 小学５年 交流学級	・当該学年に同じ。	・楽譜を読んだり、暗譜したりする学習は最小限度にとどめ、歌唱や自分の体を使って表現することによって学習への意欲を高める。	○	・歌唱（合唱）については、友達が肩を叩いたり、つないだ手を振りながらリズムを取ったりする方法で、調子を合わせることができた。 ・教師が言う音譜に合わせてリコーダーの操作ができつつある。

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
図画工作 小学５年 交流学級	・当該学年に同じ。	・作品鑑賞については、可能な限り作品に手を触れて鑑賞できるような機会を設定する。 ・粘土造形が好きである強みを生かし、本児のアイデアや発想を共有したり、取り入れたりしながら、自己肯定感を高めていく。	○	・鑑賞では、自分の感覚や活動を通して，形や色，動きや奥行き等の造形的な特徴をとらえることができた。
体育 小学５年 交流学級	・当該学年に同じ。	・動きや姿勢の指導を行う際は、抽象的な指示は避け、「右ひじを曲げる」のように具体的で簡易な言葉を使用するとともに、必要に応じて直接体に触れる等の動作補助を行う。 ・衝突やボールが頭部衝撃を避けるように場の設定や活動のさせ方には細心の注意を払う。	○	・ベースボール型の運動ゲームでは、ルールの工夫や音が鳴るボールの使用をすることで、積極的に参加する様子が見られた。
家庭 小学５年 交流学級	・当該学年に同じ。	・調理実習では、できるだけ余裕のある計画で取り組ませる。また、他の児童と共に刃物の使用や熱源の安全な扱い方についての徹底を図る。 ・コンロの火加減については、離れた位置から単眼鏡で確認させる。	○	・コンロの火加減（つまみ式、スライド式）については、手首の返し方や手のひらのサイズでおおよその火加減を調節できるようになった。 ・食材の火の通り方については、ipadやキッチンタイマー等を使用し、時間の経過と併せて調理することができることを実感できていた。
道徳 小学５年 交流学級	・当該学年に同じ。	・「わたしたちの道徳」の内容を分かりやすくするために、動作化・言い換え等の工夫をし、イメージを確かなものにする。また、ワークシートについては、他の教科と同様、拡大コピーをしておく。	○	・拡大ワークシートは、本児の読速度や書字のスピードを考えると使いづらい点が多かった。課題を焦点化し、ワークシートの改善について検討が必要。
外国語活動 小学５年 交流学級	・当該学年に同じ。	・特別支援学級担任がT・Tとして支援。 ・単語カードの文字フォントは１８ｐゴシックを使用する。 ・英語によるコミュニケーション活動やエクササイズに積極的に参加できるように、まずは担任とペアを組んだり、グループに担任が入ったりするような工夫を行う。	○	・担任が距離をおいても、友達の手助けを受けてエクササイズをしたり、コミュニケーションをとったりすることができた。 ・アルファベットの形の認識については、空描きや粘土で作ったものを触ったりしてつかむことができた。
総合的な学習の時間 小学５年 交流学級	・当該学年に同じ。	・友達と一緒に情動を伴う体験を積極的に取り組ませ、周りの人たちが喜んだり悲しんだりする雰囲気を味わわせながら、周囲の状況を教えていく。	◎	・周囲の子供たちと一緒に体験することが自信につながり、自分の気持ちを伝える場面が増えてきた。
特別活動 小学５年 交流学級	・当該学年に同じ。	・児童会活動では、児童会の一員として、交流学級の友達や上級生（６年生）と協力して取り組めるような役割に取り組ませる。 ・クラブ活動では、本人の興味関心に沿った活動に取り組ませるながら、見ることへの意欲を高める。	○	・児童会では保健委員会において、身なりや衛生面（歯磨き）についての標語を考えた。実際の体験をもとに、イメージを持たせることで、言葉をつなげていくことができた。

保護者面談・校内支援委員会等の記録		
日時	参加者	協議（・）・合意内容（○）
Ｈ　年　月　日 ：　～　：	校長・教頭・学級担任・交流学級担任・学年主任・養護教諭・特支CO	・今年度の本人に対する支援について ○個別の教育支援計画に基づいて今年度の年間目標（短期目標）及び具体的な指導・支援の方向性について合意
Ｈ　年　月　日 ：　～　：	校長・教頭・学級担任・交流学級担任・学年主任・養護教諭・特支CO	・他の児童への理解を促す指導について ○本人・保護者の意向を受け、交流学級の中で本人についての説明を行う。特に視覚補助具を活用することの必要性について他の児童の理解を促す
Ｈ　年　月　日 ：　～　：	校長・教頭・学級担任・交流学級担任・学年主任・養護教諭・特支CO	・前期の支援についての評価について ○板書を写すポイントや時間の確保についての共通理解を図る
Ｈ　年　月　日 ：　～　：		
Ｈ　年　月　日 ：　～　：		

秘

個別の教育支援計画（引継ぎ書）

氏名	大村　太郎	主な記載者（本人との関係）	○○（担任）	年　　月　　日作成

本人に関する情報

願い

＜本　人＞

・見えにくい状況を軽減するための様々な補助具の使い方を教えてほしい。
・友達と共に学習する機会を増やしたい。

＜保護者＞

・補助具の使い方を習熟し、それらを活用して学習内容の理解を深めてほしい。
・自分から援助を依頼できるようになってほしい。

主な実態

＜学習上・生活上について＞

得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
・学習中は保有視力によって獲得できる視覚情報に加え、教師からの説明によって内容を理解する力がある。 ・自分から積極的に視覚補助具を使ったり、使用方法について尋ねたりすることが増えている。 ・iPadの漢字アプリを拡大してなぞったり、異同を判断するゲームをしたりすることで、漢字の学習への意欲が高まっている。 ・計算は、判別しやすいしっかりとした文字を書くことを心がけさせることで、数字の書き間違い等は減っている。 ・器械運動、マットへの自信が高まり、積極的に体を動かす機会が増えている。 ・時間はかかるが一つ一つの作業を丁寧に取り組もうとする気持ちが強い。	・ルーペの使用方法の習熟が必要である。 ・漢字の学習では、特に画数の多い漢字の習得に時間がかかる。 ・絵を描く学習では、対象（「全体」と「部分」）をしっかりとらえさせるために、十分な時間を確保する必要がある。 ・注視する時間が長くなると大変疲れやすい。

＜家庭での困難な点＞

・出生時に未熟児網膜症の診断を○○大学病院眼科で受ける。その後、３か月に1回定期受診中。同時に盲学校教育相談を紹介される。4歳からは地元の保育園にも通園しながら、月２回、盲学校幼稚部で指導を受ける。
・体調や環境により見え方がかなり違う。体調管理や環境調整に心がけている。

＜検査結果＞

検査名	視力検査	検査名	視力検査
実施機関	○○眼科	実施機関	盲学校
実施日	平成○年○月○日	実施日	
結果	近距離視力：右0.04 左 0.07 両0.06 遠距離視力：右0.08 左 0.08 両 0.1 矯正視力：右0.07 左0.15	結果	最大視認力　Max：0.3（左,5cm）
資料等	□ 有り　■ 無し	資料等	□ 有り　■ 無し

関係機関に関する情報

機関名	担当者	期間	主な支援内容・助言内容　等
○○眼科	○○（医師）	○年○月○日～現在	・かかりつけ医
△△市障害福祉課	○○（担当者）	○年○月○日	・身体障害者手帳の交付 ・視覚補助具購入に関する相談
盲学校	○○（主幹教諭）	○年○月○日～現在	・就学に関する相談 ・家庭での養育に関する相談 ・視力検査
○○教育センター	○○（指導主事）	○年○月○日～現在	・学校における学習上、生活上の困難の改善・克服に関する助言

支援の評価

＜長期目標＞	＜年度末評価＞
・単眼鏡やルーペの使い方の習熟・活用を図り、視経験を広げたり、学習内容の理解を深める。	・長期目標については、本児の達成状況から見て妥当であった。今年度身に付けた力を基盤にした、更なるスキルの向上や学習場面での活用が望まれる。 ・近距離の見方、ルーペを使用した見方に重点を置く。
＜必要な配慮・支援＞	＜年度末評価＞
・楽しく見る経験を積み重ねることで、見る意欲を育むようにする。 ・単眼鏡やルーペを使って板書を写したりプリント等を見たりする学習に取り組ませ、その習熟を図る。 ・交流学級と連携し、弱視レンズを活用しやすくするための環境整備や配慮等を行う。 ・全教科にわたって、拡大教科書を使用する。	・最適文字サイズについては、18p→２０ｐに拡大したほうが読速度の数値が良いようだ。プリント等の文字サイズを拡大する方向で検討する。 ・拡大教科書については、次年度も引き続き使用。

以上の情報を引き継ぐことに同意しました。

平成　　年　　月　　日　　保護者氏名　　印

事例　８

難聴学級

＜小学校３年・知的障害なし＞

秘

プロフィール票

作成日（　　年　　月　　日）

本人に関する情報	氏名	おおむら　はなこ 大村　花子	性別	女	生年月日	平成　　年　　月　　日　生		才
	園・学校名	○○小学校			学年等	３年		
	学級等	□ 通常の学級　□ 通級の理由　障害種別				■ 特別支援学級　障害種別　　聴特		
	気の状況 障害・病	診断名	感音性難聴（中等度難聴）					
		手帳の取得状況	身体障害者　　手帳	等級	６級（　）	手帳	等級	
	教育歴	幼稚園・保育所等	○○幼稚園					
		小学校	○○小学校入学					
		中学校						
		高等学校						

家庭に関する情報	住所	〒	家族構成		
			続柄	氏名	備考
			父	大村○○	
	連絡先	☎	母	大村○○	
		☎	妹	大村○○	○○小学校１年
	備考				

実施日	相談先	担当者	形態	相談内容
○年○月○日	ろう学校	○○	乳幼児教育相談	両親支援、聴覚管理、言語指導（0～2歳　週1回）
○年○月○日	ろう学校	○○	来所相談	聴覚管理、聴覚・言語に関する支援（3～5歳　月2回）
○年○月○日	ろう学校	○○	来所相談	聴覚管理、聴覚・言語に関する支援（月1回）

教育相談に関する情報

秘

個別の教育支援計画

氏名	大村　花子	主な記載者（本人との関係）	○○（担任）	年　月　日作成

本人に関する情報

願い

＜本　人＞

・友達と一緒に楽しく勉強したり遊んだりしたい。

＜保護者＞

・自分から友達へ話しかけるようになってほしい。
・言葉の力を伸ばして学力をつけてほしい。

主な実態

＜学習上・生活上について＞

得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
・学習に意欲的に取り組むことができる。 ・漢字をよく覚え、丁寧に書く。 ・主述の関係を読み取ることができる。 ・出来事の順序に沿って作文することができる。 ・算数の文章題を読んで図で表すことができる。 ・担任には自分から話しかけ、経験したことを身振りも交えながら詳しく話そうとする。 ・補聴器の管理が自分でできる。（電池交換・ケース保管等）	・集団での会話では、話題を理解することが難しい。 ・交流学級では自分から友達に話しかけることがない。 ・身近なニュースや流行を知らないことがある。 ・経験したことを的確な言葉で表現したり、詳しく話したりすることが難しい場合がある。 ・場面の情景をイメージしたり、具体的に文章表現されていない登場人物の心情を読み取ったりすることが難しい。 ・形容詞や副詞を用いて話したり書いたりすることが少ない。 ・複雑なリズムを覚えるのに時間がかかる。 ・サ行、ハ行、ラ行、拗音の発音が苦手。

＜家庭での困難な点＞

・本を読んだりテレビを見たりなど、何かに集中していると、話しかけても気付かない。
・家族以外の人に話しかけられると、母親に視線を向ける。自分から答えようとしたり、聞き取れなかったことを再度尋ねようとしたりしない。

＜検査結果＞

検査名	絵画語彙検査（PVT-R）	検査名	聴力検査
実施機関	○○病院	実施機関	○○病院
実施日	平成○年○月○日	実施日	平成○年○月○日
結果	６才９ヶ月	結果	裸耳聴力　右：７５dB　左：７２dB 補聴聴力　３５dB
資料等	□ 有り　■ 無し	資料等	■ 有り　□ 無し

関係機関に関する情報

機関名	担当者	期間	主な支援内容・助言内容　等
○○病院	○○（医師）	○年○月○日～現在	・かかりつけ医 ・聴力検査　・補聴器の調整（oticonC100）
○○病院	○○（ST）	○年○月より月１回受診	・言語療法（語彙力を高めるための支援）
ろう学校	○○（教員）	○年○月より月１回教育相談	検査（３音節了解度、発音明瞭度、読書力診断検査） ・言葉の聞き取りと理解の指導　・文法指導

支援の方向性

＜長期目標＞

・友達の話を理解し、自分の考えたことを伝えることができる。
・聞き取れなかった時に「もう一度言って」「少しゆっくり話して」などと依頼ができる。
・経験に基づく語彙や言い回し、学習に必要な用語を覚える。

＜必要な配慮・支援＞

・新しい単元の学習が始まる前に、その単元で取り扱う内容に関する知識や新出の学習用語の意味について確認する。
・体験や本人の思いに沿って言葉を扱い、口声模倣を促したり、日記を書くことを通して表現させたりする。
・交流学級で授業を受ける際は、特別支援学級の担任ができるだけＴ・Ｔで支援する。
・同学年の児童に本人の聞こえについて説明し、望ましい関わり方を知らせる。

以上の情報を関係機関と共有することに同意しました。

平成　　年　　月　　日　　保護者氏名　　印

㊙ 個別の指導計画（１学期）

学校名	○○小学校	学年	３年	氏名	大村　花子

	得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
学習上・生活上の主な実態について	・学習に意欲的に取り組むことができる。 ・漢字をよく覚え、丁寧に書く。 ・主述の関係を読み取ることができる。 ・出来事の順序に沿って作文することができる。 ・算数の文章題を読んで図で表すことができる。 ・担任には自分から話しかけ、経験したことを身振りも交えながら詳しく話そうとする。 ・補聴器の管理が自分でできる。（電池交換・ケース保管等）	・集団での会話では、話題を理解することが難しい。 ・交流学級では自分から友達に話しかけることがない。 ・身近なニュースや流行を知らないことがある。 ・経験したことを的確な言葉で表現したり、詳しく話したりすることが難しい場合がある。 ・場面の情景をイメージしたり、具体的に文章表現されていない登場人物の心情を読み取ったりすることが難しい。 ・形容詞や副詞を用いて話したり書いたりすることが少ない。 ・複雑なリズムを覚えるのに時間がかかる。 ・サ行、ハ行、ラ行、拗音の発音が苦手。

〈教科等について〉

各教科等における配慮事項等	・交流学級や運動場、体育館、校外等での学習では補聴援助システムを使用する。 ・言葉や文法の誤りは個別に指導する。 ・家庭学習で次の日の学習予定の部分を教科書で確認し、学習内容の概要をつかんでおく。 ・新しい単元の学習が始まる前に、その単元で取り扱う内容についての知識が身についているか確認する。 ・新出の学習用語は事前に意味を確認する。 ・視覚的な情報（絵、図、文字等）を適宜活用する。 ・児童の発表内容を教師が復唱したり、ノートテイクしたりする。 ・動画を再生する時は字幕を表示する。 ・交流学級で授業を受ける際は、特別支援学級担任ができるだけＴ・Ｔで支援する。

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
自立活動	【年間目標】 ・使用頻度の高い動詞を覚える。 ・形容詞（様子・気持ち）を用いて話したり書いたりできる。 ・サ行音を単音で発音できる。 ・話を聞き取って要点が分かる。 【短期目標】 ・経験に即した動詞を覚える。 ・基本的な形容詞の意味を覚える。 ・サ行の舌の位置と息の出し方を覚える。 ・短い文を正しく復唱する。	・言葉絵辞典の形容詞の理解度をチェックし、知らない形容詞について、日常会話の中で本人の気持ちや場面状況に応じて用いる。 ・動詞や形容詞を用いて作文し、暗記させる。作文したプリントはカテゴリー別にファイルして復習に用いる。 ・日記の文の意味に合う動詞や形容詞を用いて書き直したものを暗記させる。 ・ストロー法でサ行音の舌の位置と息の出し方を覚えさせ、「さ」を誘導する。 ・文の意味も理解できているかを確認するため、聞き取った文に関する質問をする。 ・聞き取れなかった時は「もう一度言ってください」と言うように促す。	○	・教科書の文で頻度の高い形容詞でも知らないものがあった。（恐ろしい、珍しい等） ・覚えた動詞や形容詞を日記で用いたり、日常会話で用いたりする様子が見られた。 ・動詞３０語、形容詞２５語について言葉と絵をマッチングできた。 ・サ行音の舌の位置と息の出し方を覚え、ストローなしでも「さ」と「せ」を単音で明瞭に発音できた。「し」は「静かにするときの『シー』だよ」と説明すると舌の位置と息の出し方を理解し、発音できた。 ・『どんな○○ですか？」の発問にも答えることができた。
国語 小学３年 特別支援学級又は交流学級	・当該学年に同じ。	・読解の単元は教材文の概要を個別指導で理解させてから交流学級で学習させる。 ・話し合いの内容の概要を確認してからグループ学習に参加させる。	○	・友達の話す内容はほぼ理解できていたが、自分から質問することはなかった。 ・友達に指名されてから発言することはあった。
算数 小学３年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・新出の算数用語や考え方を示した図、計算の方法は教室側面に掲示していつでも確認できるようにする。 ・体育の１００m走や社会の校外学習等、距離を体感できる学習で単位を扱う。	○	・等分除と包含除の違いの理解が不十分である。 ・資料から数値を整理して棒グラフに表すことはできた。２次元表の読み方は繰り返し説明が必要だった。 ・㎞を用いる距離を感覚的につかめず、mと混同することがあった。

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
理科 小学３年 交流学級	・当該学年に同じ。	・各教科等における配慮事項等に同じ。	○	・観察や実験に意欲的に取り組んだが、結果から分かることを自分で考えて発表したり記述したりすることは難しい。 ・「葉っぱ」（幼児的な表現）を「葉」と変えることが難しい。また「くき」「根」という言葉を知らなかった。
社会 小学３年 交流学級	・当該学年に同じ。	・地図を持ち帰り、家族で出かけた場所や名称、移動時間等を確認してもらう。	○	・グループでの絵地図作りでは自分から鉄道やバスの経路を書き込むことを希望して担当した。 ・公共の施設の名称や機能についての知識が少なく、後日図書室で調べて確認したり、保護者と実際に公共施設を利用してもらったりした。
音楽 小学３年 交流学級	・当該学年に同じ。	・今学期に歌う曲は事前にCDに録音して渡し、節や歌詞の内容を掴ませておく。 ・一斉指導の際は、本人のリコーダーの音を補聴援助システムの送信マイクで拾って聞かせる。	△	・自分のリコーダーの音を周りの音から抽出して聞くことができにくく、自分がどれくらいの音量で吹いているか、どのような音質か、息の量は適当かを判断しながら演奏することは難しかった。
図画工作 小学３年 交流学級	・当該学年に同じ。	・何を表現するか本人が具体的なイメージを持てない場合は、好きなもの（動物・植物・物語等）を想起できるよう話し合ったり、本を見たり、友達の製作の様子を参考にさせたりする。	○	・材料の形から、立体的に製作することは苦手で、動物を１体作る程度だったが、絵の具で自由な線や点を描いているうちに「雲の上の天気の神様がいたずらして・・・」と自分で物語を発想して１場面の絵に仕上げることができた。 ・「パレット」「水入れ」を覚えていなかった。
体育 小学３年 交流学級	・当該学年に同じ。	・具体的な動きは手本を示し、十分理解してから活動できるようにする。	○	・平均台の上を色々な姿勢で渡ったり、ケンケン相撲をしたりするとき等、バランスを崩しやすかった。 ・友達と協力して用具を出し入れする様子が見られた。 ・合図に気づかず、行動がワンテンポずれることがあった。
道徳 小学３年 交流学級	・当該学年に同じ。	・事前に教材文を読ませ、似たような経験や思いをしたことがあるか、本人にあらかじめ考えさせておく。	◎	・友達から親切にしてもらって嬉しかった経験を発表することができた。友達からも本人の「優しいところ」を発表してもらい、交流学級での所属感を感じることができた様子だった。
総合的な学習の時間 小学３年 交流学級	・自分の町の歴史や特色を知り、郷土を愛する意識をもつ。	・事前にメモを取る練習と、インタビューの練習をしておく。	◎	・友達がインタビューをしている時、「もう一回言ってください」と依頼している様子を見て、自分がインタビューする時、聞き取れなかったところをもう一度尋ねる様子が見られた。
特別活動 小学３年 交流学級	・当該学年に同じ。	・協力して行う係を担当させる。 （学級文庫係で友達と話し合って借りる本を選んだり、借りた本を返したりする。）	○	・仕事は協力して行うことができたが、同じ係の友達に促されたり、指示されたりすることも多かった。

保護者面談・校内支援委員会等の記録		
日時	参加者	協議（・）・合意内容（○）
Ｈ　年　月　日 ：　～　：	保護者・担任・特ＣＯ・教頭	・個別の教育支援計画の今年度の目標と支援の内容について ○記載のとおり。
Ｈ　年　月　日 ：　～　：	保護者・担任・特ＣＯ・教頭	・個別の教育支援計画の目標と支援の内容について（中間評価） ○学習の基礎・基本を十分に理解できるように、交流学級で学習するか、特別支援学級で学習するかを柔軟に対応する。
Ｈ　年　月　日 ：　～　：		

秘

個別の教育支援計画（引継ぎ書）

氏名	大村　花子	主な記載者（本人との関係）	○○（担任）	年　月　日作成

本人に関する情報

願い

＜本　人＞

・友達と一緒に楽しく勉強したり遊んだりしたい。

＜保護者＞

・自分から友達へ話しかけるようになってほしい。
・言葉の力を伸ばして学力をつけてほしい。

主な実態

＜学習上・生活上について＞

得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
・学習に意欲的に取り組むことができる。 ・当該学年の漢字は９０％覚えて読み書きできる。 ・出来事の順序に沿って作文することができる。 ・基本的な形容詞を用いて様子や気持ちを表現することができつつある。 ・算数の文章題を読んで図に表すことができる。 ・担任には自分から話しかけ、経験したことを言葉に身振りを加えながら詳しく話そうとする。 ・サ行音、ハ行音を単音で明瞭に発音することができつつある。 ・補聴器の管理が自分でできる。（電池交換・ケース保管等）	・集団での会話では、話題に沿って発言することが難しい。 ・交流学級では自分から話しかけることが少ない。 ・経験したことを詳しく話すことが難しい場合がある。（複数の人物のかかわりについて話す等） ・場面の情景をイメージしたり、具体的に文章表現されていない登場人物の心情を読み取ったりすることが難しい。 ・慣用句の用法を理解できていない。 ・複雑なリズムを覚えるのに時間がかかる。 ・ラ行音、拗音の発音が苦手である。

＜家庭での困難な点＞

・本を読んだりテレビを見たりなど、何かに集中していると、話しかけても気付かない。
・家族以外の人に話しかけられると、母親に視線を向ける。自分から答えようとしたり、聞き取れなかったことを再度尋ねようとしたりしない。

＜検査結果＞

検査名	絵画語彙検査（PVT-R）	検査名	聴力検査
実施機関	○○病院	実施機関	○○病院
実施日	平成○年○月○日	実施日	平成○年○月○日
結果	６才９ヶ月	結果	裸耳聴力　右：７５dB　左：７０dB
資料等	□ 有り　■ 無し	資料等	■ 有り　□ 無し

関係機関に関する情報

機関名	担当者	期間	主な支援内容・助言内容　等
○○病院	○○（医師）	○年○月○日～現在	・かかりつけ医 ・聴力検査　・補聴器の調整（oticonC100）
○○病院	○○（ST）	○年○月より月１回受診	・言語療法（語彙力を高めるための支援）
ろう学校	○○（教員）	○年○月より月１回教育相談	検査（３音節了解度、発音明瞭度、読書力診断検査） ・言葉の聞き取りと理解の指導　・文法指導

支援の評価

＜長期目標＞

・友達の話を理解し、自分の考えたことを伝えることができる。
・聞き取れなかった時に「もう一度言って」「少しゆっくり話して」などと依頼ができる。
・経験に基づく語彙や言い回し、学習に必要な用語を覚える。

＜年度末評価＞

・友達と十分に伝え合うまでには至らなかったが、学習場面や係活動の場面で自分から話しかけたり、考えたことを発表したりする様子が見られるようになった。
・自分の行動や気持ちを的確な動詞や形容詞で表現することが増えた。（語彙チェック　動詞○○語、形容詞○○語）

＜必要な配慮・支援＞

・新しい単元の学習が始まる前に、その単元で取り扱う内容に関する知識や新出の学習用語の意味について確認する。
・体験や本人の思いに沿って言葉を扱い、口声模倣を促したり、日記を書くことを通して表現させたりする。
・交流学級で授業を受ける際は、特別支援学級の担任ができるだけＴ・Ｔで支援する。
・同学年の児童に本人の聞こえについて説明し、望ましい関わり方を知らせる。

＜年度末評価＞

・単元終了後のテストでは７０～８０点とり、基本的な内容は習得できたと思われる。
・本人に口声模倣を促した言葉を使って日記を書いてくるように促した。文字に表すので正確に覚えているか確認しやすく、聞き違っていた音や単語については自立活動の時間に聞き取り学習を行ったことで聞き分ける意識が育った。
・仲の良い数人の友達が、本人が注目してから話したり、本人が聞き逃して戸惑っている時に教えたりする様子が見られた。

以上の情報を引き継ぐことに同意しました。

平成　　年　　月　　日　　保護者氏名　　印

事例　９

病弱及び身体虚弱学級

＜中学校３年・知的障害なし＞

秘

プロフィール票

作成日（　　年　　月　　日）

本人に関する情報	氏名	おおむら　たろう 大村　太郎	性別	男	生年月日	平成　　年　　月　　日　生	才
	園・学校名	○○中学校			学年等	３年	
	学級等	□ 通常の学級　□ 通級の理由　障害種別				■ 特別支援学級　障害種別　　病特	
	気の状況 障害・病	診断名	慢性糸球体腎炎				
		手帳の取得状況	手帳	等級		手帳	等級
	教育歴	幼稚園・保育所等	○○幼稚園				
		小学校	○○小学校				
		中学校	○○中学校				
		高等学校					

家庭に関する情報	住所	〒	家族構成		
			続柄	氏名	備考
			父	大村　○○	
	連絡先	☎	母	大村　○○	
		☎	妹	大村　○○	○○小学校3年
	備考				

実施日	相談先	担当者	形態	相談内容
○年○月○日	市教委	○○	教育相談	病状に応じた学習の場について

教育相談に関する情報

秘

個別の教育支援計画

氏名	大村　太郎	主な記載者（本人との関係）	○○（担任）	年　　月　　日作成

本人に関する情報

願い

＜本　人＞

・高校に進学したい。

＜保護者＞

・高校に進学してほしい。
・自分の体調管理ができるようになってほしい。

主な実態

＜学習上・生活上について＞

得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
・細かい作業が得意で、模型を作ることが得意である。 ・スポーツに関するニュースに詳しい。 ・学年相応の計算や漢字、英単語はできている。 ・本を読むことが好きである。	・自分の体調よりも、したいことの方が優先し、つい、制限を越えて活動してしまうことがある。 ・校内での荷物の運搬等、他者に頼むことが出来ず、一人で運搬することがある。 ・入院していた時期があるため、学習していない単元がある。特に、数学と英語が苦手である。

＜家庭での困難な点＞

・うがいや手洗いは、声かけがないとしないことが多い。
・宿題の内容が難しいと感じたときに、途中であきらめてしまうことがある。
・自暴自棄になり、イライラして、母親に強い口調で暴言を吐くことがある。

＜検査結果＞

検査名		検査名	
実施機関		実施機関	
実施日		実施日	
結果		結果	
資料等	□ 有り　□ 無し	資料等	□ 有り　□ 無し

関係機関に関する情報

機関名	担当者	期間	主な支援内容・助言内容　等
○○医療センター	○○医師	H27年7月より 月に１回通院	治療、投薬、生活や学習上での留意点等 （H27.7.10～7.24　入院） （H27.11.12～11.25　入院）

支援の方向性

＜長期目標＞

・希望する高校進学に向け、基礎学力の定着を図る。
・自己の体調に応じて他者に支援を依頼することができる。

＜必要な配慮・支援＞

・服薬によって出血すると止まりにくいため、打撲やけがのないように活動させるが、制限しすぎることがないようにする。
・風邪等の感染症にかかると重症化しやすいため、うがいや手洗いの励行と流行している時期にはマスクを着用させる。
・自覚症状が少ないため、制限を越えた運動をしている場合には教師が声をかけ制限する。
・食事制限のある時期は、食事の内容や量について保護者と連絡をとる。
・自分の良さを認めたり、他者に支援を依頼したりできるようにする。
・体調が悪かったり、入院していたりしたことから生活の経験不足や学習の空白があることを意識して指導する。

以上の情報を関係機関と共有することに同意しました。

平成　　年　　月　　日　　保護者氏名　　印

㊙ 個別の指導計画（前期）

学校名	○○中学校	学年	３年	氏名	大村　太郎

学習上・生活上の主な実態について	得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
	・細かい作業が得意で、模型を作ることが得意である。 ・スポーツに関するニュースに詳しい。 ・学年相応の計算や漢字、英単語はできている。 ・本を読むことが好きである。	・自分の体調よりも、したいことの方が優先し、つい、制限を越えて活動してしまうことがある。 ・校内での荷物の運搬等、他者に頼むことが出来ず、一人で運搬することがある。 ・入院していた時期があるため、学習していない単元がある。特に、数学と英語が苦手である。

〈教科等について〉

各教科等における配慮事項等	・服薬によって出血すると止まりにくいため、打撲やけがのないように活動させるが、制限しすぎることがないようにする。 ・自覚症状が少ないため、制限を越えた運動をしている場合には教師が声をかけをする。 ・自分の良さを認めたり、他者に支援を依頼したりできるようにする。 ・体調が悪かったり、入院していたりしたことから生活の経験不足や学習の空白があることを意識して指導する。

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
自立活動	【年間目標】 ・自己の病状を理解し、体調管理を行う。 ・不安な気持ちを他者に伝えたり、必要に応じて他者に支援依頼をしたりする。 【短期目標】 ・自己の病状を自覚し、決められた活動や食事の量を守ることができる。	・自己の病状（どのような病気か、自分はどのような状態か、気をつけなければいけないことは何か等）について知っていることを書かせることで、本人の自己理解の程度を把握する。 ・病状や生活上の配慮点等に関する資料を提示し、自身の病気に対する知識を深めさせる。 ・病状について本人にどのように伝えてあり、どこまで伝えてよいか保護者に確認をとっておく。 ・保健体育の健康管理や栄養等に関して指導する教科担任とも情報を共有し、効果的に学ぶことができるようにする。 ・毎日、体調や気を付けなければいけないことを自分で記録ノートに書き、体調の変化に気を付けるようにする。また、自由欄を設け、本人の不安な気持ちや考えていることなどが書けるようにしておく。	○	・自分の病状や気を付けること等の理解はできているが、友達と一緒に活動しているときに、他の友達と同じように活動してしまうことがあった。体調を記録ノートに書かせることで意識を高める。 ・記録ノートの自由欄に、「他の友達と同じように活動できないときなどに友達からどのように見られるのか」「高校に進学できるのか」という不安を書いていることがあった。少しずつ、不安な気持ちを担任に伝えることができるようになっている。今後も、記録ノートを介して、担任との交流を深め、不安な気持ちを解消できるようにしていきたい。また、交流学級の担任ともさらに連携を図り、交流学級の友達へも支援の依頼ができるようにしていきたい。
数学 中学３年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・教科担任が指導する。 ・入院による未学習の内容を把握する。関連する内容の授業の前に、未学習の内容を学習してから、当該学年の内容が理解できるようにする。	◎	・未学習の内容を学習した後、当該学年の内容を学習することで、スムーズに理解することができた。後期も、未学習の内容と関連する内容があるため、引き続き指導したい。
外国語 中学３年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・教科担任が指導する。 ・入院による未学習の内容を把握する。関連する内容の授業の前に、未学習の内容を学習してから、当該学年の内容が理解できるようにする。	◎	・未学習の内容を学習した後、当該学年の内容を学習することで、スムーズに理解することができた。 ・学習意欲が高く、習得状況も良好で、ほぼ未学習の内容を履修できたが、学習内容の定着のために後期も個別指導を行う。
保健体育 中学３年 交流学級	・当該学年に同じ。	・内容に関する一部の事項を取り扱わない。 ・体育分野では、１００メートル走など、運動量の多い活動を行う場合は、タイムを計る等の活動を準備する。 ・体育祭前など、長時間に渡り外で学習する際には、適宜、休憩を取りながら参加する。 ・保健分野では、健康な生活と疾病の予防等の内容を学習する際は、個人情報に配慮しながら、自立活動との関連を考え、自己の生活管理に対する意識が高まるよう指導する。	◎	・体育祭前に１００メートル走を繰り返し行うことがあったが、ゴールテープやタイムを計る役割を担当し、友達を励ましながら参加していた。後期は、球技や持久走等、運動量が多い学習が多いため、参加する活動量を決め、少しでも他の生徒と同じように学習できるようにする。 ・保健分野の学習プリントの感想欄に、自己の健康に関することや健康の維持管理について前向きな感想が書かれており、意識を高めることができた。

国語 中学３年 交流学級	・当該学年に同じ。	・活動内容と体調管理との関連を図りながら、必要に応じて担任が支援する。	◎	・読書が好きで、評価テストや漢字の習得状況も良好であった。
社会 中学３年 交流学級	・当該学年に同じ。	・活動内容と体調管理との関連を図りながら、必要に応じて担任が支援する。	◎	・入院のために未学習の単元は、学習プリントを使い補充を行った。関心・意欲が高く、評価テストでは９割以上の得点を得ている。
理科 中学３年 交流学級	・当該学年に同じ。	・活動内容と体調管理との関連を図りながら、必要に応じて担任が支援する。	◎	・入院のために未学習の単元は、学習プリントを使い補充を行った。 ・評価テストで、８割以上の得点を得ている。
音楽 中学３年 交流学級	・当該学年に同じ。	・各教科等における配慮事項等に同じ。	◎	・特記事項なし。
美術 中学３年 交流学級	・当該学年に同じ。	・各教科等における配慮事項等に同じ。	◎	・特記事項なし。
技術・家庭 中学３年 交流学級	・当該学年に同じ。	・各教科等における配慮事項等に同じ。	◎	・特記事項なし。
道徳 中学３年 交流学級	・当該学年に同じ。	・各教科等における配慮事項等に同じ。	◎	・特記事項なし。
総合的な学習の時間 中学３年 交流学級	・当該学年に同じ。	・各教科等における配慮事項等に同じ。	◎	・特記事項なし。
特別活動 中学３年 交流学級	・当該学年に同じ。	・各教科等における配慮事項等に同じ。	◎	・特記事項なし。

保護者面談・校内支援委員会等の記録		
日時	参加者	協議（・）・合意内容（〇）
Ｈ　年　月　日 ：　～：	教頭、学年主任、担任、ＣＯ、養護教諭、給食栄養士、保護者	・病状について ・学習空白に対する配慮、運動制限、食事制限があるときの配慮 〇苦手である数学と英語については、特別支援学級で学習し、学習空白の期間で十分に習得していない学習内容も含めて指導を行う。 〇運動制限があるときには、家庭より学校へ連絡し、体育の時間は、無理のない程度に参加できるようにする。また、友達同士で活動しているときには、つい、動きすぎることがあるため、気付いた職員が声をかける。 〇食事制限があるときには、塩分やたんぱく質の量を制限する必要があるため、給食は、味付けを工夫したり、代替食品等を活用する。また、家庭科の調理実習等、食品を扱う学習をする際には、自分が試食するのではなく、班の代表が試食し、感想を伝える等の配慮をする。
Ｈ　年　月　日 ：～：	全職員	・合意形成した内容を全職員へ伝えた 〇高校進学を目指し、数学と英語については、特別支援学級で指導を行い、その他の教科については、交流学級で指導を行う。 〇運動制限や食事制限が必要な時には、保護者からの連絡を朝の学年の打ち合わせの際に報告し、共通理解を図る。
Ｈ　年　月　日 ：～：	学年主任、担任、ＣＯ、保護者	・個別の教育支援計画、個別の指導計画（前期分）を保護者に提案 〇提案した通りの内容で合意。
Ｈ　年　月　日 ：～：	学年主任、担任、ＣＯ、保護者	・個別の指導計画（前期分）の評価を保護者に提案 〇提案した通りの内容で合意。

秘

個別の教育支援計画（引継ぎ書）

氏名	大村　太郎	主な記載者（本人との関係）	○○（担任）	年　　月　　日作成

本人に関する情報

願い

＜本　人＞
・大学に行くことを目指して勉強をがんばりたい。
・自分の体調を理解してくれる友達をつくりたい。

＜保護者＞
・体調と相談しながらも、勉強をがんばり、大学に進学してほしい。
・自分の体調管理ができるようになってほしい。

主な実態

＜学習上・生活上について＞

得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
・細かい作業が得意で、模型を作ることが得意である。 ・スポーツに関するニュースに詳しい。 ・本を読むことが好きである。	・自分の体調を自覚し、したいことあっても自分で行動を制限できるようになったが、友達と一緒に楽しく活動するような場面では、制限を越えて活動してしまうことがある。 ・校内での荷物の運搬等、親しくなった友達ならば伝えることができるが、あまり関わりのない人に頼むことが出来ず、一人で運搬することがある。

＜家庭での困難な点＞
・うがいや手洗いを面倒くさがり、声かけがないとしないことが多い。
・時々、宿題の内容が難しく、最後まで終わらせられない時がある。
・時々、自暴自棄になり、イライラして、母親に強い口調で暴言を言うことがある。

＜検査結果＞

検査名		検査名	
実施機関		実施機関	
実施日		実施日	
結果		結果	
資料等	□ 有り　□ 無し	資料等	□ 有り　□ 無し

関係機関に関する情報

機関名	担当者	期間	主な支援内容・助言内容　等
○○医療センター	○○医師	H27年7月より月に１回通院	治療、投薬、生活や学習上での留意点等 （H27.7.10～7.24　入院） （H27.11.12～11.25　入院）

支援の評価

＜長期目標＞	＜年度末評価＞
・希望する高校進学に向け、基礎学力の定着を図る。 ・自己の体調に応じて他者に支援を依頼することができる。	・数学や英語についても学力が向上し、希望する高校の受検に向けて、さらに学習意欲が高まった。 ・慣れた環境であれば他者に支援を依頼できた。
＜必要な配慮・支援＞	＜年度末評価＞
・服薬によって出血すると止まりにくいため、打撲やけがのないように活動させるが、制限しすぎることがないようにする。 ・風邪等の感染症にかかると重症化しやすいため、うがいや手洗いの励行と流行している時期にはマスクを着用させる。 ・自覚症状が少ないため、制限を越えた運動をしている場合には声をかけ制限する。 ・食事制限のある時期は、食事の内容や量について保護者と連絡をとる。 ・自分の良さを認めたり、他者に支援を依頼したりできるようにする。	・全職員で共通理解を年度初めに行っていたため、体育祭や校外学習等、担任や学年団以外の教師が関わる場面においても、体調面・心理面に配慮した指導を行うことができた。 ・慣れた環境であれば、体調のことや不安な気持ちを教師や友達に相談できるようになり、自分で体調管理をできるようになってきた。しかし、新しい環境では不安な気持ちが強く、支援を依頼できない可能性がある。まずは、教師との信頼関係を築き、徐々に、友達にも不安な気持ちが相談できるようにしていく必要がある。

以上の情報を引き継ぐことに同意しました。

平成　　年　　月　　日　　保護者氏名　　印

事例　１０

言語障害学級

＜中学校１年
（一部下学年代替の教育課程）＞

秘

プロフィール票

作成日（H　　年　　月　　日）

本人に関する情報	氏名	おおむら　たろう 大村　太郎	性別	男	生年月日	平成　　年　　月　　日　生	才
	園・学校名	○○中学校			学年等	１年	
	学級等	□ 通常の学級　□ 通級の理由　障害種別			■ 特別支援学級　障害種別　言特		
	気の障害・病状	診断名	機能性構音障害　軽度知的障害				
		手帳の取得状況	療育　手帳	等級	Ｂ２	手帳	等級
	教育歴	幼稚園・保育所等	○○幼稚園				
		小学校	○○小学校入学				
		中学校	○○中学校入学				
		高等学校					

家庭に関する情報	住所	〒	家族構成		
			続柄	氏名	備考
			父	大村○○	
	連絡先	☎	母	大村○○	
		☎	妹	大村○○	○○小学校１年
	備考				

教育相談に関する情報	実施日	相談先	担当者	形態	相談内容
	○年○月○日	○○特別支援学校	○○	地域支援	特別支援学級における自立活動の指導について
	○年○月○日	教育センター	○○	訪問支援	特別支援学級の学級経営・教育課程

秘

個別の教育支援計画

氏名	大村　太郎	主な記載者（本人との関係）	○○（担任）	年　月　日作成

本人に関する情報

願い

＜本　人＞

・友達に上手に話ができるようになりたい。

＜保護者＞

・はっきり発音できるようになってほしい。
・学習の基礎的な内容を理解できるようになってほしい。

主な実態

＜学習上・生活上について＞

得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
・話すことは好きで、担任とは前日の出来事やテレビ番組の内容について話すことを楽しんでいる。 ・学習内容に関心を持って参加し、課題にも意欲的に取り組む。分からないことがあると質問してくる。 ・反復学習を行うことで基礎的な内容が定着する。 ・日常の体験に基づいて具体的なイメージを持たせると理解しやすい。 ・漫画を好んで読む。 ・家庭学習は毎日全部済ませて提出する。 ・交流学級で元気のない友達を見ると、心配になり、特別支援学級の担任に「どうしたのかな」と伝えることがある。	・交流学級では、ほとんど話さない。（返事・挨拶程度。促されると単語で応える） ・カ行音、サ行音、ラ行音が不明瞭で、日常会話でも聞き取りにくい事が多い。 ・漢字を覚えることが苦手。 ・複雑な文章の読解が苦手で、作文は事実の羅列になる。 ・算数の単位の換算や比例等抽象的な学習内容は理解が難しい。

＜家庭での困難な点＞

・発音が不明瞭で母親以外の家族も聞き取りにくいことがある。
・休日に友達と遊ぶことがほとんどない。
・学習が今後ますます難しくなってくるのではないかと心配。

＜検査結果＞

検査名	絵画語彙検査（ＰＶＴ－Ｒ）	検査名	構音検査
実施機関	○○病院	実施機関	○○病院
実施日	平成○年○月○日	実施日	平成○年○月○日
結果	○才○か月	結果	カ行→タ行　サ行→タ行　ザ行→ダ行　ラ行→ダ行
資料等	□ 有り　■ 無し	資料等	■ 有り　□ 無し

関係機関に関する情報

機関名	担当者	期間	主な支援内容・助言内容　等
○○病院	○○（医師）	○年○月○日～現在	・かかりつけ医
○○病院	○○（ＳＴ）	○年○月より３か月１回受診	・言語療法（発音の明瞭度の確認と語彙の拡充）

支援の方向性

＜長期目標＞

・カ行音、サ行音の発音の要領をつかみ、単語で明瞭に発音できる。
・話が伝わらない場合は他の方法で伝えられるようになる。
・基礎的な学習内容を定着させる。

＜必要な配慮・支援＞

・カ行音、サ行音の発音練習を継続して行う。
・話し言葉だけでは伝わりにくい場合に筆談等の補って伝える方法を身に付ける。
・交流学級の生徒にコミュニケーションの方法について知らせ、本人が安心して関われるようにする。
・基礎的な学習内容を反復して学習することを通して理解を促す。

以上の情報を関係機関と共有することに同意しました。

平成　　年　　月　　日　　保護者氏名　　印

㊙ 個別の指導計画（１学期）

学校名	○○中学校	学年	１年	氏名	大村　太郎

	得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
学習上・生活上の主な実態について	・話すことは好きで、担任とは前日の出来事やテレビ番組の内容について話すことを楽しんでいる。 ・学習内容に関心を持って参加し、課題にも意欲的に取り組む。分からないことがあると質問してくる。 ・反復学習を行うことで基礎的な内容が定着する。 ・日常の体験に基づいて具体的なイメージを持たせると理解しやすい。 ・漫画を好んで読む。 ・家庭学習は毎日全部済ませて提出する。 ・交流学級で元気のない友達を見ると、心配になり、特別支援学級の担任に「どうしたのかな」と伝えることがある。	・交流学級では、ほとんど話さない。（返事・挨拶程度。促されると単語で応える） ・カ行音、サ行音、ラ行音が不明瞭で、日常会話でも聞き取りにくい事が多い。 ・漢字を覚えることが苦手。 ・複雑な文章の読解が苦手で、作文は事実の羅列になる。 ・算数の単位の換算や比例等抽象的な学習内容は理解が難しい。

〈教科等について〉

各教科等における配慮事項等	・基本的な内容を取り扱った後、類似問題に繰り返し取り組ませることで十分に理解できるようにする。 ・言葉のみでの理解が難しい場合は、内容を図や絵に表したり、具体物を提示したりして理解を促す。 ・学習用語は事前に扱う。また、用具等の名前は事前に確認し、覚えさせる。 ・グループ内で話し合う時間は全員が発言するルールで、本人も発言するよう促す。 ・交流学級で授業を受ける時は、特別支援学級担任ができるだけT・Tで支援する。

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
自立活動	【年間目標】 ・カ行音、サ行音を単語で明瞭に発音できる。 ・身近な人に話がうまく伝わらなかった時に書いて伝える事ができる。 【短期目標】 ・カ行音、サ行音の発音要領を身に付ける。 ・聴覚的な記銘力を向上させる。	＜カ行音の指導＞ ・スポイトで喉に少量の水を落としてうがい。 ・水なしでうがい音を出す（奥舌をあげる）。 ・「か」の単音の発音 ＜サ行音（さ・す・せ・そ）の指導＞ ・ストローを舌先と歯茎部で押さえて息を出す ・ストローを外して息を出す ・「さ」の単音の発音 ＜聞き分けの学習＞ ・カ行、サ行の音が入った単語の聞き分けメモしりとり ・言葉を書いたカードを並べてしりとり	○	・カ行音、サ行音とも発音の要領はつかめた。構音部位図で舌の位置を確かめて発音を促すと「か・く・こ」「さ・そ」は正しく発音できることが多かったが、「き・け」は「ち・ちぇ」への置換「す・せ」は「しゅ・しぇ」への置換がみられた。 ・音の聞き分けはS/N比（声と騒音のバランス）±０で正答率が７５％。音声への注意集中、音の図と地の弁別力に課題があると考えられる。 ・書いてやりとりするゲームでは、確実に伝わる良さを実感していた。拗音の「ゃ・ゅ・ょ」を大きく書いてしまう傾向がある。
国語 中学1年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・辞書を使って調べた言葉や言い回しを用いて例文を作り、自分の辞書を作成する。 ・教科書を音読する際は、カ行音やサ行音に気をつけて読むように促す。	△	・教科書の文中に本人が知らない単語や言い回しが多く、読み取りが十分にできない。 ・スピーチの構成を確認しながら一項目ずつ書くことで「好きなこと」に関するスピーチ内容をまとめることができた。
数学 小学５年 特別支援学級	・小学校第５学年に同じ。 （2学年下）	・新しい単元の内容や問題の解き方を示した図や計算方法等は教室側面に掲示し、いつでも確認できるようにする。	○	・繰り返し取り組むことで、位や小数点の移り方を「１００倍だから右に２つ」「１／１００だから左に２つ」と０の数に合わせて考えることが分かった。 ・直方体や立方体を平面の図に表しても分かりにくかったため実物で確認した。
理科 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・観察や実験等から考えられることはキーワードを与えて気付きを促す。	○	・実験や観察には意欲的に取り組んだ。分かったことをワークシートに文章の空欄にキーワードを書かせるようにした。それを読むことでグループ内で発表することができた。 ・６音節以上の用語を覚えるのが難しく、促音の位置を間違ったり、同母音の音が一音脱落することがあった。
社会 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・資料集の写真や図、グラフ等を電子黒板で提示して、必要な部分に注目できるようにする。 ・世界の地理に関心が持てるよう、ニュース等テレビ番組を話題として取り上げる。	△	・世界の地域の位置関係は覚えることができたが、地域名と国の名前を混同したり、緯度や経度、気候帯の理解が不十分だったりした。 ・小学校で学んだ日本の歴史上の人物の名前と肖像画は一致していたが、功績や建造物等と結び付けて覚えることは難しかった。

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
音楽 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・交流学級での一斉指導で声を出して歌えるように、特別支援学級で担任と毎朝歌い、歌うことに慣れさせる。	○	・歌詞を全部覚えると、小さな声であったが交流学級での授業で歌うことができた。 ・６音節以上の楽器の名前を覚えることが難しく促音の位置を間違ったり、連続する同母音の音が一音脱落すること等の様子が見られた。
美術 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・用具や技法について写真と文字で表したものを美術室の壁に掲示し、分からなかったときに自分で確認できるようにする。 ・体の動き、ポーズから状況や思いを感じ取らせる。	△	・小さくデッサンする傾向があるので、画用紙いっぱいに構図を考えるように促した。 ・混色する意識がないので、見たもののイメージを色で表現すること、混色の例を提示して参考にすることを指導した。
保健体育 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・競技のルールは毎回競技を始める前に確認する。 ・体操は一つ一つの動きを大きく丁寧にするように促す。	○	・体操では目で見えない後ろへ体幹をそらしたり頭上で手を動かしたりすることが難しい事がある。大きく動かすことを意識すると肘や膝、指先まで意識することができた。 ・競技のルールは繰り返し説明することで基本的な事柄は理解して参加できた。
技術・家庭 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・家庭での食事調べや給食の栄養調べなど、自分の食生活に結びつけて調べさせることで関心を高める。 ・材料について身の回りのどこにどのように使われているかを確認する。	◎	・必要な栄養素を学習することで、自分の栄養摂取を振り返りながら、足りない栄養（食材）を補って食べようという意識が出てきた。 ・材料の性質を詳しく学習することで用途についても理解することができた。
道徳 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・社会や理科で学習した事項と結び付けて、自然愛護や郷土の伝統や文化を学ぶことができるようにする。 ・交流学級での係活動に取り組ませることで、協力する意識や、自分から人と関わる機会を持たせる。	○	・学校生活上のルールについては理解しているが、「責任ある行動」「生活の向上」等の抽象的な表現では理解が難しかった。 ・郷土の誇れるもの（有名なもの）にちなんだご当地キャラクターを考える学習では友達の意見に同意するなど、意欲的にグループ活動に参加した。
外国語 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・形の似たアルファベットに気を付けて書くことを心がけさせる。	○	・繰り返しのある英語の歌を覚え、小さな声ではあるが、他の生徒と一緒に声を合わせて歌う様子が見られた。 ・５ミリ幅の罫線のノートに基本線を赤で示すと描きやすいようだった。
総合的な学習の時間 中学1年 特別支援学級及び交流学級	【年間目標】 ふるさとのよさに気づき、自然にふれあい、思いやりの心を培う。 【短期目標】 ・ふるさとの地域の特性に気づく。	・個別に学習テーマを決定する際は、特別支援学級で担任と話し合って決める。 ・グループ学習と全体学習は交流学級で活動する。	○	・自分と同じ個人テーマを設定している他の生徒と班を編成する際は、自分から班に参加し、自分が集めた地域に関する資料を示していた。 ・他の生徒からの質問に対して単語ではあるが、答える様子が見られた。
特別活動 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・慣れない集団での活動は、事前に場所、時間、内容等を説明して理解させておく。 ・係活動を分担し、他の生徒と協働できるようにする。	△	・遠足や歓迎集会等、活動するメンバーの入れ替わりがあると落ち着かず、担任が付き添い、今どのような活動（話し合い、ゲーム）をする時なのか説明する必要があった。 ・特別支援学級での係活動は進んでするが、交流学級の係活動は促されてから始めていた。

保護者面談・校内支援委員会等の記録		
日時	参加者	協議（・）・合意内容（○）
H　年　月　日 ：　～　：	保護者・教頭・担任・特ＣＯ	・今年度の個別の教育支援計画の長期目標と支援の内容について ○発音指導を継続すること。 ○発音が不明瞭で相手に意図が伝わらないときの代替手段を考えること。
H　年　月　日 ：　～　：		
H　年　月　日 ：　～　：		

秘

個別の教育支援計画（引継ぎ書）

氏名	大村　太郎	主な記載者（本人との関係）	○○（担任）	年　　月　　日作成

本人に関する情報

願い

＜本　人＞

・友達に上手に話ができるようになりたい。

＜保護者＞

・はっきり発音できるようになってほしい。
・学習の基礎的な内容を理解できるようになってほしい。

主な実態

＜学習上・生活上について＞

得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
・グループ学習の話し合いで、発言したことがうまく伝わらなかった時に単語を書いて伝えようとする様子が見られた。 ・学習内容に興味を持つと意欲的に取り組む。 ・反復学習を個別に行うことで基礎的な内容が身に付く。 ・家庭学習は毎日全部済ませて提出する。 ・係活動にはまじめに取り組む。	・理科や社会の学習で生活経験と結び付けて考えることが難しい内容は理解が進まなかった。 ・道徳は抽象的な事柄をイメージすることが難しい。 ・数学の単位の換算や比例、文字式等は理解が難しい。 ・交流学級では自分から積極的には話そうとしない。（返事、挨拶、促されて単語で答える程度） ・複雑な文章の読解が苦手である。 ・作文は事実の羅列になるので、本人から詳細を聞き出して内容を深める必要がある。 ・漢字の読み書きが苦手である。

＜家庭での困難な点＞

・発音が不明瞭で母親以外の家族も聞き取りにくいことがある。
・休日に友達と遊ぶことがほとんどない。
・学習が今後ますます難しくなってくるのではないかと心配。

＜検査結果＞

検査名	絵画語彙検査（ＰＶＴ－Ｒ）	検査名	構音検査
実施機関	○○病院	実施機関	○○病院
実施日	平成○年○月○日	実施日	
結果	○才○か月	結果	カ行→タ行　サ行→タ行　ザ行→ダ行　ラ行→ダ行
資料等	□ 有り　■ 無し	資料等	■ 有り　□ 無し

関係機関に関する情報

機関名	担当者	期間	主な支援内容・助言内容　等
○○病院	○○（医師）	○年○月○日～現在	・かかりつけ医
○○病院	○○（ＳＴ）	○年○月より３か月１回受診	・言語療法（発音の明瞭度の確認と語彙の拡充）

支援の評価

＜長期目標＞	＜年度末評価＞
・カ行音、サ行音の発音の要領をつかみ、単語で明瞭に発音できる。 ・話が伝わらない場合は他の方法で伝えられるようになる。 ・基礎的な学習内容を定着させる。	・カ行やサ行の発音要領は習得でき、語頭のカ行音やサ行音は正しく発音できることも増えた。語中、語尾の音については難しかった。 ・交流学級のみでの学習の理解が難しく、適宜個別に反復学習させて、定着を図った。
＜必要な配慮・支援＞	＜年度末評価＞
・カ行音、サ行音の発音練習を継続して行う。 ・話し言葉だけでは伝わりにくい場合に筆談等の補って伝える方法を身に付ける。 ・交流学級の生徒にコミュニケーションの方法について知らせ、本人が安心して関われるようにする。 ・基礎的な学習内容を反復して学習することを通して理解を促す。	○単音での発音要領は習得できるが、発語の明瞭度が向上しない ・引き続き発音学習は行っていく。 ・書いて伝えることの良さを本人が感じているので、確実に伝えるための手段について（筆記、タブレットの利用）本人と話し合いながら検討する。 ○学習の内容によっては特別支援学級で個別に指導する時間を設定するほうが理解が深まった。

以上の情報を引き継ぐことに同意しました。

平成　　年　　月　　日　　保護者氏名　　印

おわりに

インクルーシブ教育の理念を踏まえた特別支援教育の一層の充実が求められるなか、特別支援学級に在籍する児童生徒数が増加傾向にあり、小学校、中学校における「特別支援学級」は、多様な学びの場の一つとして、障害のある児童生徒一人一人に対するきめ細かな指導・支援を充実させていくことが大きな課題となっています。

障害のある児童生徒一人一人に対する指導・支援を充実させていくためには、子どもの実態を適切に把握し、具体的な目標や指導内容を設定して実践し評価改善していくことが重要なのは言うまでもありません。

本書を作成するに当たっては、特別支援学級の担任が、これまでの学習の履修と修得の状況を十分に踏まえながら、一貫した継続性のある指導・支援ができるようにと願い作成しました。子どもの発達段階や実態に応じたきめ細かな指導・支援がより一層適切なものになり、児童生徒が「わかった」「できた」という喜びを感じ、学習への意欲が高まり自己肯定感を高めて生き生きと学んでほしいとの願いを込めています。

本書では各障害種別の特別支援学級での様々なケースの事例を示していますが、今回提示した個別の教育支援計画及び個別の指導計画の様式はあくまでも一つの例です。現在、本県では、各地域に特別支援教育コーディネーター連絡協議会等を設置するなど、一人一人の教育的ニーズに応じた支援の体制づくりを目指しています。それぞれの学校や地域で工夫を加え、有効に活用できる個別の教育支援計画及び個別の指導計画になることを願っています。